法學士相良惟男著

世界產業制度論

東京 博文館藏版

明治
40 8 26
内交

自序

兵火の戰爭は、戰むことあらんも産業上平和の戰爭は瞬間も休止することなく、否寧ろ日を趁ひ月を重ねて益劇烈ならんとするの形勢なり。今や我か國は日清日露の二大戰役を經て兵力に於て世界を驚動せしめたり、必すや將に富力を以て宇內に雄視するの覺悟なかる可からざる也。

十八世紀の末葉英國に於て産業革命の運動開始せられてより世界の産業は滔々決河の勢を以て發達し、同時に社會上種々の紛糾したる問題を發生したり。膨大なる資本組織に伴ふ富豪の跋扈は、如何に之れを抑制すへきか、憐むへき勞働者の境遇は如何に之れを救濟すへきか、工場は如何に之れを取締るへきか、鐵道は如何に之れを經營すへきか、國家の産業に對する態度は如何に之れを決定すへきか、此等は皆文明諸國に於て社會上最も重要なる問題として討究せられつゝある所のものにして、我か國に於ても此等の問題につき現に識者の講究を促かしつゝあるもの甚多し。

於是吾人は産業上の要素を研究して古今東西の事例に鑑み如何に之れを利用すへ

きかを講究し、以て產業界に於ける根本的原理の利弊を闡明せんと欲す。然れとも此くの如きは固より容易の事業にあらず、隨て浩瀚なる著述を以てするも猶能く盡さゞるへきものあり、吾人は本書が內國に於ける產業問題の梗概を說明して聊讀者に稗益する所あらんを庶幾ふのみ、若し夫れ世界各地に於ける市場の開拓並人口の增加に伴ふ殖民の政策等對外發展の問題に關しては別に其の著あらんことを期す、以て序となす。

明治丙午歲季夏

於東武江戶河畔天川山僑居

著者識

世界產業制度論目次

緒論……一
第一編 沿革……八
第一章 汎論……八
第二章 漁獵時代……八
第三章 牧畜時代……一〇
第四章 農業時代……一五
第五章 手工業時代……一七
第六章 機械工業時代……二二
第一節 總論……二七
第二節 英國に於ける發達……二七
……二七
……四六

第三節 米國に於ける發達……七四
第四節 獨逸の勃興……一一三
第七章 結論……一四〇
第一節 產業發達の大勢……一四一
第二節 時代の區分……一四五
第二編 產業……一五四
第一章 原始的產業……一五四
第一節 農業……一五五
第一項 米國の農業……一五五
第二項 英國の農業……一六一
第三項 獨逸の農業……一六四
第二節 林業……一六六

第一項 諸國の現況……一六七
第二項 生產の方法……一六九
第三項 林政……一七二
第三節 鑛業……一七四
第一項 諸國の現況……一七四
第二項 生產の方法……一七七
第四節 漁業……一七九
第五節 事業經營上の大勢……一八一
第二章 運輸業……一八四
第一節 總論……一八四
第二節 鐵道事業……一八八
第三節 水運事業……一九七
第四節 結論……二〇五
第三章 製造業……二〇六

第一節 總論……二〇六
第二節 工場制度に依る生産の增加……二〇九
第三節 副産物の增加……二一七
第四節 製造業の分化……二一九
第五節 製造業の地方的發達……二二一
第六節 結論……二二八
第四章 産業組織……二三三
第一節 總論……二三三
第二節 資本組織……二三五
第一項 資本組織の形式……二三五
第二項 資本團體聯合の運動——獨占權……二四二
第三節 勞働組織……二五二
第一項 勞働組織の形式……二五二
第二項 勞働組織の運動……二五六

第五章 商業制度……二六〇
第一節 總論……二六一
第二節 販賣の機關……二六三
第三節 投機商……二六六
第四節 交換制度……二七二
第一項 財產上の權原を表示する機關……二七三
第二項 財產上の權原を移轉する機關……二七七
第五節 商業界の恐慌及び其の救濟策……二八三
第三編 産業行政……二八六
第一章 國家と産業……二八六
第一節 根本問題……二八七
第一項 産業組織の基礎……二八七
第二項 富の不平均……二八九

第三項 競爭制度……二九三
第四項 勞働問題……二九七
第二節 產業政策……三〇七
第一項 根本的觀念……三〇七
第二項 各種の政策……三一〇
第二章 干涉政策……三一五
第一節 緒 論……三一五
第二節 干涉權の活動……三二〇
第三章 法治政策……三二七
第一節 法治政策の根據……三二七
第二節 鐵道事業に關する法治政策……三三一
第三節 一般產業に關する法治政策……三三四
第四節 相續法規……三三八
第四章 國有政策……三四四

第一節 國有政策の淵源……三四四
第二節 國有政策の實行……三四八
第三節 鐵道國有政策……三五二
第一項 緒 論……三五二
第二項 諸國の實例……三五四
第三項 實驗に依る教訓……三五七
第四節 國有政策の利害……三五九
第五章 結 論……三六三

世界產業制度論目次 終

世界産業制度論

法學士　相良維男著

産業の意義——研究の範圍——産業制度の發達——近世の産業——現在及將來の趨勢——
産業と政治——本書の目的

緒論

社會は人類の集團にして固と一體なり、然れども之れが觀察の方面を異にするに從ひ其の研究の方向も亦自ら異らざるを得す、即ち或は政治の方面よりし、或は宗教の方面よりし、各其の研究の範圍を異にすること、恰も人間の體軀につき、或は神經系統よりし、或は消化機系統よりし、其の他種々の方面より研究をなし得るが如し。吾人は茲に産業上より觀たる社會の狀態を攻究せんとするに當り、先つ其の研究の範圍を明かにせざるべからざる也。

産業は即ち富の生産に關する事業にして之を學術的に定義すれば直接間接

に人の需要を充たすべき努力の總稱なり。産業を分て三種とす、一は自然の形體にあるものを産出する事業にして、農業、鑛業、林業及び漁業等之れに屬し、此等を總稱して原始的産業と云ふ、二は即ち製造業にして天然物に加工する事業は總て之れを包含するものとす、三は商業、運輸業等直接に物品を生産することなけれども其の所在を轉換して生産を容易ならしめ若くは生産の効果を完うするものにして、社會の進歩に伴ひ産業の一分科として發達したるものなり。

産業制度に關する研究は啻に生産の方法と産業の組織とを論ずるに止まらず進んで産業界に於ける人類相互の關係及び其安寧幸福に關することをも之を致究するものとす。故に其の研究は人類の先見勉強正直協同等に關することと及び私有財産、相續、契約に關する法制等、人の意思及び道德の範圍に及び頗る廣汎なるものなり、産業制度論と稱するを以て直ちに機械と工場とに關する研究なりとするが如きは即ち大に謬れり。

古來社會發達の大勢を通觀するに、單純なる狀態より複雜なる狀態に進歩するを以て自然の順序となす。之を産業社會の發達に就て觀察するに、古代の人

民は頗る單純なる生活をなし、狩獵時代に在ては全族を擧げて狩獵を事とし、遊牧時代に在ては全族を擧げて遊牧を業とするの有樣にして、且各人各個に自己の需要を充たしつゝあり。隨て人類相互の生活關係は孤立的にして、例へば部族の一部を喪ふことあるも毫も他に影響することなし。然るに開明の社會に於ては人類の生活狀態甚複雜となり、職業も亦分業的に發達して原始社會に於けるが如く各人各個に自己の需要を供給するが如きことなきのみならず、一個の職業に就ても種々の分業を生ずるに至る。隨て開明社會に於ける人類相互の關係は相關的にして互に相依り相助けて一つの社會を形造くるものとす、故に其の一部の事業に從事する者なしとすれば直ちに社會全體に至大の影響を及ぼすべし、例へば今日運輸業者を失はんか直ちに産業の發達を阻碍し延て各人の生活を困難ならしむるが如し。

産業界に於ける種々の運動は其の發達を資くるもの多けれども、時として其の衰頽を來すべき原因となるものなきにあらず、殊に軌近に於ける運動中或は常規を逸したる一時的の現象として之れを視るべきものあり。然れども産業

近世の産業

社會に於ける種々の運動は、産業發達の一階段にして、恰も大海に掉して千波萬波續いて臻り殆んと其の究まる所を知らざるが如く、舊制度の衰頽は即ち新制度の興隆を意味し、其の進歩は一瞬も息むときなく、其の發達は永く究極する所を知らざるなり。シェーフルが『地球にして吾人の生存に適する限り人類の退歩は到底之れを想像すべからず』と言ひたるは、蓋し何人も異議を挟まざる所なるべし。是れ即ち希臘は滅び羅馬は倒るゝも、其の文明は永く後世文化の淵源たることを得る所以なり。然れども時に汚隆あり物に盛衰ありて、社會も亦常に同一の歩調を以て進歩するものにあらず、最近一世紀間に於ける産業界の發達は、其の進歩の急速なる史上未曾有にして、眞に驚くべきものあり。

近世に於ける機械の發明及び改良は其生産力を増加し、生産の發達に隨て益機械の精巧ならんことを求め、機械と産業とは互に因果關係をなして發達しつゝあり。資本と産業との關係も亦之れと同しく、資本の蓄積せらるゝに隨て到る處に事業を求め、事業の發達に依て資本は益蓄積せられつゝあり。要之資本の蓄積と機械の生産力増加とは工場制度の改良及び大なる分業制度と相俟て益産業の盛大を致すものとす。此くの如く産業の發達するに隨ひ其の制度上紛糾したる種々の問題を發生し、産業上の要素の調和を得るものは益繁榮の域に向ひ、其の要素の調和を失するものは或は一時の恐慌を來し或は永久に國運の衰頽を招くに至る。是れ産業制度か今日の社會に甚重要なる所以なり。而して産業界に於ける競爭の劇甚なる、此等の諸要素をして日を逐ひ月を重ねて益膨脹發達せしめつゝあり、即ち事業の組織に就て之れを言へば、最初組合なりしものは會社となり、會社は復聯合してトラストを形成し、今日有利なる産業は皆驚くべき大規模を以て經營せらるゝに至れり。

現在及ひ將來の趨勢

一國の産業上此の如く大なる集中運動の行はるゝと倶に、一方に於ては、貿易に依て各國の間有無相補ふの形勢益增進しつゝあり。蓋し或る地方に適したる産業は其の地に於て著しく發達し、遂に或る地方の工場は總て一種類の貨物を産出するに至る。是に於てか一國の産業は舊時よりも一層密接の關係を生じて一つの聯合團體となり、原料の多寡及び輸送の便否に依て影響を受けつゝ國家的に發達するものとす。此くの如く一國の産業が其の長所に依て發達し、

遂に國家的分業の制度を見るに至るは將來の事に屬すれども、此の時期に到達するまで、吾人は世界の市場を支配せんが爲めに、政治上及び産業上絶えず競爭を繼續するの必要あり、隨て世界的市場の擴張せらるゝと同時に、外交問題は國民に取りて最も重要なる問題となること疑ふべからず。而も今日に於ては內國問題は猶對外問題よりも遙かに重要にして、一國民が世界市場の競爭者として存立し得るや否やを決する所以のものたり。

産業と政治

此の如く産業制度に關する研究は一國の存立發達に關係する重大なる問題にして、産業と政治とが甚密接なる關係を有する所以なり。今日列強の政治問題は、産業上の施設に關するもの多く、殊に對外交涉の問題に於て然りとす。隨て時代の變調たる戰爭の如きも多くは産業上の問題に原因して發生するを常とす、即ち往古野蠻の時代に於ては戰爭は單に掠奪的の目的を以て行はれたることありしが、社會の進歩するに隨て戰爭の目的は産業に關係するもの多く、中世紀に於ける十字軍の如き實業家の後援に依て起り遂に商權擴張の結果を來したるの例あり。殊に近世に至て殆んど總ての戰爭は一國の利權に關する問題に起因し、其の結果又一國の産業に長足の進歩を來したること多し、日清、日露兩戰役の如き能く此の間の消息を說明するに足れり。要之現今文明諸國の人民が莫大なる費用を負擔して强大なる軍備を維持しつゝあるも、將た亦巨額の費用と貴重の人命とを犧牲に供して戰爭を敢てすることあるも、悉く皆産業上の問題に關係せざるものなく、寧ろ之れが爲めに斯かる苦痛を忍びつゝあるの有樣なり、是れ即ち産業問題が政治に關聯して其の重要なる地位を占むる所以なり。

本書の目的

産業制度に關する研究は此くの如く重要なるに依り、之れを一部の書冊に記述せんとするは容易の業にあらず。然れとも吾人は繁雜なる産業社會の眞相を解明することが刻下の社會に甚急要なるものあるを認め、茲に先つ世界に於ける産業の沿革を略述し、次に錯綜せる産業上の生産交換及び分配の方法を敘し、最後に産業界に起る所の問題につき國家の採るべき政策を論せんとす。乃ち本書を分て沿革、産業及び産業行政の三編となす。

第一編　沿革

第一章　沿革汎論

産業進化論の發達

産業進化論の發達――産業發達の時期

近來社會の進化に關する攻究が一般に行はるゝに至り、産業社會の進化に關する研究も亦學者の注意を惹くに至れり。殊に獨逸の歴史學派はスペンサーの心理學(一八五五年刊)ダーウヰンの始源論(一八五九年刊)等の發刊せらるゝ以前に於て、盛に産業進化の沿革を攻究したり、就中ヒルデブランド、ロッシエル、クニース等を以て有名なる者とす。是より先フリードリッヒ・リスト(獨逸の經濟學者)は其の著書に於て國民經濟の發達を說明し、古來の變遷を五期に分類したり、即ち第一野蠻時代、第二牧畜時代、第三農業時代、第四農工業時代、第五農工商業時代、是れなり。此の區別は從來學者の模範とする所にして、大體に於て謬まらざるものとす。其の後有名なるカール・マルクスは其の抱持する社會主義を基本とし

て經濟社會の發達を論じ、ダーウヰン、スペンサーと倶に近代の進化論者として仰がれたり。

産業發達の時期

今や吾人は世界に於ける産業進化の時期を分劃せんとするに當り、人類が其生活資源(衣食等)を取得するの方法は全社會の發達と直接の關係あることを明かにせざるべからず。即ち社會發達の時期は人類の生活資源の擴張と其の時を同うして來るものなり、例へば專ら漁獵に依て生活する時代の人類は之れを農業時代の人種に比較すれば其の間非常に徑庭ありて兩者の間明かに社會發達の順序を窺知することを得るが如し。故に人類が其の生活資源を取得するの方法は社會の發達を窺ふべき重要なる觀察點なりとす。吾人は此の見地に依て古來産業の變遷を左の五期に區別す。

第一期　漁獵時代
第二期　牧畜時代
第三期　農業時代
第四期　手工業時代

第五期　機械工業時代

以下此の區別に基き産業の沿革を論述すべし。

第二章　漁獵時代

實例——時代の特色

此の時代に在る人種は主として漁獵に依て生活を營みつゝあるものなり、中には幼稚なる方法にて土地を耕やし農作物を收穫して生活の需要を補ひつゝあるものあれども其の主要なる生活資源は漁獵に在るものとす。以下各時代に就ても亦同樣なる見解を以て觀察せんことを要す。

此の時代に在る人種の例

漁獵時代の人種は最も野蠻の境遇に在るものにして、其生活は禽獸と多く擇ぶ所なし。此かる事實は敢て太古の歷史に溯るまでもなく、現に南洋、濠洲及び亞弗利加等の土人に於て其の適例を見ることを得べし。殊に北亞米利加の西北部に住する人種は純粹なる狩獵時代に在るものにして、農業は彼等の間に全く行はれず、常に獲物を逐ふて漂泊的の生活を營みつゝあり。

此等野蠻人種の生活狀態の一斑を窺ふため、濠洲中部に在る土人の風俗を略述すべし。彼等の間には族長なるものなく、僅かに數家族一團となりて流浪しつゝあり。彼等は老幼となく食足れば則ち喜戲し、食盡くれば女子は蜥蜴小獸の類を漁り、男子は一層大なる獲物を索むるを常とす、而して生物として殆んど彼等の口に入らざるものなく、蟻蛇の如きは太牢の珍味として其最も喜ぶ所なり。彼等は又全く裸體にして氣候は屢氷點以下に下ることあれども終に衣服を纏ふことを知らず。又其住居は灌木を以て造られ僅かに風塵を避くるに過ぎず。其他彼等は火を造ることを知れども、其日用品としては小刀、槍、楯等其種類頗る單純にして重に漁獵の用に供せらるゝものとす。彼等の間には又文身の風盛に行はれ、祖先が前額に白線を黥したるの故を以て、子々孫々に至るまで同樣なる文身をなすが如き殆んど笑ふに堪えたる習俗あり。此かる狀態に在る人種として其の經濟思想も亦頗る幼稚にして、殆んど時間の觀念なるものなく又將來の計をなすことを知らず、隨て彼等の間に貯蓄心の欠乏せることも亦怪しむに足らざる也。

漁獵時代の特色

漁獵時代に在る人種に就て其特色を研究するに、第一彼等は一定の住居なるものなく絶えず漂泊的の生活を續けつゝあり。蓋し彼等が天然の獲物に依て生活しつゝあるの間、此の狀態は已むを得ざるに出づるものと謂ふべし。

(一)漂泊的生活

此の時代に於て傍ら農業を營むものに在ては、其の耕作の方法頗る簡單にして獸骨貝殼石片等を以て造りたる農具を使用し、之れが勞働は主として女子の任務とし男子は偶之れに助力を與ふることあるに過ぎず。然れども男子は更に重大なる任務を負擔するものにして、即ち平日は狩獵を業とし一朝事あるに際しては武器を執て起つものとす。

(二)農作法

次に此の時代に於ては奴隷制度未だ發達せず、戰爭に依りて得たる捕虜は多くは之れを殺戮し、偶其の生存を許したるものは一家の養子として族中の人たらしむるを常とせり、蓋し彼等の漂泊的生活は捕虜を容るゝの餘裕なければなり。然れども時として彼等の中敵人を奴隷とし、女子は之れを農作に使役し男子は之を狩獵に從事せしむる者あり、唯此くの如きは例外の場合たるに過ぎず。

(三)捕虜の處分

彼等は又野蠻人種の常として種々の儀式を尊ぶの風あり。即ち或は地の神森の神を祭りて天災地變を遁れんとし、或は熊を祀りて狩獵の成功を祈り、或は五穀若くは家禽を神前に供へて豐作を禱る等皆其の例なり。ラムホルツ氏の著書に依れば墨西哥印度人の一部落に於ては、百八十戸の一村内に廿五人のシヤーマン(祈禱者にして醫師を兼ぬる者)あるを見たりと云ふ、以て彼等が如何に迷信の深きかを知るに足らん。

(四)祭祀の風

彼等が先見の明なきこと小兒の如きものあるも亦其の一特色なり。彼等は今日あることを知て明日あることを知らざるなり。或る印度人の部落に於て毎年一月より三月までは饑餓の時季にして、中には全く餓死する者を生じ、其の當時は彼等も貯蓄の必要を感ぜざるにあらざれとも、夏季食物の饒多なる時期到來すれば、疾やく既に冬季の困難を忘却し、徒らに抃舞して日を送りつゝあり。此くの如き例は猶多けれども少しく進歩したる種族に在ては皆多少の貯蓄心を有せざる者なし。

(五)貯蓄心の欠乏

次に彼等の共同生活は最も注意すべき現象なり。即ち貧富は一人一己の事にあらずして全部落の事なり、何人も其の貯藏竭盡したるときは公共の倉庫に

(六)共同生活

就て支給を仰くことを得べし。隨て此の時代に於ては所有權の觀念なく、日用の器具に就て所有の思想ありとするも、そは今日の所謂所有權と異り使用者に附隨したる物件と看做さるゝに過ぎず、故に人死すれば其者に屬したる物品は悉く之を燒きて神に薦るの習俗あり。是に於て彼等は開明の人種に比して無慾なる所あれとも、公共の爲めに勞働する者尠く一般に遊惰に流るゝを免かれざるなり。

（七）商業起らず

前述の如く彼等は天然の獵獲物に依て生活しつゝあるを以て彼等の間に商業の行はれざるも亦自然の勢なり。猶此の時代に商業の發生を阻碍する他の原因は彼等各種族の間に戰爭の絶えざることなり。而して當時交易の行はるる場合には物品交換（メーダーシステム）の制度に依りたること亦論を竢たず。

以上所論中狩獵種族に關することは漁業種族に就ても亦同樣なり。唯漁業は狩獵に先んじて發達したるが如くなれとも、之れに從事する者は狩獵種族よりも一層定住的にして又一層平和的なり、蓋し其の收穫に多少の別あればなり。然れとも兩者倶に天產物を以て生活資源となすこと相同しく、尙一種族にして漁獵を兼ぬるもの多きは言ふまてもなき事とす。

第三章　牧畜時代

土地に依る發達——時代の特色

牧畜業は土地に依て發達す

此の時代の人種は家畜を生活の資源となすものにして、之れを衣食の用に供するのみならず猶之れを馴養して勞役に利用する者多し。是に於て漁獵時代の人種の如く全く天物に依賴することなきを以て、社會上一段の進歩を遂くることを得たり。

世界の人種は其の發達史上漁獵時代農業時代等を經過せざるものなけれとも、獨り牧畜に至ては全く之れを經驗せざるものあり。蓋し牧畜事業は土地に依て發達すること、人民は初めより定住して農業を營むに至ればなり。然れとも今日尙未開の人種にして遊牧を業とする者甚多く、人類の發達史上此の時代の存在を認むるは敢て不當にあらず。

其の例

中央亞細亞の高原は寒熱の度强く土地磽确にして耕作に適せざるを以て玆に數多の遊牧人種を生じたり、米國の瘠地に住する者も亦牧畜を以て唯一の職業となし、エスキモー人種西比利亞土人等極北の寒地に住する者も亦此の種に屬せり。其の他亞剌比亞、亞弗利加等の砂漠地に於て地勢上此の人種あるを見る。又南米大陸の土人は永く第一期の漁獵時代に彷徨しつゝありたるものにして、最初の殖民者たる西班牙人等が彼等の土地に家畜を輸入するに及んで、初めて遊牧を業とするに至れり。

此時代の特色

(一)生活狀態

此の第二期時代に在る人種の特色として論すべきは、先つ彼等の生活が第一期時代の如く依然として漂泊的狀態に在る者多き事とす、所謂水草を逐ふて轉徙すとは彼等の生活狀態を適當に言表はしたる詞なり。然れとも前述の如く彼等が天物に依頼するの程度は、漁獵時代よりも遙かに下りて開明史上一歩を進むるものと謂ふべし。

將來の計をなす

(二)

彼等は又將來に就て顧慮することを知り、漁獵時代の人種よりも一段の進歩をなしたり。家畜は即ち彼等の唯一の資産にして、之れを飼養し之れを增殖して以て生活の資源となしつゝあり。

所有權の觀念

(三)

此の時代に至て又所有權の觀念を發生したり。固より漂泊的の生活を送る者の間に土地所有の觀念を發生することなきは勿論なれとも、彼等が家畜を財産とするよりして動産に就て所有權の思想を發生したり。是に於て初めて個人の間に貧富の差異を生じ、富める者に限りて一人以上の妻を有することを得るが如き習慣を存するものあり(中央亞細亞のキルギツ族)。

貧富の差

利子及び相續の制

(四)

金錢の貸借に利子を支拂ふ制度を生じたるは又此の時代の事なり。又遺産相續に關する規則をも生じ、法律上注目すべきものなり。

戰爭的生活

(五)

此の時代の人種は又戰爭的生活を繼續し、男子は平常頗る怠惰なれとも事あるに際しては甚勇猛なり。隨て生產的技能は毫も發達せず、奴隷制度も亦發達せざりき。蓋し此等の現象は平和的の社會に於て初めて發現することを得るものなればなり。

第四章　農業時代

前時代よりの變遷

前時代より農業時代への變遷―時代の特色

牧畜時代より農業時代への變遷は猶太人の歴史に於て其適例を見る。此の事は舊約全書の創世記等に記述せらるゝ所甚明瞭なり。碩學スペンサーは又其の著社會學に於て古代希伯來人の生活狀態を研究して、當時に於ける時代の變遷を明かにしたり。次に獨逸民族は其の家畜を率ゐて歐洲の中部に移住し茲に定住して遊牧時代より農業時代に推移したり。英國は西撒入寇の當時にはケント州を除きて他は皆遊牧人種の占據する所なりしが、其の後羅馬人の支配の下に農業國となりたり。希臘はホーマーの時代には猶遊牧人種の土地なりき、元と希臘及び小亞細亞の地方には中央亞細亞の遊牧人種來りて、其の土人と混したるものゝ如し、故に當時彼等の飼育する所の動物は野羊山羊等遊牧人種の家畜にして、其の牛馬を飼養するに至りしは後年西方に移住して定住的の人種となりたる以後の事なり。

此の時代の特色

(一)定住的生活

農業時代に於ける第一の特色は人民が土地を耕作するため定住するに至りし事なり。是に至て彼等は漂泊的生活を脱し同時に社會の狀態は著しく進歩したり。此變遷は人口の增加に基因するもの多けれとも、亦其の進化の結果として遽かに人口稠密の度を增し、人類相互の關係は前時代よりも一層密接して且つ複雜し、茲に新なる社會制度を生ずるに至りたり。

(二)奴隷制度

次に此の時代の特色は奴隷制度の一大發展なり。此の制度は前時代にも存在したれども、漁獵若くは遊牧に從事する者に取りて、奴隷は寧ろ厄介者たるに過ぎず、隨て彼等は敵人を捕ふれば直ちに之れを殺戮するを常とせり。然るに農業時代に於ては人民は一定の住居を有して奴隷を容るゝに適したるのみならず、勞働者として寧ろ奴隷を必要としたり。蓋し道德上の見地を離るゝも自由勞働が奴隷勞働よりも有效なりしこと明かなれども、當時勞働は強制的に行はるゝ勢ありて、奴隷制度が產業發達史上重要なる一現象たりし所以なり。隨て奴隷制度の廢せられたるは後世人類が節約勉勵の思想を生じたる以後の事なり。

例

此の制度の發達に關する一二の實例を擧ぐれば、東部亞弗利加のマセー族は遊牧人種にして敵人を捕ふれば之れを殺戮するを常とすれども、其の隣族なる

ワカンバ族は農業に從事するを以て捕虜は之れを殺すことなく奴隷として使役せり。希臘の古代史に就て見るも曩には捕虜を殺し後漸く之れを奴隷とするに至れり、ホーマーの時代に於ては社會の組織鞏固ならざりしを以て、捕虜中成年の男子は悉く之れを殺し唯女子と小兒とのみを收容して奴隷としたり。其の後社會の進歩するに隨ひ埃及、希臘、羅馬及び中世紀の歐洲等に於て奴隷制度は社會上甚重要なるものとなり、米國の南北戰爭の如きも奴隷解放問題を主因として破裂したり。現今に於て支那人は公然奴隷を賣買すること熟く人の知る所也。

(三)土地私有制度

農業時代に於ける第三の特色は土地私有制度の發展なり。此の制度の行はるゝに至りし由來に就ては經濟史家の間に議論ある所なれども、予輩は玆に最も興味ある沿革談を紹介すべし。そは知事ブラッドフォルドのプリモス殖民史の一節なり、氏は昔時新英蘭（ニューイングランド）に於ける新敎徒殖民の狀態を記述して曰く、『彼等は其の社會が窮乏に陷ゐりつゝあるを防かんため其の收穫を增加せんとし種々の議論の末、知事は人民に土地を分配して之れを耕作せしむる方策を取り、毎戸

人數に應じ土地を分與して之れを耕作せしめたるに、人民は總て業務に熱心して良好の結果を得たり』と。此くの如く土地私有の制度は地力の開發上自然に發生したるものなるも明かなれども猶此制度は遺産制に依て促進せられたり、即ち土地の遺贈をなすには其の私有を必要とすればなり。之れを要するに土地私有の制度は人類の獨立心と勉勵心とを誘發し、以て社會の組織を一層鞏固ならしむるに効ありたり。

遺産制度との關係

(四)商業發達せず

最後に商業の發達せざりし事も亦此の時代の一特色なり。即ち當時日用の物品は頗る簡單なりしを以て、人民は土地を耕やし家畜を飼養して各自に其の需要を充たし、敢て交易をなすの必要なかりしなり。手工業は此の時代に於て初めて發生したれども、唯日用の需要を充たすに過ぎずして新なる趣味を滿足せしむるに至らざりき。鍛冶、大工、製靴業等は當時既に獨立の職業となりたれども、機織、園藝、料理、麵包製造及び酒類の釀造等は皆僕婢の仕事にして營業的に行はるゝに至らず、僅かに交易の目的となりし物品は鹽鐵磨石（カンイシ）等一家若くは一部落内に於て生産することを得ざる物に限られ、其の他贅澤品が行商人に依り

て上流社會に販賣せられたるあるのみ。而して當時如何に商業の振はざりしかば英語の"Barter"(物品交換)獨逸語の"tauschen"(交換)なる文字は語源上欺瞞を意味するにても其の一斑を窺知することを得べし。

第五章　手工業時代

市邑經濟の發達——家內工業制度——同業組合制度——奴隸の解放——農本制度——金錢經濟制度——干涉政策——手工業の將來

市邑經濟の發達

此の時代に於て人類の嗜好漸く發達して商工業の進歩を促したり。即ち農産物たると製造品たるとを問はず或種の産物に適したる地方は、頻りに其の生産に力を致して交易の中心たる市場を設け、茲に一個の市邑を建設するに至れり。是に於て經濟社會は古來孤立的なりし家內經濟の狀態より一躍して市邑經濟の時代に移り、産業上一段の進歩を現はしたり。要之交易及び手工業の中心として市邑の發達は歐洲の中世紀に於て産業上の新時代を劃したる所以のものなり。

家內工業制度

當時伊太利及びハンサ同盟の諸市には種々の工場ありしが、製造事業は猶戸々的に行はれたり、即ち所謂家內製造の時代にして之を今日の機械工場に比較すれば萬事規模の狹小なるを免かれず。隨て當時貿易品として重要なるものは製造品にあらずして寧ろ農産物なりしなり、米國の如きも近世の産業國としたり。

同業組合の制度

此の時代に於て産業史上最も重要なる一つの現象あり、同業組合(gild)の制度是れなり。此の組合は今日の倶樂部に類似し、其初め宗教上又は法律上の目的を以て組織せられたるものありしが、中世紀に於て社會上重要なる制度となりたるは商人及び手工業者の組織したる組合なりとす、此等の組合は其の營業の發達を期するため組合員の間に規約を作りて互に相奬勵助力し、組合以外の者は總て之れを撲滅するを以て目的とす、故に例へば工業組合に於ては弟子を養成して其の技術を練磨せしめ以て大に事業の發達を促がしたり。此の組合は固と封建制度に對抗して起りたるものにして、市邑の發達と其の自由生活とに

貢獻する所多く、遂に政治上獨立の權力を握るに至りたり。然れとも組合の弊は事業が獨占的に流れて競爭者なきに在り、殊に工業組合は初めより商業組合の如く盛大ならず、十七世紀に於て既に英國のものは衰運に傾き、米國の産業史上には遂に此等の組合の發生を見るに至らざりき。

奴隷の解放

奴隷の解放を見るに至りたるも亦此の時代の一現象なり、是れ蓋し人權の發達を意味すると同時に、一般に經濟思想の進歩を表現するものなり、然れとも勞働者が全く自由の境遇に進みたるは後世の事に屬せり。

農本制度

此の時代に於ては技藝の進歩に伴ひ種々の職業發達したれ共、悉く農業と密接の關係を有したる事も亦注目すべき一事項なり。當時の米國旅行記を繙くに下の如き事あり、即ち『殆んと總ての家は農作者にして工匠を兼ぬる者の住居なり、鞣皮商あり製靴業者あり雜貨商あれとも而も總て皆農夫なり』と。又曰く『商工業者は一瓩（エークル）乃至二十瓩乃至百五十瓩の耕地を所有し、暇あれは則ち自ら妻子及ひ弟子傭人等を率ゐて耕作に從事するを常とす、故に農事の閑散なる時期には工業に從ひ兩業相竢て便益を得つゝあり』と。猶メリーランド地方に於ては牧師も辯護士も醫師も皆土地を所有して之れを耕やし、漁夫、舟子、工夫、小商人の如きも皆農業に從事したり。

金錢經濟の制度

物品交換制度の代りに金錢を使用するに至りたるも亦此の時代の事なり是れ即ち經濟社會の一大發達を示すものにして之か爲めに取引の圓滑を來し大に商業の發達を促かしたり。英國に於ける金錢經濟の起源は稍古くヘンリー一世（一〇六八―一一三五）の時代にれり。又歐洲中世に於ける伊太利及ひハンサ同盟諸市の發達と共に此等の諸市に於て鑄造せられたる金銀貨の數甚多く、殊に當時一年一回宛各地に開かれたる市場（フエーア）に於て貨物の賣買は盛に行はれたり。其の他米國に於ては新開の土地として最初物品を以て納稅したる時代ありしが幾許もなくして金錢經濟の普及を見るに至れり。

干涉政策

當時英米諸國に類似の政策行はれ、之に依て其の經濟思想の一端を窺ふに足るへきものあり。米國に就て其の實例を求むれば、或は家畜の市價及ひ勞働者

の賃金を一定し、或は一商店の店員が不當の利益を貪りたりとて罰金に處せられ、爲めに相當なる相場以上に物品を販賣すべからずとの法律を發布するに至りしことあり。又ボストン市の舊記に依れば麪包の大さと其の市價とを公定して之れに違反することを得ざることゝしたる時代あり。要之當時の人士は、競爭に依て市價の定まる事を知らず、政府は自ら進んで產業上に種々の干涉を試みたりしなり。外國貿易に就ても英國の如き猶極端なる保護主義を實行したり、就中最も有名なるものを航海法（ナヴィゲーションアクト）及穀物法（コルンロー）となす。航海法は主として十七世紀前半の頃英國と西印度地方との間の通商及び航海權が蘭人の手に在りしを英人の掌裡に移す目的を以て發布せられ、其の實施せられたるは千六百五十一年にして、外國船が自國の產物以外の貨物を亞細亞、亞弗利加及び亞米利加等より積み來ることを禁止したるものなり。穀物法は千六百八十八年に發布せられ、英國の農業を奬勵する爲め、穀物の市價が饑饉時期の價格に上るまで全く外國產の穀物の輸入を禁じたるものなり。而して此等の法律は十九世紀の中葉に至るまで實施せられ、以て英國の外國貿易に大なる障碍を與へたり。

十八世紀の末葉に至り英國に機械工業の制度起りてより、手工業は漸次衰運に傾きたれとも、猶事業に依りては必す手工に俟つへき種類のものありて、此の事業は將來永く廢滅に歸すへきものにあらず。

第六章　機械工業時代

第一節　總論

近世產業制度―新制度の要素―產業政策―三大產業國の比較―英國の優先的發達と後進國―最近世界の生產力―米國の迅速なる發達―交通機關の發達―商業制度の變革―世界貿易の發達―金の產出及び金融機關―最近產業界の重要なる現象

十八世紀の末葉に於ける佛蘭西革命は政治上及び社會上の一大革命として史上に赫々たる光彩を放つ所のものなり。然るに茲に普通の歷史に隱れたる他の一大革命ありて、佛蘭西革命と相前後して起り其の影響も亦之れに讓らざるものあり、英國に於ける產業革命是れなり。

英國に於ける機械の發明は機械工業の發達を促かし、産業社會に一大變革を發生して茲に産業革命を惹起したるものなり。此の革命に依りて新に建設せられたる産業制度は生産事業に人と機械と資本とを集合して經營する者とす。是に於て從來一般に行はれたる家内工業制度の衰頽を來し産業界に民主々義を發生して資本主義及び賃金制度の時代となり且つ信用制度の擴張を見るに至れり。即ち生産事業に使用せらるゝ機械は到底個人の所有することを得ざる大規模のものとなり、勞働者は勢其家を去りて機械の使用盛なる大工場に於て業務に從事せざるべからず。隨て生産の要素を供給せる者は互に相分離し、或種の者は專ら資本を供給し他の者は勞働を又他の者は土地を供すと云ふの有樣なり。要するに斯かる事情の下に近世の産業は日に月に進歩しつゝあり。

此の制度が完全なる域に達したる社會に於ては、事業は總て國家的となり專門的技術は非常に發達し資本は驚くべき多額に上り且有力なる種々の發明を生ずべし。又此の時代に於ては交通及び經濟の機關悉く完備して、一は運輸事業を促進し一は經濟界に於ける富の分配を容易ならしめ、以て大に産業の發達

を助くるに至る。然れとも社會が此くの如き域に達するには幾多の歳月を閲せざるべからず、假令此くの如き域に達せざるも、國民にして封建制度の舊風を脱却し、勞働者を自由にし交易法を改善し機械を發明し工場制度を起し廣く天産を拓き鐵道及び汽船を建造し資本を集合して事業を營みつゝあるものは即ち近世の産業制度を採用したるなり。此かる國家に於ける生産物は最早一國一地方の需要に應するものにあらずして、世界の市場に向て其の販路を求め、山野に存在する天産物は舟車に依て海邊に運搬せられ、此處に製造せられて巨船に積込み外國に輸送せらるゝに至る。是に於て社會の問題は農業時代若くは手工業時代に於けるが如く單純なる能はずして、國内種々の葛籐と新時代の事物とに依り紛糾したる諸種の問題を發生すべし、而して之れが解決と一層完全なる國家組織の成立とは偏に生産の原動力の調和に俟つものとす。

既に論したるが如く世界の産業は十九世紀に於て驚くへき發達を遂けたり、而して其の茲に至りし所以のものの凡そ三あり。

一、生産機械の進歩

二、分業の發達及び職業の增加

三、産業組織の擴張

是れなり。先つ生産機械に關する種々の發明及び改良は今日の産業制度を發生したる主要の原因なりと。就中十八世紀の末葉に於いてハーグリーヴ、アークライト、クロントン、カートライト、ケー、ホヰトニーの諸氏は紡績に關する諸種の機械を、ボールは梳毛機を、ワットは蒸汽機關を發明して、英國をして工場制度の基礎を專有せしめ、尋て奈破崙戰爭起りて英國の織物機械に對する獨占權は從來よりも一層鞏固となりたり。奈破崙戰爭後ステフェンソンは機關車を工夫して一大成功を遂げ、茲に初めて蒸汽は機關車及機械の原動力として二重の活動をなすに至れり。汽船は千八百十九年に初めて建造せられて太西洋を橫斷し、英國は之れに依て其の市場を擴張することを得たり。其の後十有九年にして（一八三八年）モールスは華盛頓府とバルチモーア市との間に電線を架して初めて新式の通信を行なひ、次て千八百五十年に至りシルス・フィールドは歐米兩大陸の間に海底電線を敷設したり。此の汽船と電線とは實に世界の距離を短縮したる所以のものなり。次にサー・ヘンリー・ベスマーは千八百五十六年八月其の有名なる鋼鐵製造法を發表したり、氏は實に多額の費用を投じ三年の星霜を閱して此の一大發明を成功したるなり。尋て蘇士運河開鑿せられて歐洲より印度に至る捷路の開かるゝや、ベスマー式の鋼鐵にて建造せられたる汽船は陸續として此の運河を通航したり。英米獨の諸國に於ける鐵道も亦此の新式の鋼鐵にて急速に其の軌條を延長し、千八百六十九年に米國橫斷鐵道は太平洋岸に達して再び世界の距離を短縮したり。其の他最近五十年間に於ける重要なる發明を列擧すれば、刈入機、播種機、蒸汽犂等の農業機械、印刷機、裁縫機、電燈、電氣鍍金、寫眞機械、分光器、製糖機械、染料、タイプライター、種々の機械に護謨の應用及び廉價なる燃料の發明等なりとす。

（一）生産機械の進歩

（二）分業の發達及び職業の增加

第二に分業制度の發達は、人類の技能を開發して產業の進步に至大の影響を及ぼしたり。此の制度は人をして細目の事業に從事せしむるの結果、啻に其の熟練を養成したるのみならず、精妙なる種々の機械を發明するの動機を與へ以て大に勞力を省くことを得せしめたり。而して此の制度が最近に於て如何に

急速なる發達をなしたるかは、一個の留針を造るに幾十の分業法に依り、一足の靴を製造するにも百十三の分業を生じたりと云ふにて其の一斑を窺ふべし。

分業制度の進化と共に注意すべきは社會に於ける職業の數は二百に足らざりしが、今日は其の數幾千なるを知らず。又幼稚なる社會に於ては一人にして醫師たり牧師たり教員たり農夫たるが如きことありしが、今日開明の社會に於ては此くの如き兼業は到底行はれざるのみならず、醫師にも內科、外科、齒科、耳科、小兒科、婦人科等種々の專門あるが如きに至れり。

職業は唯分化に依て其の數を增したるのみならず、社會組織の複雜となるに隨ひ種々の發明と相竢て全く新なる種類のものを生じたり。即ち石版業者、鉛版業者、昇降機看守人、自轉車修繕業者、廣告記者、速記者、生命保險代理業者、計算者等は十八世紀末に於て世人の思ひ及ばざりし所のもの也。

(三)産業組織の擴張

第三に論すべきは產業組織の擴張なり。總て如何なる事業にても、大規模の經營は尙に經費を削減し得るのみならず、小規模の者には到底企て及ばざる大

なる設備をなし得るを以て事業の效果も亦著しく小なるものは勢之れがために壓倒せらるゝを免れざるなり。是に於て個々の生產者は會社に併せられ、會社は又一層大なる會社若くはトラストの幷呑する所となり、近來に至ては往々人の想像し難き大規模大資本を以て事業を經營するものあり。而して最近二十年以來其の設備は殆んど完全なる域に達し之れが運用の方法も亦整頓せるを以て、今日世界に於ける製造品は莫大なる額に達するを見る。

產業政策

放任政策

產業の組織か此くの如く擴張せらるゝに隨ひ、人類と事業との關係は益密接して、若し事業の一部に故障を生すれば直ちに恐るへき影響を社會に與ふるに至れり。例へは今日一つの銀行若くは會社の破綻は、人をして敵軍の侵入よりも一層大なる恐慌を感ぜしむることあるが如し。

顧て近世の產業制度に關する國家の政策に就て觀察するに、此の時代の初めに於ては何人も放任主義を唱へざるのもなく、其結果英國の諸工場の間に亂雜なる競爭を惹起し延て社會に害毒を流すに至りたり。米國に於ては大なる未開地ありて新なる職業を得るに容易なりしと英國の如く不完全なる大組織の

急速なる發達をなしたるかは、一個の留針を造るに幾十の分業法に依り、一足の靴を製造するにも百十三の分業を生じたりと云ふにて其の一斑を窺ふべし。

分業制度の進化と共に注意すべきは社會に於ける職業の增加なり、千七百八十九年のボストン、デレクトリーに依れば、當時の職業の數は二百に足らざりしが、今日は其の數幾千なるを知らず。又幼稚なる社會に於ては一人にして醫師たり牧師たり教員たり農夫たるが如きことありしが、今日開明の社會に於ては此くの如き兼業は到底行はれざるのみならず、醫師にも內科、外科、齒科、耳科、小兒科、婦人科等種々の專門あるが如きに至れり。

職業は唯分化に依て其の數を增したるのみならず、社會組織の複雜となるに隨ひ種々の發明と相竢て全く新なる種類のものを生じたり。即ち石版業者、鉛版業者、昇降機看守人、自轉車修繕業者、廣告記者、速記者、生命保險代理業者、計算者等は十八世紀末に於て世人の思ひ及ばざりし所のもの也。

(三)産業組織の擴張

第三に論すべきは產業組織の擴張なり。總て如何なる事業にても大規模の經營は曾に經費を削減し得るのみならず、小規模の者には到底企て及ばざる大なる設備をなし得るを以て事業の效果も亦著しく小なるものは勢之れかために壓倒せらるゝを免れざるなり。是に於て個々の生產者は會社に併せられ、會社は又一層大なる會社若くはトラストの幷呑する所となり、近來に至ては往々人の意像し難き大規模大資本を以て事業を經營するものあり。而して最近二十年以來其の設備は殆んど完全なる域に達し之れが運用の方法も亦整頓せるを以て、今日世界に於ける製造品は莫大なる額に達するを見る。

產業政策

放任政策

產業の組織か此くの如く擴張せらるゝに隨ひ、人類と事業との關係は益密接して、若し事業の一部に故障を生すれば直ちに恐るへき影響を社會に與ふるに至れり。例へは今日一つの銀行若くは會社の破綻は、人をして敵軍の侵入より も一層大なる恐慌を感ぜしむることあるが如し。

飜て近世の產業制度に關する國家の政策に就て觀察するに、此の時代の初めに於ては何人も放任主義を唱へざるのもなく、其結果英國の諸工場の間に亂雜なる競爭を惹起し延て社會に害毒を流すに至りたり。米國に於ては大なる未開地ありて新なる職業を得るに容易なりしと英國の如く不完全なる大組織の

事業起らざりしとに依り其の弊害は英國に於けるが如く甚しからざりしが而も兒女を工場に驅りて一日十三四時間の勞働に服せしめたるが如き事ありたり。此くの如く此の時代の初めに於ける工場制度に伴ふ弊害は、遂に放任政策(Laissez-faire policy)に對する反動を生したり。反動の一として無制限なる競爭は、工場法其他の法律に依て制限せられたり。勞働者に關して一層完全なる組織を打建て其の賃金を增加して彼等の地位を上進せしめたるは即ち反動の二なり。當時事業は人に屬し決して國家の制約を受くべきものにあらずとの思想は深く人心に滲入したるに依り、一般に其の誤謬なるとを曉るに至るは容易の事にあらざりしなり。此の誤解ありたるか爲め、勞働者と資本主との間の爭が一層劇烈となりしこと亦疑ふべからず。而して此かる思想に變革を與へたるは敎育の力與て大なるものあり、即ち敎育に依て頑迷なる頭惱を融和し、彼等をして到底必然の變遷に抵抗し難きとを曉らしめたる也。唯此かる過度の時代に於て社會の一部に損害を來したるは實に已むを得ざるの勢と謂ふべし、即ち此の變革の結果勞働社會の淘汰を惹起し一時多數の無職業者を生じたり。

三大産業國の比較

現今英米獨の三國は世界の三大産業國として互に競爭しつゝある者なり、故に吾人は機械工業時代の沿革を說明するに當り、特に此の三國に於ける最近産業の發達を詳述すべし。而して其の詳細は之れを次節以下に讓り、今は少しく此の三國が如何なる狀態に於て新制度の下に入りたるかを略敘すべし。

凡そ政治上及び産業上國家を組成するに種々の要素あり即ち先づ共通の言語を有し一定の地域内に居住して全く同化したる人民あるとを要し次に整頓したる制度の下に施政の局に在る者が能く法律規則を維持し得る社會なるとを要す。此くの如き社會に於ては商工業大に發達し國内には鐵道縱橫に貫通し其の他商業に利便を與ふる最近の諸設備を具へ、政治上の組織も亦經驗時代を經過して十分に發達すべし。其の實例は即ち千八百三十二年の改革案以後に於ける英國南北戰爭以後の米國及び普佛戰爭以後の獨逸國に於て之れを見る。此等の諸國は前記の各事件ありてより以來、驚くべき速度を以て其の産業組織を擴張し國内の天産物を開拓し之れを世界の市場に搬出して、政治組織と相關聯して發生したる種々の産業上の問題に遭遇したり。

然り而して、或る一國民のみが完全なる域に發達したりとすれば、世界に競爭なるもの發生せざること明かなれども、二三の國民が同時に發達したる場合には、其の間に國家的の競爭を惹起せざるべからず、而して今日英米獨の三國は、此の完全なる域に向て偉大なる進歩を遂げ以て互に相競爭しつゝあり。

英國は十九世紀の初葉に於て猶舊態を脫却せず、其の借地法、家內工業制度、航海法、穀物法等は皆舊時代の遺物なりき、然れども英人は大膽にも此等の舊習を棄てゝ自由貿易の主義を採り、工場制度を起し、新借地法を實施したり。反之獨逸は猶舊習を墨守し、舊組織の上に近世の產業制度を建設せんとを企てたり、即ち其の農業借地法及び分業等は依然として舊風を脫せざりしが、一部の產業に近世の制度を採用し、遂に世界大產業國の間に伍して顯著なる地位を占むるに至れり。次て米國は近世の產業國として殆んど何等の歷史的制限を受くることなくして其の發達を創めたり、即ち米國には殆んど舊慣なるものなく、唯僅少なる場合に於て封建時代の遺習及び舊借地法等存在したるのみ。而して國土廣大にして天產物に富み唯之れを開拓するの困難ありしのみなるを以て、入民は

英國の優先的發達と後進國（鐵及び石炭）

其の天性、意思及び道理の命ずる所に隨て自由に活動することを得たり、然れども此の大なる自由が存在したるため、却て經濟上並政治上舊國よりも一層緊切なる種々の問題の湧起するを免かれざりき。要するに吾人が論ぜんとする近世產業制度の模範は之れを以上の三國に求めざるべからず。

其初め近世の產業制度は英國に於て其の萌芽を發したり、英國は機械工業の先驅者として其の獨占權を掌握して百工盛に起り、一方には世界の各處に殖民地を有したるを以て其の製造及び貿易業は宇內を風靡し獨り繁榮を極むるに至れり。而して英國の產業が此くの如く天下獨歩の發達を成したるものは一は之れを天惠に歸すべきものあり。即ち英國に於ては機械工業の重なる材料たるべき鐵と石炭とに富みたるのみならず、鐵鑛の在る所必す其の附近に石炭坑ありて自ら工業の發達に至大の便宜を與へたり。然れとも機械及び商工業に關する知識は永く一國民の獨占に歸すべきものにあらず隨て最初摸倣者たりしものが今は儼然として競爭者の地位に上進したり。而して英國が產業國として今日の地位に達したるは三四百年間の苦闘と實驗との結果なれとも後

進の産業國は陳腐なる舊習を逐ふことなくして直ちに近世機械工業の原理に則り且英國の經驗に鑑みて利益する所多きを以て、忽ちにして其の先驅者を凌駕せんとするの勢に達したり。米獨二國の如き即ち然り。加之十九世紀末十年間に於て米獨二國は鐵及び石炭の産出に於ても亦英國の恐るべき强敵となりたり。即ち此の世紀の末年に於ける英國の生鐵産額九百四十五萬餘噸なるに對し、米國は千三百八十三萬餘噸を出し、獨逸は稍下りて八百〇二萬餘噸を出したり。（日本は三十萬噸に充たず）又同年に於ける三大國の石炭産額は英國二億二千五百餘萬噸、獨逸一億九百餘萬噸、米國二億六千三百餘萬噸（日本は九百萬噸）なり。而して産業の基礎は多く鐵と石炭とに在ること論なきを以て、其の多額を産出して之れが運搬及び製造の途を具備する國民は必然産業界の覇者たるべき也。

最近に於ける世界の生産力

今や世界の製造事業は大規模の經營に依りて著しく其産額を增加しつゝあり、而して之れか統計に就ては各國の外國貿易額は産業の結果を完全に表示するものにあらず、即ち各國の工場にして單に內國の市場に向て供給せらるゝ物品を製造するものあればなり。今日此かる方面に對する統計は甚不完全なれとも、而も一國の生産額か如何に多大なるかは之れを想察するに餘りあり。佛國は千八百九十九年に凡そ八萬九千の製造場を有し其の鐵道貨物は一億二千餘萬噸に上りたり。獨逸は千八百九十八年に四億七千餘萬圓の價格ある鑛物を産出し鐵類の製造品のみにても其の價額五十億圓に達したり。露國は農業國として千八百九十七年に三萬廿九個所の製造場を有し其の生産物の價格は二百八十四萬留に上りたり。米國は千九百年度に於て製造場の數五十一万二千餘個所に上り其の生産額は無慮百三十億弗に達したり。次に千八百九十八年に於ける英國の鑛産物價格は七億五千餘万圓に、其の織物産額は十七億千餘萬圓に達したり。猶今日重なる産業國に於ける機械力は驚くべき計數に上り現に運轉せらるゝ紡錘數の如きも亦非常の發達をなし、千九百年度に於て世界各國の紡績業に使用せらるゝ紡錘は一億百七十九万錘に達したり。其の他の製造事業も亦同樣に發達し、千九百年度に世界の産出したる生鐵は四千萬噸に鋼鐵は二千八百萬噸に上り、工場制度の事業に最も必要なる石炭は各國を通して七

億二千四百萬噸を出し羊毛は四十年前に比して三倍の增額を示して二十七億封度に達し小麥は千九百年度に二十八億ブッシェルを產出したり此等の數字は眞に概算に過ざれとも以て如何に世界各國に於ける生產力の大なるかを窺ふに足らん。

米國の迅速なる發達

最近に於ける米國の發達は殊に迅速にして此の國に於て機械工業制度は他國に於けるよりも一層廣大に行はれ千八百九十八年に於て其輸出額は初めて世界第一(十二億萬弗)に上り(今日は英國の方少しく勝る)殊に其の製造品は劇かに其の產額を增加し輸出入平均の上に於て未製品に對して大なる懸隔を生ずるに至れり。隨て曩に米國の重なる輸出品は麥家畜鐵及ひ棉花等なりしが今は主として麥粉製肉鐵條機械類及ひ綿織物等を輸出しつゝあり。要するに米國の產業上に於ける種々の統計は國內の組織が完全なる域に達し到る處莫大なる資本を投して製造業を進捗せしめつゝあるを證明するもの也。而して產業發達の結果其の富力亦も驚くべく膨脹し千九百年度に於ける全國の富の總額は九百四十三億萬弗に上り之れに對する人口總計七千六百三十萬餘人なるに依り一人平均千二百三十餘弗の富を所有する割合なり。

交通機關の發達

晩近世界に於ける運輸交通の機關が發達したるとも亦驚くべきものあり即ち各國に於ける汽船の數が著しく增加しつゝあると俱に其の噸數も亦非常に增大せられたり。今日英米獨等の汽船會社に於て二萬噸以上の汽船を有するもの多く最近に三萬二千餘噸の汽船を建造したる會社あり)其の貨物積載噸數は一萬噸以上に達すへく少くとも八千噸の貨物を積込み得るもの甚多し而して此かる多量の貨物は之れを四十噸積の貨車に滿載して二百輛以上に積込むへき數量なり。次に船舶增加の勢を觀るに英國は千九百年度に船舶の總噸數千四百三十七萬餘噸に達し米國は同年に漕舟及ひ運河通航船を算入して四百八十餘萬噸に佛國は百四十餘萬噸に上りたり。其の他最近に至て日本及ひ諾威は俱に著しき進步を示しつゝあり。鐵道は又陸上の運輸機關として長足の進步をなし千九百年に於ける世界各國の鐵道總延長は四十七萬六千餘哩に上り千八百九十七年中に三十億人の旅客と十億噸の貨物とを運搬したり。而して世界の海底電線は十六萬六千餘哩(現今は二十萬哩

餘)に達し千八百九十八年に於ける其の發信數は三億千二百萬に上りたり。

商業制度の變革

此の如く世界に於ける生產及び交通の機關が發達すると倶に、商業制度も亦自ら改革せられたり。即ち十八世紀時代に於ては生產の不十分なると運輸交通の機關の完備せざりしとに依り貨物は往々一地方に缺乏して一地方に堆積することあり隨て貨物の缺乏せる市場の商人は時として意外の巨利を博することを得たり。然るに今日は各國の生產額は增加し運輸通信の機關も完備したるに依り、世界は一地方に於ける貨物の缺乏を豫知して毫も之れを缺乏せしめず、寧ろ到る處貨物の供給の饒多なるに苦しむの有樣なり。是に至て商業上の秘訣も亦全く變化し、商人が利益を得るの根據は場所の相違のみによらずして、寧ろ營業法の熟練に依ることとなれり。

世界貿易の發達

次に世界に於ける貿易發達の大勢を觀察するに、十九世紀末六十年間に於て英國の貿易額は十七億圓より七十九億餘萬圓に上り正に三倍半の增加を示せり、而して此の間に於て英國の人口は二分の一を增加したるのみ。獨逸は同樣の比較に於て五億圓より四十八億圓に上り殆んと七倍の增加なり。其の他佛國は五億圓より三十億圓に達して殆んと四倍半の進步を示し。露國は二億圓より十二億圓に上りて六倍。米國は四億圓より四十四億圓に上りて正に十一倍の發達をなし得たり。

金の產出及び金融機關の發達

十九世紀に於ては又多數金鑛の發見ありて、絕えず產業上に大なる影響を及ぼしたり。抑世界各國に於ける生產と通商との範圍が益擴張せらるゝに隨ひ、交換媒介の諸設備も亦益擴大せられざる可らず而して金の產出增加と國際的銀行制度の活動とは能く之れか需要に應じたり。先つ金の產出に就ては濠洲及びカリフォルニヤに於ける金鑛の大發見ありて、著しく其の產額を增加し、千八百九十二年以來數年間に於ける世界の產金額は二十億圓に達したり、而も猶世界各國に於ける貨幣鑄造の需要を充たす能はざりき。隨て世界に於ける金の供給は如何に增加するも、各國の銀行に於ける莫大なる貯蓄と信用となかりせば、生產事業は到底今日の如き偉大なる發達を遂くること能はざりしならん。今や世界の流通證券は千七百億圓の多額に上り、歐米諸國に於ける各銀行の信用額は殆んと吾人の想像以外に在り。而して一世紀間に蓄積せられたる此等

の資本は多く產業機械の運轉に使用せられ、之れに依て製出せられたる無限の貨物は爭て世界の市場に其の販路を索めつゝあり、盛なりと謂ふへし。

予輩は玆に機械工業時代の總論を結はんとするに當り、最近產業界に於ける二三の重要なる現象を略述すべし。

最近產業界の重要なる現象

一　一般的競爭の趨勢

二　事業集中の運動（即ちトラスト運動）

三　產業の聯合運動

(一)競爭

第一に競爭は即ち產業發達の重要なる原動力なり。然れとも無制限なる競爭は英米諸國に於て苦き經驗を嘗めたるが如く、產業の健全なる發達に却て大害あり、是に於て國家は種々の法律を制定して亂雜なる競爭の弊を矯めつゝあり。然れとも多くの生產者は競爭を以て自働的に市場の價格を定むるものなりとし、立法者も亦一方に於て競爭を奬勵し、鐵道事業の如きに對しても尙競爭に依て其の進步を企圖しつゝあり、是れ即ち競爭が制限を受けながらも益盛に行はれつゝある所以なり。

(二)トラスト運動

第二の運動は最近二三十年以來著しく活動しつゝあるものにして、一大組織の下に生產事業を集中するの勢即ち普通トラスト運動と稱せらるゝものなり。而して其の及ほす所の勢力に大小の區別あれとも總ての生產事業に亘りて行はれ、殊に工業界に於て（農商業よりも）大なる勢力を振ひつゝあり。之れを米國に於ける農具製造業の統計に就て觀るに、最近五十年間に於て工場の數は著しく減少し、資本額及ひ製造額は反比例に大なる進步をなしたるを見る。

(三)產業聯合運動

第三の運動は第二の運動に似て非なるものにして極めて近年に於て發生したる現象なり。抑社會の進步するに隨て百般の事業は互に密接の關係を有するにも係らず、人は皆競爭の念に驅られて自己の事業を擴張することにのみ努め、他の事業との權衡を顧みるの暇なきの結果、或は生產の過剩を來し或は一事業のみ跛的に發達して事業の調和を缺くのみならず、徒に生產の原動力を徒費するの弊あり。是に於て實業家は互に事業の聯絡統一を圖り以て產業の調和を保たんとするもの即ち最近の產業界に於ける第三の現象なり。例へは米國に於ける合衆國鋼鐵トラスト（普通にトラストと云ふUnited states Steel Corporation）

の如き一つの組織の下に米國に於ける製鐵會社の事業を聯合したるものにして、其の他鐵道會社と汽船會社との聯合、石油會社、煙草製造業者、製靴會社、信託業者等の種々の營業上の聯合及びデパーメントストア（Department store 大小賣業——稍原則を異にすれとも）、英國の共濟組合等は皆産業界に聯合運動の行はれつゝあるを示すものなり。

第二節　英國に於ける發達

産業革命

産業革命——新舊英國の對比——産業革命運動の原因——産業革命に依て生したる變化——放任主義の流行——農業制度の革新——奈破崙戰爭後の狀態——一八四〇年代の進歩（自由貿易主義）——法制改革——製鐵事業の發達——鐵道事業——海運事業——一八七〇年代の發達——殖民事業——民主々義の發達——勞働組合の發達——政府の施設——産業聯合の運動——産業制度の完成

世界の史上に特筆すべき産業革命は、十八世の末英國が其亞米利加に於ける殖民地を失ひ、アダム・スミスが畢生の大著たる富國論を出版したる頃に始まり、ジョージ諸王時代の所謂『樂園の英國』を化してヴィクトリヤ女王時代の工場國となりたり。是に於て戸々的生産の標彰たる手工の器具は工場制度の基本たる機械の侵略する所となり、英國は手工業時代より一躍して機械工業國となり、孤立的にして散漫なる産業組織を改革して整然たる一大産業國となりたり。

新舊英國の對比

英國は實に此の革命に依りて一時に其の頭角を表はしたり。即ち內には鑛業、製造業、農業等百般の事業一時に興り、外には通商航海殖民等の事業盛に擴張せられ、其の富強は天下に比なく自ら是れ宇內の覇者たることを得たり。

英國に於ける此の新舊兩時代の懸隔を明かにするには産業革命以前の狀態を略述するの必要あり。一般に十八世紀に於ける英國の産業は中世紀の狀態を持續し、就中農作の方法は原始的にして秩序なく、一國の半部は開墾せられず、土地に關する權利につき人民間の爭議は常に絶ゆることなかりき。而して輪作法は當時未た行はれず、其の耕作の方法頗る非科學的にして消費したる勞力と資本とに比し生産の結果は頗る寡少なるを免かれざりしなり。

製造業に就ては千七百六十九年に英國の人口八百五十萬人と稱し其の六割は農業兼製造業に從事する者なり。當時重なる製造業は毛織業にして是れ英

國が羊毛の産出に適したるを以てなり、千七百七十年に於ける毛織物の輸出額は全國輸出總額の三分の一に上り、其一ヶ年の産額六十萬磅に達したり。毛織物に次て重要なりしは鐵類なり、千七百三十七年には全國十八郡に亘りて五十九個の鎔鐵爐を有し一ヶ年に一萬七千三百五十噸の鐵を出したれども、尚國内製造業者の需要を充たすに足らず約二萬噸を海外より輸入したり。次に綿布製造業は未た十分に發達せざりしが千七百六十年には斯業に從事する者四萬人に達したり。鐵器製造業は之れに從事する者千七百二十七年に五萬人と稱し、主としてバーミンガム、シエッフヰールドの兩地に於て行はれたり。又國内處々の商業地には莫大小製造業行はれ、數個の絹織工場も存在し、麻布も亦處々に於て製出せられたり。

當時の産業が此くの如く進運に向ひつゝあるに拘らず、機械上の技術は大に後れたり、即ち産業革命の機運を造りたる諸種の發明は未た世に現はれず、僅かに存在したる工場の機械は水力に依て運轉され製造業は主として戸々的に行はれたり。

當時銀行業は未た幼稚にして通商の發達を助くるに足らず。外國貿易も亦航海法穀物法等極端なる保護主義の弊を受けて大に振ふに至らざりしが、徐々に進歩して千七百九十二年に於ける輸出額は二千四百九十萬磅輸入額は殆と二千萬磅に上りたり。又當時の市場は通信及び運輸機關の欠乏に依て大に限せられ、産業は地方的に孤立して改良を促かすべき競爭なるものなく百年前の分業法は其儘に存在したり。唯國内處々に少數の大製造業者ありて資本と土地とを所有し農業及び製造業を兼ね營みたり。此くの如くにして當時の産業が進歩せざりしと同時に富は人民の間に平均に分配せられ、雇主と勞働者との關係は現今よりも一層親密なりき。即ち重なる製造業者の家に於て主人も職工も弟子も悉く同一卓子を圍みて食事をなし、耕地に於ては地主も勞働者も其の地位に上下なく、地主は適度の富を有し社會は保守的に舊慣を墨守して古風なる生産法に滿足しつゝあり。而して勞働者使役の方法は一般に規則立ちたるものにして彼等の購買力は割合に良好なることを得たり。

トインビー氏の説に從へば英國に於て所謂産業革命と稱せらるゝ時代に起

りたる運動に三種の原由あり。

一　農業の改良
二　製造業の改良
三　一般原因

(一)農業

(第一)　十八世紀に於て英國の農業は重なる歐洲諸國に劣り其の耕作法は遲々として進歩せざりしが、千七百六十年より十九世紀の初葉までの間に顯著なる發達を遂げ得たり。第一に主として和蘭に於て行はれたる農作法を採用し、次に耕地に何等の區別なかりしを改良して輪作法及び耕地を三種に區別する制度を創めたり。第三には荒蕪地を開拓し、第四に小なる耕地を併合し且農業に資本を投して其の改良を圖りたり。

英國農業の進歩せざりし主たる原因は荒蕪地の散在、資本の欠乏農夫の無識、舊習の墨守、市場の欠乏及び通信の困難等なり。然れども製造事業革新の結果として市場の發達するに隨ひ、農業も亦其の影響を受けて耕作法の改良を促かしたり。

(二)製造業

(第二)　製造業界の革命は發明の進歩、石炭及び鐵の使用、工場の設立、資本の蓄積及び資本と勞力との調整に依て遂けられたり。而して製造業の發達に凡そ四期あり

第一期＝一七三〇年―一七七〇年　此の間を經驗時代と稱すべく、ウヰヤット、ケー、ポール、ハーグリーヴ、アークライト等の織物若くは紡績に關する發明あり。

第二期＝一七七〇年―一七九二年　此の時期は機械の發明が益完備せられたる時代なり。此の時代の初めに於てクロントンの紡績機の如き製綿業に最も必要なる機械の發明あり。次て梳毛機、彈綿機等の特許機械出で、夫れより十年にしてカートライトの織物機械發明せられたり。然れども未だ機械を動かすべき有力なる原動力の發明なく僅かに水力に依て運轉せられつゝありしに依り、工場は遠く市場を距り、綿布及び毛織物の製造に十分適當したる設備をなす能はざりき。

第三期＝一七九二年―一八三〇年　此時代に入りて初めて第二期に發達したる諸機械に蒸汽力を應用することゝなり、同時に織物業の完全なる發達に須

要なる三種の機械發明せられたり。其の一はホキトニーの彈綿機にして千七百九十四年に出てゝ棉花の收穫に一大革新を與へ從來不足勝なりし供給を豐富ならしめたり。次にヘルリックの整齊機は千八百十三年に改良せられ、最後に同氏がアークライトの紡機に改良を加へたるは千八百三十年の事にして之に依て絲線を滑らかにし且靱韌ならしむることを得たり。

第四期＝一八三〇年―現今　此の時代の主要なる進歩は機關車の發明及び船舶に蒸汽力を應用するに至りたる事なり、而して此の時代に於て又從來の諸機械に數多の改良を加へられたり。

以上四期の時代を通觀するに其の發達の順序甚明瞭なり。第一期は紡績及び機織の方法を改良したる時代にして、第二期に至て新時代の基礎初めて成り人力以外の原動力を工夫するの必要を生じ僅かに水力を應用して機械を運轉したり　是に於て第三期に入りて蒸汽力を原動とする裝置初めて成り前人の想像以外に工場組織を擴張することを得たり。此くの如く產業機械に蒸汽力を應用するに至て其の產出額を增加し、隨て市場を擴張するため運輸の方法を

(三)一般の原因

改良するの必要に迫られ、第四期に至て機關車及び汽船の發明ありて其の目的を達することを得たるなり。

產業革命を完成するに當て前述諸種の發明に加ふるに尙他に重要なるものあり、鐵及び石炭是れなり。即ち機械の製造材料としては鐵を要し、其の機械に動力を與ふるには燃料として石炭を要したり。而して英國にして此の兩者に欠くる所あらんか特に奈破崙戰爭中の如き其の進歩を續くること能はざりしならん、然れども幸にして英國は此の自然の產物に富みたるに依り、之れを基礎として其の偉大なる發達を遂くることを得たり。

（第三）　此くの如くにして英國の產業は着々として發達したれども、當初運輸の機關未だ完備せず早晩其の改革を必要とするの機運に會したり。即ち中世紀時代に適したる國內の道路は新式の製造法に依て產出せられたる大貨物を運送するに堪えずして忽ち破壞し、駄馬を驅て纔かに輸送を營みつゝあり、此の欠點を補はんがため千七百七十年以來三十年間に亘りて國內の各製造地を通じて運河を開鑿し以て漸く貨物の澁滯を救ふことを得たり、是に於て又蒸汽を

造る燃料として廣く石炭を使用することを得るに至れり。此くの如く石炭及び貨物の分布普及して從來僻遠の地に在りたる工場は都會の中心に移され、以て容易に勞力の供給を受くることを得たり。

土地を基本としたる英國の社會組織が變して人を基本とするに至り初めて産業革命の萌芽を發することを得たり。即ち十六世紀に於ける階級爭闘の時代まて人民は皆土地に附着し、領主の下には臣下あり其の下に復奴僕ありと云ふ有樣なりき。然るに一たび封建制度及び當時の同業組合の破壞せらるゝや人は皆中世紀に於て重要なりし其の階級的身分を喪失し、勞働者も亦其の主人を離れて四方に移動するに至れり。此の都會と田舍との間に絶えす人民の移動したる事實は古の家内工業制度を破壞する原因となり、一方に於ては領主若くは地主以外の者は土地と直接の關係なきに至り皆其の地位を求むるに苦しみ、茲に紛然たる社會的問題を發生したり。是に於て英國の救貧制度は、産業革命と同時に起りたる社會組織の一大變化に依て人民の困厄を輕減する爲め一段の發展をなすに至りたり。

此くの如くにして英國は十八世紀の中葉に至るまて救貧法を勵行したるに依り、其の反動として千七百五十年より千八百三十四年に至る八十餘年間行政の遲緩を來し爲めに種々の弊害を發生したり。當時獨立自主の氣風は全く地を拂ひ、社會一般に懷疑と怯懦と及び種々の惡德とを養ひ人民の道德及び身體倶に其の標準を低下して、産業も亦自ら萎靡衰頽したり。然れども之れが爲め に家内工業の急劇なる衰微を來して却て工場制度の創始を促かし、工場は未だ多くの勞働者を傭ふに至らざりしが小僧養成の舊制度に依て漸次發達することを得たり。唯國内到る處貧民の運動を制壓することに努め、之れを工場に誘ひて利用するの策に出てざりしを以て、大に産業の進歩を阻碍したるは甚遺憾とする所なり。

産業革命の一般原因として最後に數ふべきは、英國が亞米利加の殖民地を喪失したる結果、市場を維持するには必ずしも其の土地を所有するの必要なきことを覺りたること是れなり。此の思想が十分に英人の認むる所となるや彼等は貿易上の舊見解を棄てゝ大に世界各國との通商を奬勵し、其の工場制度に依

て世界の市場に需要せらるゝ製造品を產出して之れを供給し、以て一大產業國たらんことを期するに至れり。而して此かる思想が英國の生產業及び通商業をして長足の進歩を遂げしめたる所以なること蓋し爭ふべからず。

產業革命に依て生したる變化

產業革命の時代は四十年間に亘りたるに過ぎざれども、之れが爲めに種々の永久的變革を來し、言ふまでもなく舊產業制度は全く轉覆せられ、一般社會の狀態も亦大に變化したり。此の新時代に於て勞力は資本よりも必要の程度を減じ、村落若くは小市街に在りし製造地は變して一大市府となり、地主と小作人及び資本家と勞働者とは社會上全く區別せられ、勞力の需要貨物の供給及び其の價格は時々非常に變動し、一國の生產品は一般に其の量を增加したるのみならず其の品質を改善し、勞働者の使役法は從來よりも一層規則立ちたれども、其の賃金は購買力に於て時々非常なる變動あるを免かれざりき。

千七百七十六年より千八百十五年まで四十年間の革命時代中に國內の人口は著しく增加し、工場制度は其の製造中心に益多數の人民を吸收して遂に一大都府を形成するに至れり、然れども當時の政治組織上未だ議會に代表者を出すに至らざりき。斯かる不合理なる狀態は後年人民が自由權を獲得して多年腐敗したる城邑制度（ボロー、システム）が廢せらるゝに至るまで繼續したり。而して此の變革は英國に於ける共和主義の發達に必要なる階梯なりしなり。

放任主義の流行
Laissez Faire System.

革命時代に起りたる變化中には思想界の變化も亦尠からず、即ち從來政治は擧げて之れを政府にのみ托したりしが多數の學者が新なる自由思想を唱道して政府の權力は可及的之れを縮少するを是とするの議論行はるゝに至り、產業界に働きつゝある個人も亦自己の事は自ら之れを處理し成功も失敗も總て自己の責任となすの風を生じ、所謂『產業上の自由』の狀態を現出したり。

當時アダム・スミス及びリカードー等の案出したる經濟制度は經濟上の秩序を維持するに必要なりとして採用せられ、發達したる利己心を以て產業發達の要鍵なりとし、工場制度は政府の干涉なかりしため極めて急速なる進歩を遂げたり。即ち工場に於て傭入るゝ勞働者の種類及び年齡に何等の制限なく後世よりすれば大に議すべきものありしが而も此の爲めに工場主の利益は頗る莫大なりき。是れ即ち放任主義の實行なりとす。此くの如く英國の產業は益盛

大に赴きたれども多數の人民は寧ろ憐れむべき狀態に陷り、漸くにして放任政策の欠點を發見し、此の過度時代に於ける弱者を保護し社會組織の急劇なる變動を矯正するには勢政府の力に俟たざるべからざるを覺るに至れり。

農業制度の革新

農業制度は十九世紀の初めに於て耕地の併合行はれて、舊時の領主小作人及び勞働者の關係は一變して地主と賃金に依て傭はるゝ勞働者との關係となりたり。千八百十七年には凡そ四萬の耕地が大なるものに合併せられ、隨て農夫の間に大移動を生して一大危機を叫ぶに至らしめ、奈翁戰爭後二十年の間は農業の不振を來したり。此の狀態は千八百十八年より三十六年に至るまで繼續し資本家たる地主の力に依て漸く恢復することを得たり、而して舊時代の耕作法は此の時期の終りに於て全く其の跡を絕つに至れり。

千八百三十六年の頃耕作法を改良して科學的の方法を用い且排水の方法を改善して英國の農業は再び盛運に向ひ、千八百七十六年に外國に於ける豐沃なる土地が開かれて英國に於ける農業の繁榮を攪亂するに至るまで引續き繁盛を極めたり。而して製造業者の地位より觀れば廉價にして過不足なき食料品の供給を國家の利益としたるに依り、千八百三十八年に穀物同盟の反對運動開始せられ農業者との間に劇烈なる爭議を生じ、其の爭は穀物法の廢止せらるゝまで引續きたり。千八百四十二年のピールの提案は此の目的に向て大なる進歩を齎らし、同時に英國の大政策なる自由貿易主義を進捗したり。尋て愛蘭に於ける饑饉は前陳の爭議を終局せしめ、農業者は穀物法の保護を受くること能はざるに至れり。然れども英國の農業に對する穀物法の影響は甚偉大なるものありて貿易及び人口の驚くべき增進並蒸汽力を運輸及び機械運轉の原動力として使用したる爲めに商業の範圍を擴張したる事實が農業に及ぼしたるよりも一層其の進歩を助けたり。此の時に當て又機械力を耕作に應用したること、農事經濟の改善とは農業をして一層有利ならしめたる原由なりき。

奈破崙戰爭後の狀態

ヲーターループの大戰後三十年間に於ける英國の進歩は稍遲々たり。其の人口は二千四百萬に上り國富は增進し重稅も輕減せられたれとも工場制度は猶ほ完備せず其の弊害は殆んと極度に達したり。然れとも當時勞働は王室の繼嗣をハノヴァー家に限りたる法律（Act of Settlement）及び賃金法の廢止、穀物法の改

正及ひ法典中の結黨法の削除等に依て大に奬勵せられ、茲に地方的の勞働組合（職工組合）を生じ遂に此の時期の終りに於て國家的（トレード、ユニオン）勞働組合の成立を見るに至れり。恰も是れ産業組織を再整すべき時期にして社會は舊制度を撲滅して完全なる新制度を建設することに努力したり。乍併此の事業を完成するは固より容易の事にあらずして其の成功を見るまでに幾多の歳月を要したり、蓋し當時英國には此の進化ヶ助くべき完全なる敎育制度なく爲めに新制度は急速に完成せられざりし也。

奈破崙戰爭後の英國の狀態は殊に産業界の一大革新を急要とするものありたり。即ち內には曩に政府が産業を奬勵する爲め過度なる保護主義を執り、貪慾なる地主其の他の農業者は議會に迫りて殆んと穀物の輸入を禁止すへき法案を通過せしめたるに依り人口の增加と相待て益物價の騰貴を來し、人民は一般に窮苦を訴ふるに至れり。殊に千八百十六年より翌年に亘りたる凶作は一層社會をして困難なる狀態に陷ゐらしめたり。飜て外國との關係を顧みるに戰爭の終結は却て英國の貿易を衰微せしむる所以なりしなり、蓋し多年間に亘りたる戰亂は歐洲大陸の諸國民を窮乏せしめ、彼等をして英國の物資を購買すへき餘力を喪ふに至らしめたればなり。是に於て英國の製造業は一時甚しく衰運に傾きたれとも、幾許もなくして産業上種々の變革ありて英國を此の悲境より救ふことを得たり。

千八百四十年代の進歩

自由貿易主義

英國の産業組織は千八百四十六年頃に至りて殆んと完備したり。此の時に及んて勞働者は十九世紀の初めに於ける賤民の狀態を脫却して其の生活の程度を上進することを得たり。生産の要素として機械の使用も亦た殆んと反對の運動なくして行はれ、銀行及ひ貨幣の制度も亦全く變化し銀行事業は千八百四十四年の銀行法に依て大に改善せられたり。次に外國貿易に關する舊時の保護政策も亦廢止せられ、新に自由貿易の主義が行はるゝに至れり。即ち有名なるコブデン等の盡力に依て宰相ピールをして千八百四十六年に穀物法の改正案を出さしめ、之れに依て穀類の輸入稅を全廢するに至るまて年々其の額を減じ、後三年にして穀物法は全く廢止せられたり。其の他當時社會の要求に從て法律規則の新に制定せられ又は改正せられたるもの甚多く、改革案、工場法等

出て、救貧法は改正せられ航海法は廢止せられたり。而して此等の法律改正の結果は勞働者にも亦利益となりしもの多く、工場に於ける勞働時間は短縮し其の衞生狀態も亦改良せられたり。然れとも其の賃金は僅かに增加したるのみにして實質上の進歩は意外に大ならざりしが、舊時の貧窮なる狀態は尠からず救治せらるゝことを得たり。以上諸種の變革中千八百四十九年に於て穀物法及び航海法が全然廢止せられたるは英國が完全に自由貿易主義を採用したる年として殊に記憶せらるべき所のもの也。

當時の進運に乘して製造機械は益精巧となり職工は熟練を積み工場組織は改良せられ資本の蓄積せらるゝと同時に工場の規模も亦益擴張せられたるに依り、全國に於ける製造品の產額は急速に增加し且貨物の品質を高めて其の外國に輸出せらるゝ額を增進したり。是に於て諸種の會社の新設せらるゝ者甚多く就中鐵道事業は長足の進歩をなして產業の發達を促進したり。同時に以部に向ては印度及び濠洲等の殖民地の開發に依て本國の貿易を盛大ならしめ、千八百五十一年に開かれたる萬國博覽會は英國の繁榮を一堂に陳列したるの

觀ありたり。

法制上に於て國民は舊慣及び舊時代の種々の制限を廢することに努め、前述の如く穀物法航海法等を初めとして產業の發達を阻碍すべき舊法を廢止し、同時に工場法其の他勞働者の地位を進むべき新法律を發布したり。千八百六十二年に議會は會社設立法を通過し同年又種々の協會に對して法律上獨立の存在を認めたり。勞働組合の制度に就ては千八百五十一年に混合組合なるもの組織せられ、此の制度は國富の增進に伴ひ勞働社會に多くの餘裕時間を生じたるに依り益發達したり。而して勞働者が千八百三十三年乃至三十四年の改革案、工場法救貧法等の恩惠に浴することを得たるは四十時代に入りてより以後の事なりとす。同時に彼等は政府の力を竢つことなく自力に依て其の地位を上進せしめ得べきことを發見し依て以て十九世紀末に於ける勞働組合の大發達を遂くることを得たり。

產業上に於ける英國の優位は其の製鐵事業が最も早く發達したるに因るもの甚多し。英國は其の製鐵業の發達に依りて他の諸國民が初めて鐵道を建設

し汽船を進水する以前に於て既に産業組織を完成することを得たりしなり。英國の製鐵業は十九世紀の初めに於て他國の遠く及ばざる程度に發達し、千八百六年には國內に百六十一個の鎔鐵爐を有し二十四萬三千餘噸の製鐵を產したりしが、千八百五十二年には鎔鐵爐の數六百五十五に上り製鐵の產額は二百七十萬噸に達したり。此くの如く製鐵事業の發達するに隨ひ造船業及ひ鐵道事業も亦大に進歩したり。然れとも英國の繁榮は自由貿易の制度に負ふもの一層多く、之れに依て大に商業上の門戸を開くことを得たり。而して千八百四十年より六十五年までの二十五年間に民權擴張運動、クリミヤ戰爭、千八百五十四年の恐慌、及ひ米國の內亂等起りて多少其の進勢を阻碍せられたれとも、猶一國の隆運は駸々乎として水の堤を決するが如く、殊に千八百四十二年より翌年に亘りし豐作は鐵道事業の發達を促かし、濠洲及ひカリフォルニヤに於ける金鑛の發見は一層事業の澁滯を排除するの力ありし也。

英國に於ては內地の貨物を海邊に運送するに當て河川運河等の便多かりしに依り、米國若くは歐洲大陸に於けるか如く鐵道の必要を感ぜざりしが、而も製鐵

鐵道事業

(一)其の起源

事業の發達は英國をして鐵道建設の先驅者たらしめたり。英國に於ける最初の鐵道は千八百二十五年ストックトンとダーリントンの間に開通したるものなれとも、更に重要なるものは千八百三十年に竣成したるマンチェスター、リヴァープール間の鐵道なり。而して此等の鐵道は運河に對抗して建設せられたるもの、にして、工場制度の下に貨物の量は益增加し爲めに運河通航稅が非常に其の率を增進したるに依り、其の反動として資本家の企畫に成りたるものなり。此の前年にランヒルに於て「ロッケット」「ノヴェルチー」等種々の機關車に對する有名なる試驗を行ひ、スチフェンソン氏の機關車は一時間二十九哩の速力を出して最優等の名譽を博したり。此くの如く動力として機關車の勢力が公けに認識せられたるを以て、鐵道建設事業に對する資本の需要は一時に著しく增大したり。

(二)鐵道行政

然れとも鐵道建設時代の初期に於て社會は未た各地の鐵道間の關係に就て何等の注意を惹起さゞりき。即ち各鐵道を聯絡するの思想を欠き其の軌幅も齊一ならざりしに依り、議會は强制的に軌幅の標準を一定するに至りたり。而して當初議會に於ける鐵道反對の氣勢は甚熾なりしが十九世紀の中葉より漸

く穩和の態度を執るに至り、公衆の安全を保持するため鐵道法一八四〇年を發布し、次て又之れに關する種々の法律を制定したり。而して千八百四十四年の法律に依て組織されたる委員會は二十一年の後に初めて個人の鐵道所有權を認め得ることゝせり。此の期限の終り即ち千八百六十五年に新に委員會を組織して鐵道國有の全問題を調査したる結果國有を非なりと決したれども今日英國に於て一般に實行されつゝあるが如き低廉なる賃金を希望する旨の決議を發表したり。

非國有論

(三)其の發達

千八百四十三年にサウザンプトンの旅客馬車廢せられて、鐵道は遂に馬車と運河とに對して全勝を占めたりしが、其の建設に就ては猶種々の障碍ありたり。殊に千八百三十七年の恐慌に際しては鐵道に關する新計畫は總て之れを中止せざるを得ざるに至れり。尋て千八百四十五年の甚しき企業熱は却て其の反動を惹起し、以後十年間鐵道事業は穩健なる發達を遂げ遂に建設の時代を經過して、如何に既設の諸鐵道を經營すべきかの問題を講究するに至れり。

(四)千八百七十三年の

當時鐵道に關する規則は猶社會を滿足せしむるに足らず、殊に海運業者よりの苦情甚多かりき。而して鐵道事業に對する議會の一般法は千八百七十三年の法律が其の最後のものにして、同法に依りて鐵道に關する爭議を決定するため三人より成る委員會を組織し、其の一人は法律家より一人は鐵道業者より一人は他の實業家より選任せられ、事實問題に就ては此の委員會が最後の決定を與ふる權限を有し、唯法律問題のみ法廷に上訴することを得せしめたり。而して議會は此かる紛議を決定する委員の任期を永久的のものとなさずして毎年改選すべきことに規定したり。此の救濟策は稍滿足なる結果を來し、鐵道に關する取締は尚議會の議定する法律に俟たざるべからざるの有樣なりき。然れども一般的の法則が絕えず發生する種々の事件に普く適用さるべくもあらざるに依り、千八百七十三年以後に於て議會は唯特種の問題に對して特別の法規を制定することゝしたり。

鐵道委員會

海運事業

蘇士運河の開鑿せられたる頃より英國は其の海上權を獲得するの具たりし帆船を廢して汽船を以て之れに代へ、千八百三十八年には英國と紐育との間を十五日間に航海することを得るに至りたり。而して國內に於ける造船業と製

鐵業との發達に伴ひ汽船の航路は益擴張せられ、千八百四十年頃にはクューナルド、ピーオー、ローヤル・メール及びインマン等の著名なる汽船會社起り、其の後又數多の汽船會社設立せられ外國との交通及び貨物の運輸に至大の便宜を與へたり。

千八百七十年代の發達

千八百七十年に至て英國の産業制度は殆んと完全の域に達し、國内の各地は鐵道と運河とに依て海港と聯絡し種々の天産物を海邊に搬出して之を製造したる後自己の船舶に積載して外國に輸出したり。隨て英國は競爭者なくして運賃と海上保險料及び其の他の利益までをも獨占したるなり。此の時に至て鑛山業は著しき發達を遂け製造業界に於ては舊制度は工場制度に依て壓倒せられ其の組織も亦完備して多額の貿易品を輸出するに至れり。此の年銀行及び貨幣に關する財政問題を解決し、貨幣制度は外國貿易上最も適切なりとせられたる金貨單位制を採用し、英蘭銀行（一六九四年設立）は確乎たる基礎の上に其の營業を擴張したり。是に於て英人の信用は外國商人の間に確認せられ、英國の商會に對する手形は世界を通して流通せざる所なく、隨て倫敦市は銀行業界

英國財界の信用

に於ける宇内の中心となることを得たり。

然れども英國の貨幣に對する世界の信用が此くの如き域に達したるは一方に於て英國が自由貿易主義を採用したるの結果なり。即ち千八百二十三年にハスキッソン氏が關稅互惠案を提出して其の議會を通過するや、外國船も亦英國に於て英船と同樣の待遇を受くることを得るに至り、舊航海法は事實上廢止せられたり。之れに對して英國の船主は其の海運業に惡影響を及ぼすべきことを宣言したりしが、實際は全く反對の結果を生じ、僅々二十年間に英國の船舶は噸數に於て四倍の增加を示したり、是れ亦英國が舊習を脫却したる一事例にして同時に英國の信用を高めたる所以なり。

殖民事業

英人が海上遙かに遠征を試みたるは歷史上甚古き時代よりのと也。或は宗教上の爭より、或は經濟上より、或は冒險的精神より彼等は世界の到る處に故國に忠實なる小英國を建設し、茲に初めて英國の殖民制度を發生したり。而して今より一世紀以前まて英人は其の殖民地の人民に本國人の有する權利を許與せざりしが、今日に於て殖民地は屬領にあらずして寧ろ一つの國家となり其の

政治上の權限も亦大に增大したり。抑英國の殖民問題は其の食料問題と密接なる關係あり、即ち英國は人口に比して土地狹く內國に產する食料品は其の人口の半ばを養ふに過ぎざりしに依り、英國に取りて殖民地は食料品の供給者として甚必要なりしなり、是れ英人が其の勢力を國外に樹立せんとする主要なる原因なりとす。而して亞米利加は過去に於て此の食料品の供給地なりしが、近來他の殖民地も亦漸次本國の市場に加入するに至れり。

民主々義の發達

今や英國の殖民地は殆んど世界の半部を包括して一大組織をなし、之れに對する資本の投下と通商とは其の海陸軍の保護の下に異常の發達を成し遂けたり。由來英國の殖民地は世界通商の大道に當り隨て世界的の發達をなしたる所以なり、然れども此かる一大殖民制度の本源は畢竟するに殖民地を通して人種、言語及び歷史を同うし人民は皆同一の市民權を有し、其の社會上商業上の利害を共通にしたるに因るものとす。

英國の殖民地に於ては自由主義が發達すると同時に本國に於ては民主々義が發育したり。先づ千八百三十二年の改革案に於て勞働者に一部の自由權を認め、其後此の特權は年を逐ふて擴張せられ遂に勞働者も議會に對して大なる利害關係を有するに至りたり。此の改革案は最初中流社會に大なる權利を賦與して其の利益を增進したりしが、下流社會は急進的の空想を抱き此等の人民に特權を賦與するの甚危險なるを思はしめたるに依り、未だ彼等を滿足せしむるに至らざりき。當時彼等の窮困の狀態甚しかりしが之れを救濟するの時期に到達せざりしなり。然れども幾許ならずして急進黨の無用の言論も息み、英國の人心は初めて靜穩に歸することを得たり。第二回の改革案は千八百六十七年に發せられ第三回は千八百八十四年乃至八十五年に出てゝ勞働者の普通選擧を許與したり。是に於て議會は最早貴族富豪の代表にあらずして人民の代表機關となり、舊時の權力者は其の勢力を失墜し、英國は人民の爲めに人民に依て支配せらるゝに至れり。而して米國に於ては民主々義の勢力が經濟上にまで波及したれども、英國に於ける民主々義の進步は漸進的にして米國に於けるが如き急劇なる大問題を惹起すことなかりき。

勞働組合の發達

勞働組合は七十年間に亘る盡力の後、千八百七十五年に至りて其存立と權利

とを認むる法律の通過を見、組合は茲に其の數に於ても資力に於ても將た亦其の勢力に於ても著しく進歩し、生産界の一勢力として産業上諸種の問題の解決に與かりたり。而して組合は一方に於て産業組織を改良するため利益分配及び協同事業の計畫をなし、雇主も此等の組合を以て産業組織上必要なるものとして之れを認むるに至れり。

政府の施設

此くの如く人民の自由權の發達、勞働組合の成長、産業組織の改革等重要なる事件が續々發生すると同時に、政府も亦其施政の敏活を圖り、郵便局は疾やくより政府管理の下に歸し、電信、電話、小包郵便、貯蓄銀行等も絶えず之れと密接の關係を維持したり。要するに英國に於ては米國と異り産業上の機械の一部を國家の所有として其の秩序を保つの傾向あり。

産業聯合の運動

英國が米國に於ける産業組織の例に倣て産業上の聯合を企てたるは極めて最近の事に屬せり。從來英國に於ても相場の平均を保たんが爲め地方的の聯合存在したりしが其大聯合の運動を生じたるは最近の事とす。而して其の制度は米國のものと全く同一なれとも米國に於けるが如く其の制度に就て危虞

を抱くべき狀態なく、却て之れに依て外國と競爭して其の通商上の權勢を維持せんとするの形勢なり。

産業制度の完成

第二十世紀の初めに於て英國は其の産業組織を完成し、國内の産物は益多量に輸出せられ、商船の總噸數は千四百三十七萬餘噸に上り、其の外國貿易額は殆と八十億圓に達したり。國内の制度に就て通觀すれば、種々の法律を改正し、工場制度を整へ、勞働組織を改善し、政府の監督の下にトラスト制度を起し、勞働者に自由權を附與したり。而して米國に於ては富豪政治と産業との發達餘りに速かなりしに依り種々の紛雜したる問題を生したれとも、英國に於ける發達は漸進的にして一層自由なるものありたり。

前陳の如く英國は五十年來自由貿易の改策を採りたりしが、其の競爭國が驚くべき發達を遂けたるに依り、今や保護貿易の政策を採用せんとしつゝあり。而して食料品問題と貿易の進歩せざる狀態とは英國をして其の殖民地との關係を一層緊密ならしむる必要を感せしめ、國民は皆外國貿易界に於ける其の優越なる地位を失はざらんことに努力しつゝあり。

第三節　米國に於ける發達

米國の紀元―米國の開發(英國との對照)―社會の組織―建國當時の製造業―英國殖民政策の影響―米國獨立以後の英國政策と其の影響―西境の開發―建國當時の原始的產業―工場制度の發端―工場制度の確立―土地に關する政策―十九世紀初葉の發達―南北兩部の分立―南北戰爭以前の形勢―南北戰爭前後の比較―運輸事業の發達―鐵道の沿革―事業合同の趨勢―關稅制度―勞働組織―產業自由主義と其の弊害―米國の現況

米國の紀元

其初めコルンブスが西印度より南米大陸に向て航したるに依り、亞米利加に於ける殖民地は殖民事業の先驅者たる西班牙人及び葡萄牙人に依て主として南米の地に開かれたり。初めて北亞米利加が發見せられたるは千四百九十七年にして其の後フロリダ半島及び中央亞米利加地方の發見ありしが歐洲人が土民と戰て其根據地を獲たるはコルテヅの墨西哥征服(一五一九年)を以て嚆矢となす。然れとも此等草創の殖民者は多く土民と同化して十分に母國の權力を扶植するに至らざりき。尋て佛人は今日の合衆國の要地に殖民事業を始め

米國の開發―英國との對照

たりしが、永く其の勢力を持續すること能はずして已みたり。獨り英人は北米の天地に於て最も確乎たる地歩を占め其の勢力は日に月に擴張せられたり、是れ即ち現今宇内の一大强國たる北米合衆國の前身なり。

米國は即ち新進の邦國なり、故に其の產業制度の發達も之れを英國の如き舊國に比すれば大に其の趣を異にするものあり。英國に於ては政治上及び社會上の制度が十分に發達したる後初めて產業上の改革をなすに至りたれとも、米國に於ては憲法は新に制定せられ政府は多額の國債を負擔し國民は將に起るべき大變革に就て十分なる豫想を有することなくして疾やく既に其の產業改革に着手したり。英國に於ける產業革命は千七百七十年代より十九世紀の初葉に亘りしが、此の間米國に於ては引續き社會改革の時代なりしなり。即ち人民は野蠻の生活より狩獵時代に入り、次て交易時代、牧畜時代及び農業時代を經て市邑及び工場の制度を有する工業時代に到達したり。是れ實に米國憲法の制定後僅々百年間の出來事にして其の間通商貿易運輸製造等の諸業は時として急速なる發達をなし又或は遲々として振はざることありたり。

社會の組織

英國に於ては産業革命の初期に當り市府耕地等既に熟く開けたれとも、米國人が産業改革に着手したるは新に森林を開き道路を造り橋梁を架し其の他あらゆる自然の障碍に打勝たざるべからざる草創の時代に在り。英國の發達史は組織ある社會が舊風を脫却して新なる社會を形造くるに在りたれとも、米國の歷史は全く自由なる未開地に於ける殖民の發達史にして、其の文化は東部より西部に及ぼし、既に開明の域に進みたる處より漸次其の境域を未開の地方に開拓したるなり。由來米國人は進取の氣象に富みたる膨脹的人種にして、英人の輸入したる制度に改良を加ふるか若くは自ら新なる制度を建設して其の發達を遂け、絕えす其の領域を擴張したり。是れ蓋し米國に於ては個人主義が無制限に發達したる結果にして、人民は政府の制御を受くることなく自由なる一大民主國を建設したり。然れとも同時に英國の如き民主々義に依て建國せられたるにあらずして此の主義を採用したるに過きざる舊來の諸國に於ては殆んと廢止せられ又は避けられつゝある種々の病弊ある問題を生じたり。

米國に於ける社會の運動は多く產業の發達に關する者なりしに依り、勞働者は永き時期の間に十分に自己をして新社會の氣運に適應せしむることを得たり。又米國には他國の如く貴族的の領主なるものなく、農作を計畫して之れに資本と勞力とを供し得る者は何人にても地主たることを得べく、農夫は地主にして同時に勞働者たる有樣なり、故に社會のあらゆる階級の者は遂に混同して上下の別なき唯一の階級をなすに至れり。隨て米國の社會は英國に反して人民は悉く平等一樣にして勞働者は常に其の勞働の效果を收むることを得べく、遂に彼等は資本家となり製造業者となり地主となるに至る、是れ米國の進步が頗る迅速なりし所以なり。

米國の第二回統計年度(一八〇〇年)に於て其の人口は五百三十萬餘を數へ、同時に英國は千五百萬人佛國は二千七百萬人ありたり。而して當時米國總人口の五分の一は黑奴にして、社會の競爭場裡に奮鬪し得る男子は百萬人に達せざりき。當時又國內到る處に森林あり住民の三分の二は海岸より五十哩以內の土地に居住し、東西兩殖民地は一大山脈に依りて全然分劃せられ、各市邑の間の交通も亦開けざりしに依り、今日一二日にして達すべき處も陸路を以てすれば

敷週を費やし海上よりすれば一港宛長時日を經て往來するの外なかりし也。

建國當時の製造業

米國の人民は革命戰爭の當時に至るまで其必要品を殆んど全く家內製造の制度に依て供給し紡績織物を初めとし靴類及び食物の製造等も總て戶々的に行はれたり。唯衣類及び或種の鐵器の製造に就て處々に小なる工場の存在したるは事實なれども、國內資本の大部は海運業及び農業に投せられたり。當時又米國人は海產物を海上舊敎國に輸送して直ちに其の販路を得、木材は之れを海岸に近き大森林より伐出して多額に輸出したり。千八百年度に於て全國の富の總額は十八億弗に上り、自由なる白人一人につき四百十八弗、一家につき二千弗の富を有する計算なり、當時勞働者の賃金は一日平均一弗にして其の賃金今日よりも低廉なると俱に生活費用も亦甚敷なく租稅の如き全く之れなかりし地方ありたり。唯當時農作は多く契約勞働者及び奴隸に依て行はれたるに依り、國內一般に自由勞働者敷く爲めに產業の發達を阻碍したること敷少ならず。而して到る處自由なる未開の土地多かりしを以て勞力の需要多く賃金は比較的高直なりき。

然れども當時製造事業は政府の奬勵に依りて着々進步したり、大統領華盛頓がラファエット侯に贈りたる書中に曰く

『予は農業に障碍を及ぼすべき程極端に製造事業を奬勵するの意なけれども、農作に必要なる者を使用することなく婦人若くは小兒等の力に依りて十分製造業を進步せしめ得べしと信ず。今や國民は衣服調度及び消費物等に於て多額の貯蓄をなしたり、又製造業は開國以來未曾有の發達を遂けたれども毫も農業に影響を及ぼさざりしこと爭ふべからず。而して國內工場の重なるものを擧ぐればベンシルヴァニヤに於ては綿布帽子及び革類等の製造場あり、マサチュセッツには帆布綱具硝子等有用品の製造場あり且同州より產出する靴及び釘は驚くべき多額に上れり、其の他同州及びコンネチカット州に亘りて絹物及び羅紗等を產出する工場甚多し。予は現に今日も自己の服を造らんためハートフォルドの工場にて製造する內國產の羅紗を購求せんことを友人ノックス將軍に委託したり。予は又遠からずして內國產にあらざる服地を用うる紳士は流行に後るゝに至るべきを希望しつゝあり。

予の家にては又米國産にあらざる黒麥酒及び乾酪を用いたることなし』。

猶華盛頓がトーマス・ジェファーソンに贈りたる書中には次の如く言へり。

『其の他現時國内の事業にして最も人の注意を惹くものは製造業及び内國航運業なり。今日國内各種の製造事業が日々駸々として進歩しつゝある中予は棉花を材料とする製造業が最も有望なりと信ず、今週予は予の宅に於て永年佛國に綿製品を輸入し其の父は政府の保護の下にバッシーのローヤル・シャトー・オブ・ミュエットにて同一事業を營める英人ミルン氏に會したるに、同氏の意見にて此の事業は佛國若くは英國よりも米國に於て一層有望なりとせり、同氏は嘗て棉花栽培業を殖民者に教へ同時に之れを奨勵するため殆んと二年間ジョルヂヤ州に在りたる人にして、同州及び南カロリナ州にて産出する棉花は最優等の品質に屬し且其の産額の多量なる他の農業に依る收穫の到底及ばざる所なりと言へり。故に今より努めて此の新産物を增加し加ふるに新式の機械を輸入して勞力を省くことを得ば、米國の繁榮は蓋し計り知るべからざるものあるべき也。

今日有用にして經濟的なる物品は一般に之れか産出を奨勵し得るの時期に達したり、即ち近來種々の技術者にして我か國に移住し來るもの多く、メーリーランドのフレデリック・タウンに近きモノカシー河畔には大組織の硝子製造場設立せられ、本年内に殆んと一萬磅に値する種々の硝子を産出すべしと云ふ、而してポトマック航路の開通に依りて此の工場の受くべき便宜は殊に大なるべし、猶此の航路は米國西部諸州の全體に對して至大の便益を與ふるものなり。』

然れとも米國は元來土地豐饒にして製造事業よりも農業に依りて直ちに利益を見ることを得たるに依り、土地豐沃の事實が却て製造業の發達を妨くる原由たりしこと疑を容れず。而も國民は華盛頓の書簡中にも在るが如く漸次各地に種々の製造事業を企畫したり。而して最初は十分に成功することを得ざりしが、千七百九十年頃に至りては多額の製造品を産出することを得たり。就中造船業は他の事業よりも最も成功し、重に東部沿岸地方殊にニュー・エングランドに於て盛に船舶を建造したり。其の他産出額の多きものは綱具、錨纜、木材及

ひ海軍々需品等なり。猶アレキサンダー・ハミルトンが米國製造業第一回報告書に於て當時の製造品として列擧したるものゝ中主要なるものは、革製品、鐵器、船舶、機械類、麻布製品、錨纜、網具、帆布、細繩、煉瓦、酒類紙、皮製及ひ羊毛製帽子、砂糖、石油、石鹸、錫器、馬車、煙草、澱粉、塗料、火藥等とす。

當時英國の其の殖民地に對する政策は疑もなく米國に於ける産業の發達に至大の影響を及ぼしたり。殖民時代に於ける英國法律の主要なるもの三種あり、以下順次之れを述ぶべし。

英國殖民政策の影響

(一)航海法の影響

第一―航海法(Navigation Acts) 此の航海法は曩に和蘭人に對し英國の貿易を保護する政策上、千六百五十一年及ひ千六百六十一年に發布したる法律に基き規定されたるものにして、殖民地よりの航海は英國船の外一切之れを許さず其の船長及ひ水夫も亦英人に限りたるもの也、英國は之れに依りて其の殖民地に於ける貿易の全權を英人の手に掌握せんとしたるなり。而して此の法律の結果、造船業はニュー・エングランドの主要なる事業となりて大に發達したれども、他の製造事業は却て其の進歩を妨害せられたり。

(二)列擧品法の影響

第二―列擧品法(Enumerated Articles) こは殖民地に於ける繁榮を維持する目的の法律を包含したるものにして、即ち最初千六百六十年に議會は殖民地が英國以外に法律に列擧したる貨物を輸出することを禁したり。而して當時米人が此の制限の下に輸出したるは唯煙草のみなりしが、千七百六年には列擧貨物中に米穀及ひ海軍々需品を追加せられ、千七百二十二年には銅及ひ海狸の皮を追加されたり、唯魚類の如き未製品及ひ船舶、木材、ラム酒等は此の制限に入らざりき。

此等の制限は多數の人民に影響することなく、千七百二十二年の列擧法も特に亞米利加殖民地に有害なる結果を來すの虞なかりき。

(三)製造業法

第三―製造業法(Manufacturing laws) 此の種の法律は前掲の諸法律よりも一層米人に損害を與へたり、即ち千六百六十七年には羊毛若くは羊毛製品は一切之れを船舶若くは車輛に積載して殖民地外に輸出することを禁する法律を出し、以て海外輸出の目的にて此等の物品を製造することを絶對に禁止したり。尋て千七百十九年に英國議會は亞米利加に於ける製造事業は其の獨立を促かす

ものなりとの決議案を通過したり。其の後十三年を經て復羊毛製帽子類の輸出を禁じ、千七百五十年には殖民地内に鎔鐵爐の設立を禁止したり、然れとも一方に於て英國は亞米利加に輸入せらるゝ鐵條に對して課稅を免除したるに依り、幾分か製鐵業禁止の弊害を補ふことを得たり。次に千七百三十三年に糖密法出てゝ糖密の亞米利加に輸入せらるゝを防止するため之れに課稅したれとも英國政府は遂に之を强行せずして止みたり。千七百六十年以後に於ては英國の商業政策一變して資本を得るため輸入稅に依賴する代りに直接殖民地より租稅を徵收するの方針を採りたり。要之前記種々の法律は米國の發達に有害ならずして寧ろ其の貿易を奬め、殊に海軍々需品の輸出に奬勵金を附與せられたるは米國の外國貿易を盛んならしむる結果を生じたり。

亞米利加殖民地が其の母國より分離したる後英國の之に對する政策は全く一變したり、同時に米國は政治上の自由と經濟上の自由とは全く別種の事柄にして、其の製造事業を擴張するには何等かの奬勵方法を採らざるべからざることを覺知したり。當時(千七百九十年)英國は既に織物機械及ひ蒸氣機關を改良し、あらゆる手段を盡して之れを米國に輸出することを防止したり、ジョーヂ三世の二十一年第三十七章に規定して曰く

『現在若くは將來に於て王國内の羅紗麻布又は絹布の製造及ひ羊毛、綿、麻又は絹を加工して作りたる貨物の製造に使用せらるべき機械、機關、器具、及ひ印刷機、紙及ひ此等の器具物品の模型又は圖案を輸出するため之れを汽船に積込み又は積込まんとしたる者は總て其の物品を沒收したる上二百磅の罰金を科し一年の禁錮に處す』

と翌年(千七百八十二年)此の法律は一層擴張せられ、罰金も亦五百磅に增加せられたり。猶英國議會は技術者の海外移住を禁止する諸種の法律案を通過し、前記の法律と共に嚴重に之れを實行したるに依り、米國に於て工場を設くるには之れに對して非常なる障碍を與へたり。隨て米國に於ける工場組織の建設要する機械を英國より密輸入するか又は新に之れを發明するの外なかりき、而して其の紡績事業に關する智識が大に進歩するに至るまで此の二樣の方法は引續き實行せられたり。其の他米國の諸州は製造事業に對して奬勵金を支出

し、漸くにして國內各地に小工場の設立を見るに至れり。

然れとも米國に於ける完全なる工場は千七百九十年に英人サミュール・スレーターがロード・アイランドのポータッケットに建てたるものを初めのとす、而して此のスレーターの工場に於ける機械の裝置と技術の熟練とは米國の製造事業に一大刺激を與へたるものなり。加ふるに千七百九十二年に於けるエリー・ホキトニーの發明は其の製造業に一段の進歩を促がし、千八百十年の末に時の大藏大臣アルバート・ガラチンが其の報告に於て八十七ヶ所の紡績工場と八萬錘の紡績錘とを數へ得るに至れり。而して同年の統計に表はれたる內國製造品の總價格は殆んと二億萬弗に上りたり。

四境の開發

太西洋岸を距りてアラバキャン山脈の東麓及オハイヨ廣原に於て漸次人口の增殖するに隨ひ此處に產業の開發を促がし、商人は西部に向て急かに其の事業を擴張し、小銃雜貨等を以て印度人の毛皮類と交易し、後繼の探檢者及び農夫の爲めに鞏固なる地盤を打建てたり。當時此等の印度人は既に銃器を所有して野蠻なる行爲を敢てし、以て文明普及の上に大なる障碍を與へたり。然れども、一方より見れはこの障碍ありたるが爲め西部地方に移住したる白人は共同の安全のために互に相團結するの必要を感じ、以て後年兵營の建設せらるゝまて其地步を維持することを得たり。而して此等新開の地方に於ける產業は、後年小工業家の移り來るまて、永き間に亘りて戶々的の組織を以て行はれたり。

其の商業

西部殖民地にては毛皮及び農產物の交易を以て其の產業となし、ミシシッピー河畔の諸市邑は特に河流に依て狩獵地と交通するの便利ありしに依り、最も毛皮の交易に適したり。千七百五年に於て既にワバッシュ廣原より二萬の皮類輸出せられ、又早き時代にオハイヨ州の殖民者は土地を耕して玉蜀黍、野菜及び歐洲產の果實を作りたり。當時又多少貿易の行はれたることは千七百四十六年にワバッシュよりニュー・オルレアンへ向け麥粉六百樽を船積したることあるに依り明かなり、又千七百九十一年には麥粉六十一萬九千餘樽、小麥百萬ブッシェル及び多量の煙草を歐洲に輸出したること精確なる統計に依りて明かなり。

建國當時の原始的產業

漁業及び鑛業は又疾やくより發達したれとも、鑛業は鑛坑の開鑿及び鑛物の堀出につき專門的の智識缺乏したるに依り十分に進步するとを得ざりき。伐

木業は又盛に行はれ雪に造船業を促がしたるのみならず、非常に多量の木材を海外に輸出したり。其の他瀝青及び松脂も多量に輸出せられたり。而して此等は皆米國の建國以後に於ける原始的産業の發達を示すもの也。

工場制度の發端

米國の製造事業は最初戸々的に發達し、人民は衣服及び日用の器具を自ら製造したり。當時交通機關の不完全なる假令製造品に剩餘ありとするも之を賣却するの途なき狀態にして是れ即ち大規模の製造事業が起る能はざりし所以なり。其の後幾分か自然の障碍を除去することを得て戸々的に製造せられたる物品は市場に搬出せられ、家内製造に基く輸出貿易も亦其の萌芽を發するに至れり。而して機械に依る製造業は當初より處々に行はれつゝありたり。今工場制度の基本たるべき製鐵業に就て觀察するに、千六百十年初めてヴァーヂニヤに於て鐵の發見ありたれとも、沼澤中に存在するボック・アイオンと稱する種類のものに屬せり。鐵工場は千六百四十八年に於て既にマサチュセッツに設けられ、千七百三十一年にはニュー・エングランド地方に六ヶ所の製鐵工場と十九ヶ所の鍛冶場とあり、十八世紀後半の中頃には種々の鐵器類製出せられたり、其の後千七百七十五年に紐育州に於て鐵脈の發見あり、紐育港より船舶に依て輸送せらるゝ鐵類は生鐵二千四百噸鐵條七百五十噸に上りたり。其の他ペンシルヴァニヤ州にては千六百八十五年に鐵鑛の發見あり九十二年には之れが製造の業起り、千七百十六年に至り初めて製造事業に之れを使用することを得るに至れり。

工場制度の確立

然れども千八百年の頃に至るまで米國人は單に殖民者として産業に從事したるに過ぎず、即ち彼等の産業は農業及び其の他土地耕作に依て行はるゝ類似の職業なりき。輸入品は總て英國船に依て運搬せられ農産物を以て之れと交換したり、隨て米國の製造業は英國より輸入せられざる種類の物品に限られ米國は實に英國の一大市場たりしなり。蓋し當時歐洲の市場は戰亂(奈破崙時代)の爲に商業中絶するに至りたるに依り、英國は其の法律上米國との貿易の擴張を禁したるに係らず、勢米國に市場を求めざるべからざる有樣なりしを以て也。

内外倶に貿易制限の政策行はれ、歐洲には戰爭狀態の繼續するあり同時に千八百十二年の戰爭破裂するや曩に進捗しつゝありし貿易の大勢を杜絶したれども、米國内の産業は却て發達し從來輸入したる貨物をも之を産出するに至れ

土地に關する政策

り。千八百十四年の平和後は一時閉塞せられたる英國の貨物が千七百八十五年に於けるが如く再び米國の市場に溢れ、一時市場は英商の獨占に歸して米國製造業の發達を阻碍したり。然れども千八百十八年に至て家內製造業は殆ど全く機械を使用する工場制度に壓倒され製鐵事業は千八百十五年にコークを鎔鐵爐に使用して新なる製鐵法を採用するに至り再び盛運に向ふことを得たり。其の後千八百五十年までの間に或は水力を應用する工場の設立せらるゝあり、或は米國に適應する機械の採用せらるゝありて製造事業は總て長足の進歩をなしたり。而して此の進歩の勢は千八百三十一年、四十年及五十年に於ける紡績工場の數を比較すれば直ちに分明なり、即ち左の如し。

年度	紡績工場の數
千八百三十一年	八百〇一ヶ所
千八百四十年	千二百四十ヶ所
千八百五十年	千〇七十四ヶ所

茲に又ミシシッピー及びオハイヨ廣野の發達に重要なる影響を及ぼしたるも

のあり、即ち國家の土地に對する政策是れなり。抑各州の公有地に對する政策は久しく衝突して相爭ひたる所にして、千七百七十八年に公有地の州有に歸すべきことを主張したるものは獨りメーリーランドのみなりき。千七百八十一年に合衆國同盟憲章は西部の境界線を確定し、其の後三年にして六個の條件の下にテリトリーを合衆國政府の管下に編入すべきヴァーヂニヤ州の提議は成立したり。當時米國の狀態は(一)各州の境域を定め、(二)其の代議組織の政府を改良し、(三)テリトリーに於ける佛國殖民者の權義を確定し、(四)革命軍の士官に給する十五萬甽の土地を準備し、(五)オハイヨの土地の制度に改良を加へ、(六)公衆の爲めに殘餘の土地を處分するを急務としたり。而して此の最後の事項に就ては土地の賣買に關して或る計畫をなすの必要あり、千七百八十五年に至て今日の市區を法人とするの計畫始められたり。乍併新政府建設の當時に於て土地賣買に關して十分なる注意を拂ふ者なく、遂に議會に於て各州の第一回の委員が會合するまで未決の問題として存したり。千八百年にはアレガニー山脈の西方に凡そ五十萬の人民あり、且六年以前にウェーンは印度人を征服して平和は既に確

保せられ、隨て人民の土地に對する需要を增加したり。是に於て議會は遂に土地調査局を設置し、土地の級別、土地の公賣及び永期の信用にて個人間に土地を賣買する事等を調査せしめたり。是れ米國に於ける土地制度の起源にして、此の新制度に依り貧民をして容易に安價なる土地を購買せしむるとを得たり。

十九世紀初葉の發達

之れと同時に國內の制度は驚くべき發達をなし、十九世紀の初葉二十五年の終りに國內の富と人口とは非常なる增加を示し殊に其交通機關は著しく完備したり。此くの如く國家組織の整備すると俱に事業は益擴張せられ商人に對して幾多成功の新機會を與へたり。此の時に當てエリー運河の開通と生產者及び商賈の未開地に對する開發事業とは他の地方にも運河を開鑿するの必要を唱道せしめ、就中海岸の產物を內地に販賣せんとする者は最も熱心に國內の開發を奬勵したり。是に於て交通機關の發達を圖るため中央西部の諸州は、議會に迫りて運河及び道路の開通を目的とする法律を發布せしめたり。次て千八百四五十年頃の關稅政策も亦國家の努力に俟つもの多く、國內人民の需要に應するため盛に工場を建設するには勢國家の保護政策を必要としたり。

南北兩部の分立

經濟上南北分立の形勢は米國に於て疾やくより其兆あり、即ち南部諸州と北部諸州とは利害相反し、南部は北部の如く製造業及び內國通商の事業を營まざるに依り關稅政策及び國內の開發に反對し、唯紡績機械と織物機械との發明に依て南部地方の特產たる棉花の需要を增加したるに依り、棉花栽培業を以て該地方唯一の產業となし、千七百九十年より以後三十年間に於ける棉花の輸出額は一年平均二億八千百萬封度此の價三千五百萬弗に上りたり。是に於て南部の人民は製造機械の發明あるも將た亦鐵石炭等鑛物に就て無限の富源を有するも總て此等の事業をば之れを顧みることなく、唯專ら棉花の栽培と之れに交ふべき外國品の輸入とに力を致し、其の英國との貿易額は年々多額に上りたり。隨て南北相分立して兩者の間の通商は毫も行はれず、南部は其の英國との通商關係に些かなりとも影響すべき事には極力反對したる所以なり。

北部諸州は鐵道を敷設し工場を起し盛に諸般の產業を奬勵しつゝある間に、南部は唯一つの棉花栽培業のみを守りて西部に於ける經濟上の大發展にも加入することなかりき。南部は即ち其の境域を擴張して廣く自己固有の制度を

布くことなく、北部及ひ西部の勢力が一國を風靡するに任せたり。其の他南部は棉花栽培事業に奴隷を使用したるに依り、奴隷解放問題につき北部と全く意見を異にしたり。此くの如くにして南北戰爭の破裂する以前、千八百十二年の戰爭、千八百三十七年の不景氣及千八百五十七年の恐慌に依り米國の產業は屢頓挫を來したり。又千八百二十年以前に發達したる製造事業は千八百十六年の關稅法、貨幣の紊亂、千八百十九年の不景氣及ひ英國貨物の大輸入等諸種の原因に依り殆んと破壞せられたり。然れとも此等の障碍に拘らず千八百三十年以來の進步は確實にして事業は永久的に其の地步を占め、由來自然の障碍と奮鬪し來りたる米人は一つの發明あれば直ちに之れを活用し、製造事業には廣く機械を使用して大に其の產業を發達せしめたり。

千八百三十年より四十年に至る十年間に經濟組織の一大變化を生し、此の期間の終りに鐵道の延長は二千八百十八哩に過きざりしが、之れより南北戰爭に

南北戰爭以前の形勢

至るまて毎五ヶ年間に二倍の速力を以て發達したり。又た汽船は國內の河川諸湖の間を通航し、機械は頻々として發明せられ、石炭は蒸氣を造る材料として多額に使用せられ、農業機械の改良は大農制度の耕作を奬勵するに至りたり。是に於て人民は田舍生活より漸次都會生活に移り、鐵道は人の住居し得る處に廣く延長せられ、工場は人民を一ヶ所に集合し、會社は組織せられ、產業及ひ其の經營法は人文の進化に隨て益複雜となり、舊時の平等制度は破壞せられて現今の產業界の先驅者たる雇主と傭人との區別を生じ、單純齊一なりし社會は一變して階級的にして複雜なる組織をなすに至りたり。

南北戰爭（一八六一年―一八六五年）は實に十九世紀に於ける一大分界線なり。產業の形式勞働の組織輸送の方法、資本の制度等總て此の事件を境として一大變動を生じたり。此世紀の前半に於ける社會の進步は比較的遲緩にして其の開發されたるは唯國の東北部地方のみに限られたり。當時ニュー・エングランドに於ては航海を業とする者多く、人民は農業社會に於ては到底利用し難き大資本を有したるに依り、同地方に數多の工場の設置せらるゝを見たり。加ふる

南北戰爭前後の比較

に同地方は水力の利用すへきもの多き等四邊の狀況大に製造事業を盛んならしむるに適するものあり、爲めに大に製造業の發達を致したり。同時に西南部地方に於ても其の薪材に富みたると蒸氣力を機械工業に利用するに至りたるとに依り、漸次其の開發を促かし、國內事業の範圍は大に擴張せられたり。要之南北戰爭前三十年間に於て政治上の紛議常に絕えざりしに拘らず、國內に於ける經濟上の發展は甚顯著なりき。特に電信及び海底電線は四十年代に於て現はれ、農業は種々の發明及び發見に依て奬勵せられ以て著しき進歩を成し遂けたり。然れとも此等の進歩は到底之れを南北戰爭後に於ける政府の自由なる土地政策の下に成功したる發達に比較すべくもあらざる也。今戰爭前に於ける發達の程度を觀察するに、戰爭前十年間に於て國民の富は十二割、耕地の價額は十割三分、製造品は八割七分、輸出額は十七割一分、鐵道收入は二十二割、を增加したり。而して恰も戰爭前に數多の鐵道はミシシッピー河畔に達したれとも、一國の運輸問題は猶十分なる解決を見るに至らざりしなり。

此くの如く迅速なる發達と幸福なる狀況ありしに拘らず運輸事業は最も之

が發展を圖るの急要ありたり、即ち領域廣大にして道路粗惡に、人民は處々に散居し、市場は重に地方的に開けたりしに依り、將來の製造事業及び通商貿易を發達せしむるには、可及的迅速に道路と鐵道とを建造するの必要ありたり。

米國に於ける運輸事業の發達を通觀するに、凡そ三大時期に分かれ各其の特色を有せり。即ち

第一期　道路開通の時代
第二期　運河開鑿の時代
第三期　鐵道建設の時代

是れなり。而して第一期と第二期とは南北戰爭時代に來りて互に相關聯せり。

(一)道路開通時代

(第一期)　米國に於て森林の間を通する樵路の代りに漸次坦々たる道路を見るに至りしは千七百九十年以降の事なり。昔時の道路が如何に不完全なりしかはマヂソンが紐育よりボストンに馬車を驅て一週日を費やし、僅かに十二哩隔たりたる所に一束の木を送るに三弗の運賃を要したりと云ふにて其の一斑を窺ふことを得べし。故に此等の不便を改良するため種々の計畫行はれ、當時

の大藏大臣ガラチンは千八百七年の報告書に於て、太西洋岸の道路修築費として三百萬弗の支出を求めたれとも、遂に議會に容れられずして止みたり。然れとも國庫補助の下に漸次東部より西部に通する數多の道路敷設せられ、十九世紀の上二十五年間に政府はポトマック河よりヴァンダリヤに至る國道開通の事業に着手したり。而して此等道路の開設は悉く緊急の必要に基くものにして、中央西部の人民の如きは其の産物を輸送するに道路の開通を最も必要とし、殊に同地方と東部との交易に此の事業の急要を感じたり。

(二)運河開鑿時代

(第二期) 是に於て道路と河流とを聯絡する事業及び河流を大湖に聯絡する運河開鑿の計畫盛に起り、之れが爲めに處々に會社の組織せらるゝありたれども、其の力微弱にして到底此くの如き大事業を成すに堪えず、遂に各州若くは合衆國政府の力を竢て成功すること多かりき。而して人民が公有地の上に道路若くは運河を開きたる時は、之れより生ずる收入を其の改修費に充てたることあり、之れに對して公有地は唯公債の支拂にのみ利用せらるべしとの反對論を唱ふる者ありたり。要するに鐵道の開通するまて道路及び運河の開通は多少

不十分なから進行しつゝありし也。

紐育州オレーンヂ郡の運河は千七百五十年に開通し米國に於て最初に開鑿せられたるものなり。其の後久しからずしてハドソン河とエリー湖とを聯絡する運河の開通し得べきこと認められしが、次の世紀まて着手せらるゝに至らざりき。其の他短距離の運河は多く開鑿せられ、殊にポトマック廣原地方に多く開かれたりしが、貨物の輸送に多大の時間を要したるのみならず、其の賃金も頗る不廉にして時として一哩一噸の運賃一弗半に上ることありたり。此くの如きは今日殆んど想像すべからざる高直なれども、猶當時の陸上の運賃よりも多少廉なりし也。既にして中央西部地方の開發は益湖水とハドソン河との聯絡の急要を生じ、其の計畫は十八世紀の末葉に於て立案されたれども、其の成功に五十年の歳月を要し、千八百二十五年に至り初めてエリー運河の開通を見たり。

其の他運河開鑿の計畫は必ず實行せられ、其の開通するや直ちに紐育州に於ける通商に至大の影響を及ぼし同時に紐育市の發達に貢獻する所多大なりき。千八百二十六年に於ける國内運河の通航稅は七十六萬二千弗に上り、千八百五

十三年には三百萬弗に達したり。

(三)鐵道建設時代

(第三期)　此の運河と鐵道とは同一の目的を有し異りたる勢力の下に發達したる運輸業界の二大制度にして、勢衝突するを免かれざるものなり。鐵道は其の初め運河の補助機關として起りたれども、其の發達急速にして十九世紀の中葉に於ては兩者の間に劇烈なる競爭を惹起したり。此の競爭は最初純益の上に行はれたりしが、遂に運河は其の支出を償ひ得るや否やの問題となりたり。而して運河は漸次鐵道の爲めに壓倒せられ、千八百七十年に至りては運河は唯鐵道の開通せざる地方にのみ其の輸送を營むに至れり。

此くの如く運輸機關として運河の失敗したる原由は其の航通が一年中七ヶ月間に限られたると、河流には絕えず汎濫又は缺水ありて航通を阻碍したるとに依るものとす。反之鐵道は運輸機關として最も確實なるに依り終に最後の勝利を博することを得たり。而して米國に於ては今日に至るも尙道路と運河とは完備せざる有樣なるに依り、今より七八十年以前に於て其の不完全なりしことは論を竢たずして明かなり。抑米國の如き廣大無邊なる邦國は特に完全なる運輸機關を要する狀況に在り、而して鐵道は運河及び道路よりも遙かに此の急要に應ずるに足りしこと明白なるを以て、結局鐵道は米國の文明史上適當の時期に輸入せられたるものと謂ふべし。啻に其の時期を得たるのみならず、鐵道は實に全國の聯絡を圖りて愛國心以上に米國の一致團結を奬むる機關となり、政治上商業上其の結合の疎漫なりし缺點を補ふことを得たり鐵道の國家開發に致せる勢力も亦大なる哉。

十九世紀の中葉に至るまでの鐵道の發達

茲に少しく米國鐵道の發達を瞥見するに、其の初め米國の鐵道は皆地方的にして大部分は其の通路に當る人民の寄金に依りて成立したり。千八百三十七年に至り經濟界に大恐慌ありて大に鐵道の發達を阻碍し、其の後十年間は著しき發達を遂くるを能はざりしが、千八百四十八年の金鑛熱は國內到る處に鐵道の敷設を催進し、殊に中央西部地方に於て盛んなりき。ロック・アイランド鐵道は千八百五十五年にミシシッピー河畔に達し、其の後久しからずして米國政府は鐵道事業のために土地を收用するの方法を擴張したり。鐵道會社が最初に土地を收用したるは千八百三十六年にしてイリノイズ中央鐵道會社の收用に係れ

り。又中央大平洋鐵道會社は千八百六十二年に政府より三千万弗の資金と二千三百万瓦の土地を得たり。尋て南北戰爭は復鐵道事業の發達を中止し、ミシシッピー上流の原野に鐵道の開通したるは千八百六十九年の事なり。後復千八百七十三年の恐慌起りて七十九年まて此の事業の進歩を阻止したれとも、同年より四年間に南西部及びロッキー山地方に於ける延長は頗る迅速なりき。而して此の間に於ける鐵道收入の增加率はミシシッピー廣原に於て十二割六分南西部地方及びロッキー山地方に於て十六割八分を示せり。

一方に於て十九世紀の中葉より鐵道合併の氣運を生じ、千八百五十三年に紐育中央鐵道は附近の十種の地方鐵道を合併し、千八百六十七年に同鐵道は復ハドソン河鐵道及びミシガン南部鐵道を併合したり。其他千八百五十八年にペンシルヴァニヤ鐵道はピッツバーク、フォートウェーン及び市俄古線を併せ、同時にバルチモーア・オハイヨ鐵道は市俄古に延長せられたり。是等は即ち十九世紀の中頃に於ける鐵道合併の著例なり。

此くの如く鐵道は北部に於て迅速なる發達を遂けつゝありしが南北戰爭の

起るに會して一旦挫折したり、然れ共戰後は新に產業勃興の時代を現出し、百萬の市民は兵器を棄てゝ產業に從事するに至り、鐵道事業も亦益發達したり。此の戰爭以前に於て北部地方はカリフォルニヤ及び濠洲に於ける金鑛發見の影響を受け、運輸事業は大に發達し歐洲よりの移民も亦增加したり。反之南部地方は千八百十年より六十年まで五十年の間事業停滯して殆んと進歩せず、中央西部及び北西部地方の發達を千知せざるものゝ如くなりき。隨て北部は產業繁盛にして人口も處々に集合して都會を成しつゝありしが、南西部は住民四方に散在し、事業の資本は常に缺乏を訴へたり。然るに一朝南北戰爭の破裂するや、此の形勢を一變し、南部地方は由來其の地價も低廉なりしに依り、此處に紡績機械を輸入し、市場は開拓せられ勞働者も多く流入して、從來未開の天地に新なる活動を生じ、同地方に於ける製造事業發展の基礎を打建つることを得たり、南北戰爭は實に米國の產業界に一大發展を來したるもの也。

北軍の大將リーの降服後八年間に米國鐵道の收入は總體に於て二倍に增加し、太平洋鐵道は千八百六十五年より七十三年までの間千八百哩の延長に更に

千八百七十年代に於ける鐵道反抗熱

三萬哩を增加したり。此くの如く鐵道の延長せらるゝに隨ひ移民は益多く流入し、豐沃なる地方は開墾せられ、資本は續々歐洲より送致せられて、米國は遂に農業國として世界に傑出するに至れり。

前述の如く米國が其の迅速なる發達を遂けつゝある間に、七十年代の大恐慌襲來したり。即ち千八百七十三年の慘憺たる恐慌は世界を通して其の惡結果を受けたれども、米國は殊に千八百六十二年より七十九年まで正貨支拂を停止して株式は市場に溢れたるに依り、一層此恐慌の打擊を受けあらゆる產業活動を破壞したり。一方に於て南部地方の從前よりの不景氣は產業組合の成立を促かし、其の後此の組合は運輸業の賃金を定むるにつき至大の權力を振ひたり。又機械工業界に於ては勞働組合の組織さるゝあり、其の中或は百万人の組合を有するものありたり。此等組合の主動者は特に運輸業界に勇敢なる活動を試み、鐵道を破壞して株券の卸賣に從事したり。要するに當時の狀態は鐵道會社が衆怨の集まる所となり、法律上其の權力を制限せんことは人民一般の輿論なりしなり。

當時鐵道業者の專橫は隱れなき事實なりき。彼等の計畫は非常に過激にして、互に不注意なる競爭をなし、募債の額は殆んど會社を破滅すべき程度に達したり。此の如きは全く政府の寬大なる土地取得法に反對するものにして、彼等の計畫を抑制し調和せざるべからざる必要あり。議會は又廣大なる沃地の速に開墾されんことを希望して、公有地を殖民者に開放する種々の法律を出したり。然るに鐵道業者は多額の負債を負擔して勢其の賃金を騰貴せしめざるべからざる事情に迫り、同時に農夫は遙かに西部に移動して益不便の地位に陷りたり。此等の事情は俱に國家組織の急速なる完備を促かし、當時鐵道業者の專橫を制するの甚緊急なる措置なることを認めしむるに至れり。チャールス・フランシス・アダムスの言を籍りて言へば、當時鐵道會社の重役は彼等か公衆に平等の便宜を與ふる義務あることを自覺せざるのみならず、斯かる事を彼等に嫉つは寧甚不條理なりとしたる也。是に於て產業組合は先つ鐵道會社に對抗する種々の效果ある法律發布せられたり。其の後十年にして種々の難問題は解決せられ、法律の主義は法廷の判決に依て確定せら

れ、以て後年各州商業委員會及ひ合衆國鐵道委員會に於て定めたる鐵道規則の基礎を造ることを得たり。

千八百八十年以後に於ける鐵道の發達

西部、殖民地に於ける鐵道事業は賃金に關する爭論絕えざりしにも係らず確實なる進歩をなし、其の收入は八十年代に於て急劇なる增加を示したり。然れども此の十年間は萬事混沌たる狀態に陷り、彼等の間に劇烈なる競爭を生して資本家の法律上の權利も蹂躙せらるゝに至りしが、而も猶時代は發明と進歩の時期たることを失はざりき。唯當時鐵道に關する問題の解決せられざる者多く國家組織も亦完備せざりしに依り、太平洋岸の諸地方は其の富源を擁して東部と全く隔離し、僅かに國民の愛國心と一條の鐵路とに依て東西相結合しつゝあるの狀況なりし也。

千八百六十九年に設立せられたる北太平洋鐵道會社は千八百八十三年に至て初めて太平洋岸に達し、夫れより一兩年を經て南太平洋鐵道會社及ひ太西洋太平洋鐵道會社の線路も太平洋海岸に達したり。次て千八百九十三年には大北鐵道會社の線路完成し、米國の領域は大組織の鐵道及ひ電線を通ずるに至れり。而して千八百八十年には舊時の國境たりし境界線も破られて探檢者及ひ印度商人の時代は茲に經過したり。即ち開化したる人民の團體が國內各地に散在したるに依り昔時の殖民境界は自ら消滅するに至りし也。

事業合同の趨勢

此の時に及んで鐵道及ひ製造事業界に於ける大競爭の時代は經過したり、即ち諸鐵道は競爭の結果大なる費用と勞力とを費やして改造せられ、以て一大合同の準備をなすに至れり。製造業界に於ても亦曩に競爭しつゝありたる者が今は合同を準備し且之れを希望するに至れり。此の時に當り、分業の進歩と商業範圍の擴張とは交通機關の改善と相俟て、戶々的にして農業を主としたる舊時の產業制度の衰頹を來し、工場制度は之れに代りて益發達したり。翻て商業界の狀態は結局產業集中の方針に向ひ、多額の資本を合併して大なる事業を營むに至れり。又此の資本の合同は當初投機的なりしが、後には生產の手段として其の正當なることを認められたり。

關稅制度の下に於ける發達

當時諸種の事業は關稅々則の保護の下に發達したる者なり、即ち米國は關稅制度の保護に依りて外國と競爭するの煩なかりしに依り、資本は自由に各種の

勞働組織

産業に注入せられ勞力は國家組織又は世界市場の將來につき多く顧慮する所なく十分に利用せられたり。是に於て米國の輸出額は漸次增加し十九世紀末には年額十四億六千萬弗に上りたり。然れども國民は世界の市場に於ける自己の地位を覺知する事尠く、國家的の産業組織に就ては毫も之れを究むる者なかりき。隨て又海上の商賈として見るべき者なかりしが、唯鐵道事業は將來東洋の貿易を掌握するに足るへき程度に發達したり。

米國の關稅制度は此くの如く內國の發達に好結果を齎したれとも貨幣問題に就ては久しく其の解決を阻碍する原由となりたり。即ち米國が世界の市場に對して利害關係を有せさる間は其の貨幣制度に就き多くの等差を見さりしが、一朝世界競爭の場裡に進入するや本位貨幣を定むるの必要甚大なるに至れり。然れとも米人自身が貨幣制度の改革を必要としたるは此くの如き理由に基くものにあらずして、寧ろ之れを內國問題となしたり。而も國家の組織上金貨本位の制なきは甚不完全なるを免かれさりき。

勞働の制度は又確乎たる發達を遂け同盟罷工は比較的少なかりき。時とし

て資本家と勞働者との間に劇烈なる爭議を生じたるとあれとも、兩者及び公衆の利害上常に仲裁を必要としたり平に解決せられたるものゝ如く、國家組織上よりして資本家及び勞働者なる二大生産機關の利害の一致は國民に取りて大なる幸福なりき。即ち兩者和合の結果國民の勤產、賃金及び產物の上に幾百万弗の貯蓄を生じ、其の繁榮は此かる有利なる狀況の下に在らざる先進の諸國を凌駕したり。

勞働組合の成立は家庭に於ても工場に於ても勞働者の地位を上進せしめ、且生產狀態改善の運動は智識ある雇主の援助を得て、米國をして世界の市場に進入せしむるの途を啓きたり。加之米國は他國の如き膨大なる軍備なく學校の制度も亦完備したるに依り勞働者は重稅に苦しむことなくして專ら生產事業に從事することを得たり。是れ米國が二十世紀に於ける世界通商の競爭場裡に立て甚有利なる地位に在る所以なり。

米國人は其の鐵道の收入工場の產物及び其の輸出額等の急速なる增加に對して注意を拂ふとなく、寧ろ一般に其の產業の發達は或る程度までは產業自由

の制度に依て得られたるものなることを確く信して之れを重要なることゝしたり。即ち鐵道賃金、食料品の價格等は皆自由に定められ、資本合同の方法は殆んと掠奪的に行はれ、産業制度は適當なる理論を超越して成立したり。要之米國の經濟史は成るべく政府の干渉を少くして、自由競爭の原則を實地に適用する盡力の沿革なり。而して事業の經營につき此くの如く法律上の制限なかりしことは、既に千八百七十年代の歴史に存したれとも、歳月の進むに從ひ此の自由運動は却て産業の發達を阻碍するに至れり。

(一)鐵道に關する弊害

鐵道は米國産業組織の模範と稱せられ、各州も亦此の事業に對して最初に注意を拂ひ、マサチュセッツ州の如きは千八百六十九年に於て疾やく既に鐵道事業を規律する委員會を組織し、該委員會は何等至大の權力なかりしが、鐵道會社の決算報告等に依りて事業の改善を企圖したり。而して他の諸州も亦此の例に倣ひたれとも其の所轄は各自一州に限られ各州の間の事件を監督する機關を缺きたり。是に於て千八百八十七年に各州商業委員會なるもの組織せられしが、數年の經驗の結果此の委員會は事業の進捗を圖るに足らず、鐵道が運輸事業を

營む上に於て整然たる規律を立つること能はざりしは依然たるの有樣なり。此くの如きは即ち米國に於て干渉政策の缺如たりし弊害なり。

(二)トラストの弊

其の他此かる弊害はトラスト運動に就ても現出し、千八百九十年に非トラスト條例は資本の合同を監督する目的を以て議會を通過したれとも、殆んと其の實行を見すして徒法空文に歸したり。各州も亦政府の例に倣ひて資本の大合同を破壞せんと企てたれとも、實際は却てトラストの獨占權を增長せしむるに至りたり。總て此等制限的の法律は直覺的に制定せられたるものにして科學的に編成せられざりしに依り、完備したるものにあらざりしことも亦事實なり。是に於てか鐵道賃金は依然として不同に陷り、トラストは其の獨占權を增大するのみなりき。畢竟國家組織上より見れば鐵道も資本の合同も甚必要なれとも、彼等をして其の最上の活動を爲さしむるには彼等の弊處を除去せざるべからざるなり。最近に至り大統領ルーズヴェルト氏の辣腕に依り幾分か此の弊害を矯むることを得たるは米國に取りて甚喜ぶべき事なり。

猶トラストの弊害に關しては最近の或る著者の言を茲に援用すべし、(Clark-

—Control of Trust, P.82) 曰く

『此くの如く疾やくより國内の調和一致を得たる邦國は必ず經濟上の覇者たることを得べし、之れを個人に譬ふれば他人に先んじて有効なる機械を使用し依て多大の利益を收め、敵手をして其の地位を喪はざらんが爲めには彼れの爲す所に倣ふの外なき有樣に立たしむる者は必ず成功すべし、是れ其の人が單に機械を使用したるがために非ずして、他人に先んじて機械を設備し其の利益を專にすることを得たるがため也。國家も亦トラストの勢力を利用して其の弊害を除くことを得れば以て國益を增進し、各國の上に立て覇者たることを得べし。』

米國の現況

と、今や米國は勢力あり組織あり設備あれとも唯事業の調和を得るを以て刻下の急要なる問題となす。

米國の國家組織は十九世紀の末葉に至りて完成し、鐵道は大陸を横斷し電信及ひ電話線は國内各地に延長し、天産物は海岸に輸送せられて此處に大組織の工場に於て製造せられ國内及海外に向て非常に多額の貨物を輸送しつゝあり。而して戰爭の時代は既に經過し、完備したる銀行は設立せられ、人民は國内到る處に定住して其の業務に奮勵し、加ふるに舊來の慣習又は費用多き軍備に依て惱まさるゝことなくして社會一般に驚くべき發達を遂けつゝあり。而して其の發達の急速なる米國に於ける新奇の產業問題は他の諸國よりも一層切迫したる狀態に在るを以て之れを推知し得べし、而も產業上の規律は今猶米國に於て解決せられざる問題なり。

古來の變遷概要

古來の變遷概要—獨逸の統一難—獨逸產業發達の特色—新產業制度の成立—市府の發達—農業の遲滯—商工業の發達—獨逸の地勢—運輸機關　鐵道制度—採鑛業—電氣事業及ひ化學工業—外國貿易と國民の訓練—實業教育—政府と產業—千八百六七十年代戰爭の產業に及ほしたる影響—帝國建設史—殖民事業—社會主義者の運動—獨逸の將來

第四節　獨逸の勃興

獨逸帝國統一の大業が成りたるは近世の事に屬すれども獨逸は世界の一國として決して新參者にあらず。古くはカール大王の治世（A.D.771-814）に於て

軍隊的組織の下に産業を奨勵し、ハンブルヒを始めとして數多の市府は此の時代に於て建設せられたり。尋て封建制度の發達と倶に市邑制度なるもの生して一時産業の旺盛を來し、十二三世紀の頃に至りてはハンサ同盟起りて、ルユーベック、ハンブルヒ、ブレーメン等を始めとして獨逸の諸市は北部歐羅巴に於ける商工業の覇權を握り、政治上に於ても亦偉大なる權力を振ふに至れり。次に奈破崙戰爭後獨逸の産業は一時甚しく衰微したりしが、關稅同盟(Zollverein)北獨逸同盟等起りて再び繁榮の域に向ひ、現在の帝國組織成るや新に國家團體として否寧ろ世界の大國として宇内に勢力を振張するに至れり。

獨逸の統一難

然れとも國内に於ける政治上の紛爭は絶ゆることなく、各聯邦は互に相嫉視し加ふるに外敵の襲來頻々たりしに依り、其の産業は發達することを得ず國民は寧ろ政治上の問題に其の全力を傾注したり。故に獨逸に於ては産業組織を完成する以前に先づ政治上の結合を圖るの必要ありて、之れを成功するには幾多の歳月と戰勝の結果に依る一國の結合と且非凡なる外交術とを要したり。而して此等の運動が成功したる後多數の王國に分れたる國家は初めて一致團結し、以て新なる産業組織を建設することを得たり。

獨逸産業發達の特色

獨逸に於ける産業發達の特色は之れを英米兩國に比較すれば甚明瞭なり。英米兩國は地理上他國と孤立したる地勢に在るを以て、獨逸の如く大陸の一部に國する土地に發生する特種の問題に遭遇することなかりき。英米に於て昔時の家内工業の代りに工場制度を起して産業上の大革命を實行したるは皆個人の力なり、政府は之を奨勵したりとするも多大の助力を與へたるにあらず、寧ろ屢々惡法を出して産業の發達を阻碍したり。故に此の兩國に於て産業上の新組織は個人の手に依り政府の干渉を受けずして初めて其の緒に就きたるを以て、其の制度の確立せらるゝや却て政府を威嚇することあるに至れり。要するに此等の諸國に於ては經濟發展の結果として政治上の結合を來したるなれとも、獨逸に於ては全く反對に組織ある國家が建設せられて然る後近世の産業制度が輸入せられたり。即ち獨逸にては儼然たる中央政府ありて一國の政策を定め、然る後其の繁榮を來したるなり。是に於てか英米の産業組織は下より成りしたるものと謂ふことを得べし。

此くの如く獨逸に於ては政府が原動力となりて新産業制度を設け之れを指揮奬勵し、其の報酬として獨逸帝國は又政治上經濟上世界に於ける今日の地位を獲得したる也。

新産業制度の成立

奈破崙大帝時代に於て獨逸の産業は組合を形造りたる少數技術者の手に在り、其の後法律の力を以て此の組合の權力を奪ひ經濟上の自由制度を打建てたれども、舊慣舊法は猶全く絶滅するに至らず、獨逸聯邦の多數に完全なる産業自由制度が成立したるは千八百六十年代の終りより以後の事なり。

獨逸の製造事業は鐵道事業開けて其の組織の完備するや漸次集中の傾向を發生したり。今日獨逸の主要なる地方に於ては到る處に工場の設けありて凡ゆる産業に從事しつゝあるに依り手工業者は勢其の職を得ること能はず、已むなく僻遠の地若くは小市街地に移りて事情の許す限り新機運に應して工場の制度を採用しつゝある有樣なり。此くの如く新産業制度が手工業者及び家内工業制度に對して加へたる壓迫は頗る大なれども二者全く兩立することを得ざるものにあらず即ち前者は小市街地に行はれ、後者は人口稀薄なる田舍若くは大都會に於て行はる。故に工場は殆んと一國の産業を獨占し手工業者は其の足らざるを補ひ又は小賣商人として働くに過ぎざれとも、家内工業制度は猶廢滅せず、人口稀少なる地方の農夫及び大都會に於ける勞働者に依て其の收入を助くる手段として維持せられつゝあり。

市府の發達

今日獨逸の人口は五千六百萬に上り、其の多數は製造業及び商業に從事しつゝあり、此れ等の人民が農業を止めて新産業に從ひたるは十九世紀中の事なり。即ち千八百年度に於て農業者は總人口の八割に當りしが今は僅かに三割に減じたり、然れとも農作の方法は大に改良せられ其の收獲の割合は從前よりも增加しつゝあり。

市府に於ける人口の集中は又著しきものあり、千八百七十五年に帝國内を通して十萬人以上の人口ある市府は十ヶ所に過ぎざりしが、今日は十萬以上の市府三十三、二十萬以上のもの十四、三十萬以上のもの七、四十萬以上のもの四あり。此くの如き顯著なる人口集中の現象は引續き起りたる種々の事件若くは運動に基因せり。即ち千八百四十八年には小産業より大産業に向て一大變遷をな

農業の澁滯

し、且同年に於ける政變は一時繼續して國內に大變動を與へたり、又同年に於けるカリフォルニヤ及ひ濠洲の金鑛發見は獨逸の貿易業を世界に擴張するの機會を與へ、其の各市府は急速なる發達を遂くるに至れり。

此の趨勢は千八百七十年頃まて繼續したれとも、同年に於て米國に移住する人民を增加したると、埃普戰爭及ひ普佛戰爭の起りたるとに依り、市府に於ける人口の增殖に一頓挫を惹起したり。次て新帝國の建設ありて間もなく發生したる大恐慌と數年間に互りたる產業の澁滯とは戰爭の終結と償金の受領とに依て發生すへき企業熱を阻止したり。夫れより十年を經て千八百八十年に至り經濟社會の景況全く恢復し、獨逸の商工業は茲に初めて健全なる發達を遂け千八百九十七年まて繼續して進步することを得たり。此の期間は即ち獨逸市府の一大發達をなしたる時期にして其の數に於ても將亦た人口に於ても長足の進步をなし得たり。

此くの如き變化は農業地方に於ける人口の減少を意味するものにあらざりしが、其の人口は毫も進步せず、之れを市府の發進に比較すれは農業者の數は割合に於いて大に減少したり。而も十九世紀の中葉に至るまて獨逸國民に需要せらるゝ食料品の九割五分は自國產の物なりしが、今日に於ては食物の大部分を外國に仰きつゝあるの有樣なり。故に今日獨逸の農業は最早工場制度に依て增加したる人民の需要に應する能はざれとも、農本論者は尙農業を工場と同一の程度に發達せしめんとして政府の保護政策を要求しつゝあり、而して農業が現に停滯しつゝある事實は彼等農本論者の深く憂慮する所なり。

獨逸の農業者は其の數に於て米國の農業者と伯仲の間に在れとも、其の效果は兩者相同しからず。獨逸に於ける農事勞働者は二種に分たれ、其の一は長期の契約に依て主人の家に起臥する者にして、他は所謂自由勞働者（Wanderleute）なり。又獨逸に於て共有の土地は其の家族全體に相續せられ永く團體的の農業行はるゝに依り、古代の借地法は多少改良せられたれども猶其の小農制度を持續しつゝあり。千八百九十五年の統計に依るに全國の農業地は耕地、牧場及び果樹園等を包括して其の數左の如し。

一エクテールは凡そ我が一町步余　二、五二九、一三二

一エクテール以上十エクテール以下	二、三二九、三六七
十エクテール以上百エクテール以下	六七四、七五七
百エクテール以上	二五、〇六一
總計	五、五五八、三一七

其の他信すべき統計に依れば獨逸に於て十二瓦以下の耕地のみにても二百二十七萬五千ありと云ふ。此くの如き廣大なる土地を近世の機械を以て耕作すれば利益を見ざる理由なきに依り、小農法が如何に生產の割合に多額の費用を要し、爲めに外國の農產物と競爭することを得ざるかを證明して餘りあり。

前述の如く獨逸の產業界に於て農業は商工業に比して甚不利益なるを以て農業論者は之れが救濟を行はんとし、議會に於ても麥の高價を主張する黨派と廉價なる麵包を主張する黨派とは互に相軋轢して多數を制せんとし、其の孰れが勝利を得るも敗者は非常に困厄せざるを得ざるの狀態にあり。

一方に於て獨逸の商工業は晩近驚くべき發達をなしたり。即ち工場は各地に起り、交通機關は日を逐ふて益完備し、海上の商人も出て、採鑛業は進歩し、發明及び發見は發達し、種々の產業殊に化學及び電氣に關する產業は無比の發達を遂げたり。殊に學理と技術とは能く調和せられて"Made in Germany"即ち獨逸製の文字ある商品は世界の到る處に販賣せられつゝあり。外國貿易は又世界第二の地位に位し、最近二十年間に於ける獨逸諸港の噸稅は三千三百萬馬克以上に上り、同時に北米との貿易額は十二割八分、濠洲とは四十七割五分、南米とは四十八割を增進したり。殊に獨逸の產業上の勢力の偉大なることは其の船舶が噸數に於て世界第二位に位すれども、船體の大さ及び其の速力を以てすれば世界第一の地位に在るを以て之れを推知することを得べし。獨逸は實に其の好敵手なる英國の經驗に鑑み、英國が數百年間に成し遂げたる所のものを僅かに二十五年間に成功したるなり、然れども此の大勢が何時まで持續すべきかは自ら別問題なり。

千八百六十八年頃との比較

顧て今より三十五年前の獨逸の狀態を觀察するに、國民は農業を主として商業は唯小規模に行はれ政治界には紛議多く貿易の機關も亦備はらざりき。今日は之れに反して大規模の商業行はれ政府及び殖民の制度悉く完備したり。

又曩時に於ける貨幣制度の不統一は甚しく貿易上の圓滑を阻碍し荷送人も荷受人も倶に其の弊を受けつゝあり、銀行も亦僅かに大都市に存在したるのみにして、事業界に於ける信用制度は甚不滿足なる狀態に在りたり。殊に全國は二十八邦に分かれ各邦皆其の法律習慣を異にしたるに依り、產業機關に對する課稅の方法及び商業上の規則は統一する所なく、爲めに產業上紛雜なる形勢に在るを免かれざりき。唯各邦を通して國語の同一なることゝ普魯士の强大なることゝは獨逸の將來が甚有望なる所以なりしなり。

獨逸の地勢

獨逸は國防上及び地味產物の上より見れば決して理想的の良國にあらず、即ち國の三方は强敵(佛、墺、露)に依て圍繞せられたるに依り、其の歷史は他國よりも慘澹たるもの多く自ら不利益の地位に在り。然れども其の領域が歐洲大陸の中心に位するを以て國境を通して世界的通商を營む機會に富み、爲めに其の地位の不利を補ふことを得たり。

國の東部及び北部は低地にして沼澤若くは砂丘多く殆んど荒蕪不毛の土地なれども、獨逸人は農業上の熟練に依て此處に相當の收獲を擧げつゝあり。南東部も亦殆んど不毛の高地にして國中の沃地と稱すべきは南部及び西部に於ける河川の流域なり、殊にライン流域は果樹園多くして其の風光一種の樂園たるが如き觀あり。其の他バルチック、ウラリック湖高原と稱せらるゝ高地とブランデンブルヒ及び北シレシヤを横斷する高地との間には廣濶なる低地ありて、ハーヴェル、スプレー、オーデル等の諸大河其の間を流れ農作盛に行はる。

運輸機關

地勢上天然の障礙は人力を以て容易に之れを除去することを得べく、エルベ河とヴヰスチュラ河との間には完全なる運河の開鑿せらるゝあり。海港は擴張せられ海底は浚渫せられ、ブレーメン、ハンブルヒ、ルューベック、ステッチン等河流に面する諸港にも自由に大船巨舶を繫留し得るに至れり。又運河は內地にのみ開通さるゝに滿足せずして各邦倶に其の出口を海港に求め、以て內地の物產を迅速容易に輸出し得るの途を開きたり。

鐵道は米國に於けるか如く水路と競爭することなく、運河には重量大なる貨物を運搬し、鐵道は其の他大部分の貨物を輸送しつゝあり。此くの如く運輸機關調和の結果として內外貿易倶に大なる進步を遂くることを得たり。

鐵道制度

鐵道行政に關しては各聯邦が各其の鐵道規則を制定したるは恐らく適當の措置ならんも、伯林には各聯邦の代表者より成る鐵道會議なるものありて鐵道事業の統一を圖り、今日まで鐵道制度は運河制度と同しく統一の目的を遂くることに努めつゝあり。電信電話も亦鐵道及び運河事業と相關聯して一國の繁榮を圖り萬事整頓の途に就けり。政府は又疾やくより鐵道の敷設及び營業に對して周密なる監督を實行し、千八百三十五年に於て既に公益の爲め政府は何時にても鐵道事業に干渉し得ることを定めたり。

獨逸に於ける鐵道制度の沿革は國家監督制度の發達を示すものなり。即ち千八百四十三年まて獨逸には私立の鐵道のみ存在し、政府は其の敷設を奬勵するため配當率の最少限を定め、千八百四十八年より六十二年まて各邦に於ける鐵道線路は盛んに延長せられたれとも、翌六十三年より七十七年までは國歩艱難の時代にして其の建設を阻碍され、唯多數の私立鐵道が計畫せられたるあるのみ。尋て千八百七十七年より國有鐵道が長足の進歩を表はし。其の數に於ても將た亦延長に於ても著しく膨脹したり。

採鑛業

又鐵道營業上に於ては一般に投機の目的を以て其の運賃を倍加するが如き拙策を取らず、鐵道敷設の請願書には既に國內に行はれつゝある賃率、營業法及び其の他の條件を記載せしめ、且つ其の敷設に就ては軌道、停車場及び其の他の設備につき一定の形式ありて、起業者は總て之れを遵奉するの義務あり。而して公私の鐵道監督機關は其相互の間及び議會との間互に相聯絡しつゝあり。總て此等の制度は一方に於て大なる事業には必す統一を要することを示し、又他方に於て、大國民の繁榮發達を圖るには事業の區分と調和とを要することを敎ゆるものなり。

獨逸の鑛產物は其の種類よりも寧ろ量に於て著しく、石炭、鐵、錫、銅及び銀はウェストファリヤ、普魯士、索遜、シレシヤ、ロートリンゲン、ハルツ、ルクセンブルヒ等に多く產出し、就中石炭坑は其の鑛區の廣大なる歐洲第一にして、產業上の燃料として廉價の石炭を供給しつゝあり。炭坑は又英國に於けるが如く鐵の產地と相接近し、製鐵事業を進捗せしむるに非常に便利なる狀況に在り。鐵の產額は多大ならざれとも鎔鐵法進歩して良產物を出し、一般に獨逸の冶金術は採鑛法と

俱に大なる進歩を示しつゝあり。

此くの如く鑛業の盛大なる結果ドルトムンド、ドゥキスブルヒ、クェルン地方の鐵山にては二十年間に八割の人口を增加したり。要之獨逸は鐵と石炭とを幷び に産するに依り、冶金及び機械工業の盛大を致し、其の結果多數の富有なる大都會を發生したり。最後に最近に於ける鑛業の發達を窺ふに、千九百二年に於て、全國の鑛産物總價額は十二億三千六百萬馬克に上り、國內各種の鑄造所に於て製出せられたる金屬品の價額は六億七千二百萬馬克に達したり。

電氣事業及ひ化學工業

電氣事業は獨逸に於て最も迅速なる發達を遂けたるものにして、即ち各種の電氣事業は電氣機械及ひ電氣鐵道の建造に從事する會社の手に依りて大に發達したり。是に於て鐵道及運河の通ぜざる僻地も電氣鐵道に依て大市場と聯絡し、機械及ひ廉價なる動力の欠乏に依て廢絕したる獨逸の小工業は再復活し得るの機運に向ひたり。即ち小なる電氣起動機は曩に編物業が獨逸中部に起りたる場合の如く獨逸の小工業を再興し、獨逸は孰れの國よりも最も熟く電氣を利用する所となりたり。此の電氣事業と相駢んて發達の速かなるは化學工

業なり。即ち此種の事業家は大學に於けると同樣に進歩したる方法を採用し、普通の技師は罷められて博士の稱號を有する者之れに代り、十分に其の學理と經驗とを活用することを得たり。其他の産業は以上二者の如き偉大なる發達を遂げざりしが猶著しき成功を示したり。斯く各種の産業が發達すると俱に國內の諸市府は日を趨ふて益繁榮を極めつゝあり。

外國貿易と國民の訓練

獨逸人は最初より生産業と俱に通商の發達を圖るの必要を認めたり。蓋し如何に多額の貨物を産出するも市場制度及ひ外國に輸送する手段にして備はらずんば何等の效果なければなり。而して獨逸の外國貿易の發達は其の海外移住民に負ふ所勘からず蓋し此等移民の往く所として母國に對する忠誠の思想を伴ひ此の思想は又有形的に表現せられて母國の産物に對する需要を增加したればなり。抑チュートン種族の生産物が經濟界に一大勢力を樹立したるは獨逸の事業家、職工、學者及ひ其の政府の力に負ふもの甚多し。元來獨逸は國民皆兵の主義にして青年は皆帝國の軍隊に入りて敎訓せらるゝに依り、民主々義の見地よりすれば之が爲め職工の數を減し生産者に重大なる負担を課し産業

上不良の結果を生ずべき筈なれとも、獨逸の青年に對する軍隊的教育は却て彼等の間に國家の利害休戚に關する現實的の思想を養ひ、能く訓練の必要と生產の目的とを理解せしむる効力ありたり。彼等は又此の愛國的思想と相併んて農工商の諸業は總て科學として十分なる研究を値するものなることを認識したるに依り、此等の事業に關する教育事業が大に重んぜらるゝに至りしは敢て惟しむに足らす。此くの如くにして獨逸人は能く產業上の大競爭の眞相を明かにし、社會は奮て此の問題を講究し、諸種の學校は之れに關する智識を與ふることに汲々たり。是に於て彼等は最も善良にして最も熟練なる國民は最も進歩したる機械と精巧なる製造品と且最も有効なる武器を有し、隨て有力なる國家組織を完成して世界に覇を稱ふることを信するに至れり。

前述の目的を達する爲め最近十年間に於て商業其の他の產業に關する學校の建設せられたるもの甚多く、人民は此等の機關に依て科學者の執る手段と其の發見とに接することを得たり。今や國內を通して多數の工業學校ありて此處に數千の生徒は工業の技術に關する高等なる教育を受け、工業界の人民に專

實業教育

(一)工業教育

門的の教育を與ふる目的を達しつゝあり。而して各聯邦政府は此かる教育が啻に產業の發達を奬勵する所以なるのみならず、產業の集中に對して小工業を維持する手段なることを認むるに至れり。猶政治的の意味よりすれば此の教育に依て社會黨の危險を除去することを得べし、何となれば彼等の不平は唯貧富の差異にのみ原因するものにあらさるを以て、教育の力に依りて彼等の愛國心を涵養し、依て以て彼等の政府に對する反感を芟除することを得ればなり。要するに此等の新教育に依て舊式なる年期奉公の制度を打破し、彼等をして今日の大產業界に存する分業及ひ專門業に堪能ならしむるは即ち獨逸人の大目的とする所なり。

(二)商業教育

獨逸の商業教育も亦工業教育と同しく盛大なり。多數の商業學校は商業會議所及ひ各市に依て各市府に建設せられ、此處に商業は一つの科學として講ぜられ、他國の物產及ひ其の通商機關、言語等を教授し、生徒は卒業の後或は本國の商會に入り、或は外國に赴て實地の研究を積むものとす。而して一旦海外に赴きたる者は有益なる智識を蓄ひて本國に歸還し、以て外國市場に對する輸出品

の生産者に多大の援助を與へつゝあり。此の制度に依て又船積の方法を改良して購買者の意を迎ひ通商上に大なる利益を博し得たり。

此くの如く獨逸に於ては一方に熟練なる工業者あり、一方に經驗に富める商人ありて其の貿易は世界に優勝なる地位を占めつゝあり。

政府と産業

獨逸に於て政府は初めより帝國の發達に就て主要の活動を試み、國家の權能に關して敢て議論を闘はす者なく、『商業關係の確立を圖るには決して事業經營の絶對的自由を認むべからず』とは當初より獨逸に行はれたる格言なり。此くの如く國家の權能は十分に認められるゝに依り、政府の根本的政策が干渉政策に出つべきことは自然の勢なり。是に於て人民の經濟上及び社會上の繁榮を來すべき種々の計畫は政府に依て實行せられ、生命及び事故に對する强制的保險制度の如き之れを他國の法制に求むるも未だ其の先例を見ざる所のものあり、隨て政府の有する權力も甚廣大にして商業上の規則貨幣の改鑄、紙幣及び銀行の創造、鐵道及び運河の監督、郵便法並關稅法の制定權等を包含せり。而して此くの如く有力なる政府の思慮ある施設に依て常に人民の福利を增進しつゝあり。

獨逸の歷史上法律の力に依て產業を保護したる例甚多し。例へば奈破崙戰爭後獨逸の產業は英國の壓倒する所となりて著しく衰微したるに當り、普魯士は先つ千八百十八年に關稅法を發布して英國品の輸入を阻止せんとし、各聯邦も亦之れに倣ひたるが如き保護政策の著例なり。其の他商業組合の監督に關する法規は法律の力を以て能く產業を奬勵し得たる例證なり。此種の制度は三樣に發達し、第一に販賣契約の制度に於ては物品の市價を一定し、次に販賣シンヂケートの制起りて其の會員は注文、賣却及び利益を共同にすることゝし、第三に株式、債券等を管理する組合の制度を生じたり。

シンヂケートに對する監督

獨逸は其の農業時代より工業時代に移る過渡の時期に於て多數の商業上のシンヂケートを生じたり、而して今日に於ても實業界の重要なる部門は此等シンヂケートの形式を取れる制度に依て支配せられつゝあり、然れども此等の組合が公益に反する行動あることは一切許容せられざりき。抑人民は互に仇敵にあらざる限り生產者として大なる効果を收むべき組合の制度を採用するは

可なれども、シンヂケートは寧ろ此の國に於て保守的に取扱はれたり、是れ蓋し一部政府の措置に依るものなること疑を容れず、即ち政府は種々の制度が發達して大なる勢力を得遂に政府の命令を拒むべき地位に達する以前に、浩瀚なる會社法を發布して會社の計算を公示せしめ、如何なる帳簿類も必要に應じて之れを檢査することを得ること、し、支配人其の他の役員は其の會社事務の處理上委任の規則に反したる場合に必ず責任を負ふこと、せり。此くの如く國民の產業を威嚇し得る所の機關は却て甚必要なるものとして一般に認められつゝあり。

千八百六十七十年代戰爭の產業に及ぼした影響

千八百六十四年より七十年に至る六年間に於ける三回の戰爭は獨逸の歷史に一大變遷の時期を劃したり。當時普墺兩國はホルスタイン州を略取して其の獲物の分前につき爭議を生し、千八百六十六年の七週戰爭を起すに至りたり、而して千八百七十年の普佛戰爭は即ち此の戰亂時代の結末なり。此等の大戰爭の終結するや、獨逸は茲に帝國統一の偉業を完成し、政府は初めて貨幣及び銀行の制度に變革を行ひたり。抑經濟上の見地よりすれば當時獨逸の產業組織は甚不完全にして、機械及び機械に依る生產は制限せられ貨物の市價甚高く交通の機關も亦不完全なりき。此の時に當て莫大なる償金が佛國より獨逸に流入したることゝ獨逸の戰勝に因る企業熱とは、自然の數として經濟界に投機の時代を釀生し、遂に千八百七十六年に至て產業界は無政府の狀態に陷り、人民は外國に向て一大移住を試むるに至れり。其の後二年にして政府は進歩せる政策に基て關稅を引上げ、同時に又鐵道買收に着手したり、而して此の關稅は主として新大陸よりの農產物に對して課せられたり。此の關稅政策の結果にや又は鐵道賃金を整理したるためなるや將亦此の兩者の結果にや、要するに獨逸に於ける商業上の利益が確立したる時に始まるものとす。此くの如くにして獨逸は世界の商業國として漸次雄飛するに至り、其の關稅は各國との通商條約上幾多の修正ありたれとも、獨逸外交家の卓絶なる手腕に依て能く獨逸人の利益を增進する手段たることを得たり。要之獨逸の產業が戰後一躍して無比の發達を遂げたるは偏に注意深く且訓諫ある國民と聰明有力なる政府の力に歸すべきものなり。

帝國建設史

初期の情態

吾人は以上十數項に互りて獨逸帝國に於ける產業勃興の狀態を敘したるに依り、茲に飜て此の大帝國が如何にして建設せられ、如何にして今日の繁榮發達を致したるかを窺はん。今日獨逸帝國として世界に雄視する一大强國も一朝にして其の大業を成し得たるものにあらずして、現在の地位に達するまでには幾多の慘憺たる歷史を繰返したり。先つ千八百四年の頃獨逸は全く小邦に分裂して毫も統一せず、其の初めて同盟を形造りたるは千八百十五年の事なり。而して千八百十四年にカルスバットに開かれたる聯邦會議の後三十年間は平和を保ちたれとも、此の間寧ろ聯邦組織に對して反對の氣勢を高め、遂に國內の諸邦は二派に分かれて互に相爭ひたり。此の抗敵態度は千八百三十三年の關稅同盟に依て稍緩和せられ、關稅を輕減して隨て政治上に於ては各邦の統一を促がし、經濟上に於ては通商の發達を來したり。當時人民の政府に對する反感は千八百四十八年の革命に依て十分に表示せられ、爾後政府も曉る所ありて大に寬大なる政策を採るに至れり。同年より六十二年までの間に普魯士議會の成立及び解散あり、シュレスウヰッヒホルスタイン問題あり、丁抹との戰爭あり、千八百六十二年に至りてビスマークは普魯士王の大宰相として初めて其の鐵腕を振ひ、以て帝國統一の大策を建立したり。

普墺戰爭

獨逸統一事業の第一着手として普國は先つ獨逸に對する墺國の利益を奪取する必要あり、之れか爲めに多くの躊躇なくして戰爭は開始せられたり。此時に當て普國は其の鐵道及び軍隊の制度完備したるに依り、宣戰後僅かに二週日にして五十萬の軍隊を墺地利の國境に送り、交戰七週日の後墺軍全く敗られ、ブラーグの和約に依て普國の勝利は確められたり。此の和約は普國に取りて一層大なる事業の端緒を啓きたるものにして、之れを成功するには一層永き日月と一層困難なる戰勝とを要したり。即ちビスマークは普墺戰爭に依て其の大經論の半ばを成したれとも、獨逸人の半部のみを以て政府を建て、南部獨逸諸邦をば同盟以外に置て以て滿足するものにあらず、是に於て彼れは猶一步進んで獨逸の大統一を企畫し、之れが爲めに勢佛國と衝突して干戈に訴ふることあるも決して辭せざるの意氣込みなりき。

南北二大同盟及び普佛

當時獨逸の二大同盟は條約に依て其の將來の關係を商議決定することを得

戰爭

たり、北獨逸同盟は千八百六十八年七月一日に成立し、同盟の性質は單純なる聯合にあらず各邦の同盟に、あらず同盟の名を假粉したる一つの聯合國家にして、普魯士は即ち其の指導者なり。而して和約の條件は南部諸州をして北部の同盟と如何なる關係を保つべきかを決定せしむることゝせり、是に於て此の兩者を接近せしむるため普國は千八百六十八年に關稅議會を召集したり。此くして成立したる同盟は、千八百七十年に奈破崙三世の獨逸地方に對する詭計に對し軍隊制度統一の事ありて益鞏固となりたり。翌七十一年佛國との戰爭終結して統一事業は茲に全く完成したり。

此くの如くにして獨逸國民の保全を破りたる古來の敵を挫きて獨逸は茲に再び統一せられたるを以て、彼等は現在の成功を以て過去の光榮ある歷史に比考し、カール・デル・グロッセ及びオット一世の帝國を再建せんことを夢みたり。隨て人民は戰爭の結果に就て熱心なる注意を拂ひ、新なる獨逸皇帝が其の人民に與へたる第一の詔勅に於て平和的政策を確保したるに對し、皆喜んで之れに謳歌したり。

獨逸人が巴里を略取する以前に南北兩同盟の結合は既に確定し、將に憲法を發布せんとするの時機に達したり、是を以て千八百七十一年春伯林に召集せられたる帝國議會は北獨逸同盟の條約を基礎としたる憲法を制定したり。此の新憲法は曩の同盟條約を補修して新なる政治に適せしめ、人民の權利を削減して大に政府の權力を擴張したるものにして、是に於て歐洲の中部に普魯士を盟主としたる一大國家を現出したり。

頻々たる戰爭は此の不可思議なる國民に驚くべき勢力ある組織を齎らしたり、即ち國民の團結力是れなり。彼等は戰爭に依りて自ら訓練し、千八百六十年より七十年に至る短歲月の間に團體の力の偉大なることを學び得たり。元來獨逸には種々の階級あり、普國の地主は軍隊的組織の政府を建立せんとし、勞働者は社會主義の產業國を建設せんとしたり、而して猶此の兩階級の間に商人と猶太人との階級あり、此くの如く獨逸は種々の階級に分れて互に融和し難き障壁を以て分劃されたるに依り、自ら社會上種々の重大なる問題を發生したる所以なり。而も尙一國の統一が完全に保持せられたる所以のものは國民の團

結力の強大なるに歸すべし。又戰爭以前に於て一國の風俗は進歩することなく人民は皆自然の運命に滿足したりしが、戰後彼等の思想は一變して最早舊風に甘んぜざるに至れり。加ふるに帝國統一の業成るや法律制度は悉く整理せられ、從來各聯邦及び市町村の間に存したる數多の小制限は悉く撤廢せられたるに依り、國家は益繁榮の域に向ひ戰時の効果を十分に收むることを得たり。

殖民政策

千八百六十六年より七十一年までの間、獨逸は其の統一の事業と歐洲に於ける其の軍事上の地位を確立保全することゝに汲々たり。而して其の數次の戰勝は國内の産業を發達せしめ其の生産力を增殖して、獨逸をして世界の市場に入ることを得せしめたり。獨帝（カイゼル）が疾やく既に『獨逸の將來は海に在り』と喝破したるは能く帝國の地位を認識したるものにして、獨逸は實に其の豐富なる産物を海外に輸出するの必要あり。是に於て獨逸は其の殖民地を開拓して産業の新發展地を造らんとし、先つ其の競爭者との間に通商條約を締結したり。抑獨逸の殖民政策は千八百八十四年に始まり、急速なる發達をなして亞弗利加に廣大なる土地を開拓することを得たり。然れとも其の初めに當ては稍殖民政策の實行に時機を失したるの感あり、蓋し此の時期までに苟も白人の居住し得る新天地は既に他國の占領する所となりたればなり。而も猶獨逸人は其の不屈の精神に依て殖民地を開拓し、殖民よりも寧ろ通商を主として世界の各所に根據地を造りたり。而して其の通商の方法の優秀なると其の商人の智識の廣きとに依り、益世界の市場に其の勢力を擴張して宇内屈指の商業國となることを得たり。

社會主義者の運動

獨逸に於ける内部の平和は社會主義者の運動に依て威嚇せられたり。是れより先政府と教會との衝突ありて、政府の當局者は其の威信を保つ方策として寧ろ人民の不平運動に讓歩するの勝れるを覺りたるに依り、社會主義者の主張も亦多く政府の容るゝ所となり、當時貧民の負擔を減する數多の法律發布せられ、此等の法律は皆勞働者保險の形式を取りて其の病者及び老者を保護したり。而して此の保護制度の下に國家は歳入につき人民に依頼するの必要なきことを期待したりしが、結果は却て反對に出てたり。即ち産業保護の費用は莫大なる陸海軍費と相待て國家に二重の負擔を負はしめ、國家は到底其の負擔に堪え

ずして干渉政策を行ふの止むなきに至れり、故に政府の干渉政策と産業上の國有制度とは幾分社會主義自身に依て導かれたるの觀あり。是に於て國家の權力は大に個人の力の足らざる所を補ひ、以て獨逸人の採るへき針路を序次嚮導したり。

獨逸の將來

獨逸の將來は之れを現在の狀態に依て忖度するに甚有望なり。政府の施政は秩序整然として厘毫も犯す所なく、一國の富と商業とは最近に於て長足の發達を遂け、莫大なる軍費も國家の收入に超過するに至らず、人民は愛國心に富みて教育の結果種々の技術に棟達し加ふるに忍耐力に富みたるを以て、自ら産業の盛大を致すことを得たり。是に於て獨逸の領域は將來に於て益擴張せらるへく、絕えす國內の紛議に困める歐洲の諸國中或は遂に獨逸の併呑する所となるものなしと謂ふへからず、要するに獨逸の國運は駸々乎として益發達すへきこと疑ふへからざる也。

第七章　結論

本編論述の體裁

本編論述の體裁——産業發達の大勢——階級制度の變遷——財産思想の發達

以上數章に於て吾人は世界に於ける産業制度の沿革を略述したり、其の記述の體裁初めに疎にして終りに詳密なるは機械に依る近世の産業制度が最も復雜にして且重要なるに因るものにして蓋し筆路自然の結果なり。抑近世の産業制度は今日宇內に覇を稱ふる諸國が其の富強を致したる所以のものにして最も吾人の研究に値すること論を竢たす、是れ吾人が此の時氏の沿革を叙するに當て最も力を用い、特に其の主要なる英米獨三國の發達を列叙して現今の産業制度が如何にして建設せられたるかを明かにしたる所以なり。

産業發達の大勢

産業社會發達の大勢は之れを要するに一方に於て分化作用に依て益復雜なる域に進むと同時に他方に於て之れを統一するの勢を示しつゝあり。例へば生産及び消費の關係上古代の人民は個々獨立の經濟を營み其の組織頗る單純なりしが、社會の進歩するに從て産業の組織は益分化して復雜綿密となり、今日

に於ては國家經濟の時代より進んで世界的經濟の時代に推移しつゝあり。而して此かる大なる組織に對して何等統一する所なくんば、社會は到底完全なる發達を遂ぐること能はざるべし、是れ分化運動に對して一方に統一運動の必要ある所以なり、其の詳細は後章に於て之れを說明すべし。

階級制度の變遷

人民間の階級の變遷も亦產業社會發達の大勢を窺ふへき重要なる事項なり。抑社會上の階級は其の政治的階級たると將た經濟的階級たるとを問はず、共同の性質を有する者相集りて一團をなすに依り形成せらるゝものにして、經濟上の階級に就て之れを觀察すれば古代蒙昧の時代に於て婦人は產業上主たる勞働者にして、次て奴隸制度の時代來り、最後に自由勞働の制度を生じたれども、勞働者は久しく社會の下流に沈淪するを免かれざりしなり、殊に希臘羅馬印度を初め支那、日本等古代に於て比較的開明の域に進みたる社會に在て、勞働者は最も下賤なる階級に屬する者として卑まれ、殆んど人間の待遇を受くること能はざる有樣なりき。然るに近世文明思想の發達と俱に勞働者も亦漸次其の地位を上進することを得、勉勵と智能とに依て遂に社會の上位を占むる者多々ある

に至れり。要するに產業上社會は雇主と傭人即ち資本家と勞働者との二大階級に分たれ、一は貧窮にして下層の地位に就き、一は富み且つ貴き地位を占め、以て互に相爭ひつゝあり。世界の歷史は一方より觀察すれば此等貧富兩級の間の爭鬪史にして、米國の如き平民國に於てすら時として兩者の間に劇烈なる爭議を生ずることあり。然れども統一調和の風潮は此等階級爭鬪の間にも亦行はれ兩者の間を區別する儼然たる障壁は漸次撤去せられ、互に相融和して產業の發達を遂げんとするに至れり。而して人民間の階級は古代に於て重に政治的の性質を有したりしが、近來社會の組織が經濟上に其の基礎を置くに至り、階級の基準も亦經濟的となりたり。

財產思想の發達

產業の沿革上財產思想の變遷も亦重要なるものなり。古代に於て天產物は總て人の採取するに任せ、隨て財產の觀念全く發生せざりしが牧畜時代に入り て僅かに動產に關する所有權の觀念を生し、次て農業時代に及んで初めて土地所有權の思想を發生したり。而して現今に於て財產權の觀念は著しき發達を遂げ、經濟社會の事實の一となり、今猶絕えず發達しつゝあり。茲に敘述の序て

を以て近世に於ける財産思想推移の大勢を窺ふべし。

(一)自由貨物殊に智識上の財産の增加

發明若くは發見に依る機械其の他の物品は當初一個人若くは一團體の獨占に歸したりしが、社會の進歩するに從て一般に廣く行はるゝに至り、遂に至く自由貨物として取扱はるゝものとす。彼の特許權、版權の如き智識上の財産權も、其の保護は一時的にして歳月を閲するに從ひ萬人に共通の財産となるに至るべきなり。

(二)私有財産の制限——公有財産の擴張

此の現象は社會の復雜なる發達と倶に之れを規律する權力の發達に基因するものにして、森林行政上官有林野の擴張の如き其の一例なり。其の他公園學校、圖書館等公有財産の擴張及び公共の用に供せらるゝ郵便電信等の擴張交通機關公有の制度等は悉く皆私有財産の制限と同時に公有財産擴張の趨勢を示すものなり。

(三)私有財産の社會上に於ける發達

今や私有財産は社會の委任に基くものなりとの思想漸次發達しつゝありて、私有財産制は社會が之れに依て利益することを基礎として成立するの勢なり。是に於て社會上種々の新なる財産權を發生したり。即ち一二の例を擧ぐれば得意の如きも時として一種の財産として取扱はれ賣買の目的物となることあり、晩近に至て勞働者の負傷に對する保護權及び勞働權の如きも私權に類する一種の權利として公認せらるゝに至れり。

(四)私有財産取得の方法

古代に於て財産取得の方法は腕力に依りたれとも、社會の進歩するに從ひ勞役に依て取得するを常とし、現今勞役なしに財産を取得することは大に制限せられつゝあり。例へば法律を以て獨占權の利益を削り又は遺産の相續に重稅を課するが如し。

第二節　時代の區分

經濟社會發趨の觀察點——(一)生産消費の關係上——(二)貨物移轉の關係上——(三)勞力上——

時代區分に關する注意

以上經濟社會の發達につき重要なる點を說明したり。然れども吾人は猶一層概括的の說明を與へて以て讀者をして產業發達の狀況を一目瞭然たらしむべし。既に緒論に於て論したるか如く、社會は之れを種々の方面より觀察することを得へし、單に經濟上に於ける社會の發達に就て見るも亦種々の觀察點あり、前數章に於て吾人は生產手段の沿革を基準として社會の發達を論じたれども、是れ經濟上に於ける社會觀の一端たるに過ぎず、其の他學術の進步するに從ひ此の種の研究は益發達すべく、從來學者の研究したる所に依るも猶數種の重要なる觀察あり、而して此等は皆產業制度に關する吾人の研究に資する所甚大なるに依り、左に其の要點を比較論究すべし。

經濟社會の發達につき學者が觀察の基本となしたるもの、中重要なるもの三あり。

第一　貨物の生產消費の關係を基本とする觀察

第二　貨物移轉の關係を基本とする觀察

第三　勞力を基本とする觀察

以下順次之れを說明すべし。

第一　貨物の生產消費の關係を基本とする經濟社會の發達

此の觀察はブュッヘル氏が其の著產業發達論に於て說明したる所にして、古來の沿革を左の三期に分類したり。

(一)獨立經濟時代
(二)市邑經濟時代
(三)國家經濟時代——世界經濟時代

(一)生產消費の關係上

(イ)獨立經濟時代

獨立經濟時代と稱するは即ち往古戶々獨立して生活を營みたる時代なり、之れを詳言すれば此の時代に於ては各人各個に其の需要を充たすを理想となし、一家內に於て其の所要の物品を生產して之れを消費しつゝありしもの也。隨て人類の經濟關係は多く其の戶外に出でず獨立經濟の名ある所以なり。之れを生產方法の沿革に比較すれば上は漁獵時代より牧畜時代を經て農業時代に至るまで此の獨立經濟時代に相當せり。

(ロ)市邑經濟時代

市邑經濟の制度は手工業の發達に伴ひて發したり、當時貨物は主として手工に依る專門的技術者に依て製造せられ、彼等は同業組合なるものを組織して一種の團體をなし、社會上嚴然たる一階級を建立したり。是に於て彼等の集まる所各地に市邑を形造り、經濟の範圍も亦擴張せられて市邑經濟の制度を成すに至りしなり。此の時代に於て貨物の需要者と供給者との關係は直接的にして、帽子を要する者は其の製造業者に就て之を購ひ、靴を要する者は必ず製靴業者に注文して造らしむると云ふが如く、兩者の間に仲介者なるものなきを常とし たり。隨て貨物の交換媒介を業務とする商業が發達せざりしも亦自然の勢なり、故に當時人類相互の經濟關係は甚單純なりき。

(ハ)國家經濟時代

社會が國家的の發達を遂くるに至りて初めて國家經濟の時代を成したり、此の時代に於て生產は機械の活動と工場の制度とに依りて大規摸に行はれ、貨物は數多の仲介者を經て生產者より消費者の手に移さるゝに至る、是に於て商業は盛に行はれ各國は世界の市場に起て互に競爭しつゝあり、是れ即ち吾人が機械工業時代として論じたる現時の狀態なり。

(ニ)世界經濟時代

猶此の勢を以てすれは將來必ず世界經濟の時代を發生すべきこと豫測するに難からず、否寧ろ今日に於ても經濟社會は國家の範圍を脫出して世界的に發達しつゝあること爭ふべからず、吾人は今日外資輸入と云ふが如き詞を聞けとも、將來に於て資本の流通は必す內外の區別なきに至るへきなり、即ち經濟上世界を打て一大組織をなすに至るも亦遠きにあらざるべし。

(二)貨物移轉の關係上

第二　貨物移轉の關係を基本とする經濟社會の發達

此の觀察は獨逸の經濟學者ブルーノー・ヒルデブランド氏の唱道したる所にして三期に區別さる、左の如し。(Bruno Hildebrand-Jahrbücher für Nationalökonomie,—1864. Bd. II. s.l.)

(一)物品交換時代
(二)貨幣經濟時代
(三)信用經濟時代

漁獵時代より農業時代に至るまては主として物品交換の制度行はれ媒介機關たる物即ち貨幣に依て交換せらるゝと勘し。次て手工業時代に於て貨幣が

交換媒介の主働者となり、今日は又進んで信用經濟の時代となり物品の交換に敢て貨幣を要せざに至れり。其の詳細は普通の經濟學書に於て明かなるを以て茲に贅せず、唯此等時代の區別は其の主要なる現象に就て觀察したるものにして、貨幣經濟時代に於ても物品の交換行はれ、信用經濟時代に於ても貨幣の流通あること特に注意を要す。

(三)勞力上

第三　勞力を基本とする經濟社會の發達

勞力は生產の一大要素なり、其の社會上に於ける古來の變遷を研究するは經濟史上頗る趣味ある事なれとも、茲には其要領を說述すへし。

(イ)婦女勞働時代

(一)婦女勞働時代
(二)奴隸時代
(三)慣習上の自由勞働時代
(四)法律上の自由勞働時代
(甲)個人契約
(乙)團體契約

(ロ)奴隸時代

第一期は漁獵時代より牧畜時代に亘り即ち蒙昧の時代に行はるゝ制度なり。當時男子は戰爭若くは狩獵を事とし一家の主たる勞働は婦人に依て行はる。此の時代に於て勞働は頗る單純にして且其の範圍も狹小なるを以て、偶敵人を捕虜とすることもあるも彼等を奴隸として使役することなく悉く之れを殺戮したり。婦人の勞働と俘虜の殺戮とは即ち當時の二大特色なり。

奴隸制度は主として農業時代に於て行はれ各種族間の戰爭に依て生じたる一つの制度なり、即ち當時人民は一定の土地に住居して農作を業としたるに依り、勞働者の必要を感じ、前時代に於けるが如く俘虜を殺すことなくして之れを奴隸として使役したるなり。隨て當時奴隸は產業上重要なる一つの機關にして且つ商業の目的物となり、公然貨物として賣買せられたり。

歐洲に於ては上古希臘羅馬の時代に奴隸の制度發達し、中世封建制度の下にも亦奴隸の一種なり。亞弗利加に於て奴隸の賣買は近世まて行はれ、亞米利加に於ては南北戰爭以前まて此の制度が存在したること既に論じたるが如し。

(ハ)慣習上の自由勞働時代

第三期は強制勞働より自由勞働に移る過渡期に位するものにして、勞働者は前時代に於けるが如く身體上甚しき拘束を受くることなく、自由の契約に依て勞働に服したれども、是れ唯慣習として行はれたるのみにして法律上の權利思想に基きたるものにあらず、手工業時代に於ける年期奉公の制度は即ち其著例なり。

(ニ)法律上の自由勞働時代

第四期は即ち完全なる自由勞働の時代にして現今に於て行はるゝ所の制度なり、是に於て勞働者の自由は法律上完全に認められ、其の地位も亦大に上進したり。而して勞働者と雇主との間の契約は多く個々的に締結せらるれども、勞働社會の進歩するに從ひ、彼等の間に利害俱に相團結するの風を生じ、雇主との間の契約も亦團體的に締結せらるゝに至れり是れ即ち第四期を二期に分ちたる所以なり。

以上數種の分類は互に相衝突せざるのみならず、之れを比較對照して產業制度の發達に關する完全なる思想を養ふことを得べし、乃ち便宜の爲め左に之れを表示すべし。

生產上	第一期	漁獵時代	獨立經濟時代
		牧畜時代	
	第二期	農業時代	
	第三期	奴隸時代	
貨物交換上	第四期	手工業時代	物品交換時代
		市邑經濟時代	
		貨幣經濟時代	
	第五期	機械工業時代	信用經濟時代
勞力上	婦女勞働時代		

(慣習上自由勞働時代)
(法律上自由勞働時代)
(國家經濟時代(世界經濟時代))

時代區分に關する注意

茲に注意すべき第一點は、社會の進歩は漸進的にして、時代の區分は其の時代に於ける主要なる特色を標榜したるものなること是れなり。例へば手工時代に於ても農業時代の特色を存し、機械工業時代に移りても手工業の制度が廢滅せざるが如く、又信用經濟時代に於ても貨幣經濟時代に於ても物品交換が行はるゝが如し。第二點は世界の廣き人類の多種多樣なる社會の發達が必ずしも普遍的ならざることなり、故に吾人は今日機械工業の時代に在りと雖も、是れ開明の域に進みたる社會の事にして、亞弗利加其の他未開の土地に於ては今日猶漁獵を事とし水草を逐ふて轉徙しつゝある種族あり。要するに時代の區別は時に於ても處に於ても絕對的のものにあらざる也。

第二編　産業

第一章　原始的産業

既に緒論に於て論じたるか如く産業を分て(一)原始的産業(二)製造業(三)商業及び(四)運輸業となす、而して原始的産業の中には農業、林業、採鑛業、及び漁業を包含せり。

吾人が原始的産業を最初に論ずる所以のものは、此種の産業は其の名の示すが如く總ての産業の基礎にして且産業中最も早く發達したるものなればなり。蓋し原始時代に在ては人類の智識は進歩せず社會の狀態も亦甚單純にして、各人各個に自己の需要を充たしつゝありしに依り、商工業の如きは毫も發達せず、人類は恰も他の動物の如く自然の産物を資て生活しつゝあり、是れ原始的産業が最も早く發達したる所以にして、他の産業は社會の進歩するに從て漸次發達することを得たり。而して總ての産業は自然の産物を基本とするものなるに

依り、原始的産業は産業の先驅にして同時に又總ての産業の眞基礎たり。

第一節　農業

第一項　米國の農業

多種多様なる農業

多種多様なる農業——農業上の運動——農業機械の進歩——多種農業の原因——機械の使用に因る發達——耕地の大小

世界に於ける農業の制度を叙するに當り、吾人は世界の三大産業國たる英米獨の三國に就て其の概要を窺はんと欲す。而して米國の農業は英獨二國に於けるよりも多種多様の發達を成せるに依り、先つ此の國の農業を説明すへし。

米國農業の多種多様なるは其の制度の特質及び産物を市場に運搬する方法の多様なるとに基因す。然れとも建國の初めに於て米國の農業は殆んと見るに足るへきものなかりしなり、即ち米國には當初少許の草木を除きて土着の經濟的植物なるものなく、今日貿易品として盛に産出せられつゝあるものも當時は皆外國より輸入せられたり。

反之現今米國の農業は其の多種なると產出額の多大なることに於て世界に其の比を見ず、殊に貨幣及び運輸の制度完備し製造事業は廣く行はれて市場の擴張せらるゝに從ひ、益耕地を開拓し耕作の方法を進捗せしめつゝあり。

農業上の運動

(一)耕地の擴張

農作の方法に關することは之れを別として、米國に於ける農業上の運動に二個の顯著なる現象あり。其の一は牧場を變して耕作地となすことなり、是に於て牧人生活は漸次衰頽して到る處に農作地の開拓を見るに至れり。然れども國中の或る部分は土地磽确にして耕作に適せざる處あり、此かる地方の農夫は收穫失敗の結果他に移住し、其遺棄したる耕地は直ちに牧者の手に歸し、一般の例外として農作地を變して牧場となしつゝあり。而して今日の牧畜業は農業制度の發達と俱に昔時に比して著しく進歩し、其の結果亦頗る有利にして、農家の收益事業として寧ろ家畜の賣却に依頼して穀物の販賣に依らざるものあり、此の種の農家に於ては穀物は食料として用いられ其の結果肥料として酬ひ來るに依り、所謂應報の循環則を完全に表示するものなり。

(二)乾酪製造業

第二は產業として乾酪製造事業の發達なり。此の新事業が發展したる原因は牧畜業の進歩に歸すへきこと論なけれども、猶都會の發達と交通機關の完備とに依り急速に其製產品を市中に運搬することを得たるに原由するもの多し。是に於て乾酪製造業は農家の副業たる代りに一つの獨立したる產業となり、クリーム、チーズ等の製造工場は處々に開設せられたり。殊にバブコック試驗法の發見と牛乳貯藏法の特許とは乾酪製造事業に一大進化を惹起し、此の種の製造に從事する者非常に增加したり。隨て今日に於ては之れが爲めに特種の工場建設せられ、國產として盛に海外に輸出せらるゝに至れり。千九百年度に於ける全國の乳牛は千八百十一萬余頭に上り、其の產乳額は七十七億二千八百五十八萬ガロン(一ガロンは凡そ我か二升五合)に達したり、而して乾酪製造事業に就ては左の如き產額を示せり。

バター	一、四九二、六九九、一四三封度
チーズ	二九九、〇〇六、八一八封度
コンデンスミルク	一八六、九二一、七八七封度

而して此の事業の最も多く行はるゝは紐育、ウヰスコンシン、アイオワ等の諸州

とす。

農業機械の進歩

米國の農業は機械應用に依りて驚くべき發達を遂けたり。殖民時代に於ては重に使用せられたる農具は鍬（ホー）及ひ木製（ウッドゥン、プラウ）の犂にして千八百年に至るまて耙（ハロー）は輸入せられず刈入機は十九世紀の中葉に至りて初めて製出せられたり。要之米國に於ける農業上の新時代は南北戰爭後其の紀元を開き、此の時代に入りてより種々の農業機械使用せられ同時に科學的の方法を農作上に應用したり。

多種農業の原因

前陳の如く米國に於ける農業の多種多樣なるは主として氣候及ひ地味の差異多きに因れとも、鐵道の普及と市場の擴張とは農產物の多種ならんことを求め、一般に輪作の方法を採用したり。猶ほ此の多種農作は千八百七十三年に於ける穀物及ひ家畜の價格の大暴落に依りて一層奬勵せられたり。其の後に於ても時々此くの如き誘因あり、殊に千八百九十三年より九十六年に亘りて著しかりき。又南部諸洲に於ては棉花相場の下落に依りて農業上の變化を生じ、農產物の交易を奬勵すると俱に煙草の栽培を盛んならしめたり。但此の傾向は千九百三年に於ける棉花の騰貴に依て事實上中止せられたり。東部地方は一

般に地味良好ならず到底西部地方の沃地と競爭するに堪えざるものゝ如し。

多種なる農產物中穀類に就て最も多量の產出あるは玉蜀黍、小麥、及ひオート麥にして次は大麥、ライ麥、蕎麥及ひ米とす。其の他馬鈴薯、砂糖、亞麻實、枯草等も著しき產額に達せり。最近に於て棉花の產出價格は一ヶ年四億二千萬弗に上り煙草は五千五百萬弗に家畜の總價格は三十億弗に達したり。其の他野菜、果實、羊毛乾酪類等の產出額も頗る多大なり。要之米國は實に世界の食料品の寶庫たるが如き觀あり。

機械使用に因る發達

米國は其の領域廣大なるに依り新に開拓すへき餘地甚多く、之れがため却て農業の進步を阻礙したり。然れども較近農作に改良機械を使用するに至りて大規模の收穫を擧くることを得たり、殊に此の機械の使用は農業上勞力の欠乏多きに因り一層鼓舞せられたり。今日米國の農業に一大革命を與へつゝあるものは自働犂（セルフ、プラウ）なり、此の機械は石油發動機に依て運轉せられ十二吋の深さに土地を堀ることを得へく、加ふるに鍬の代用をなし地面を平均（ナラ）し又播種に使用することを得而して今日農家に於て此の機械を使用する者は從來に費し耕作費

の四分の一を減することを得ると謂ふ以て其の効力の大なるを推知すへし。

此くの如く農業に機械を使用するに至て土地の生産力を增加し、今や米國の農業は日進月歩の勢に在り。千八百五十年に於て米國の農産物は國民に食物と衣服の材料とを供したるの外殘餘の少額を海外に輸出するに過ぎざりしが、此の年頃より耕地は人口よりも比較的長足の進歩をなし、爲めに國民の需要以上に多大の剩余を生して多額の農産物を輸出しつゝあり。

耕地の大小

耕作方法の改良と俱に沃地の開墾せらるゝもの多く耕地は年を逐ふて益增加しつゝあり。然れとも各耕地の大さは時によりて增減あり、千八百七十年以降九十年頃迄に各耕地の平均面積は從前よりも減少したり、是れ僥倖を企圖して開きたる土地が漸次廢滅に歸したることを示すものなり。而して千八百九十年以後に至ては耕地の大さ再び增加しつゝあるの勢なり。此く耕地の大さに增減あるは主として各地方が其の土地に適當したる農業を奬むるに依るものとす。猶一歩を進めて論すれば耕地の大さは一定の資本を有する農夫が之れに依りて最大の收益を擧け得る面積に近つきつゝあるものなり、隨て最初其の資力以上の大耕地を有したる者は損失の結果耕地の面積を縮少して資力に相應する程度に於て農作を營むに至るへし。是れ蓋し原始的産業が最小の勞力を費やして多大の結果を得るに在る事を證明するものなり。今千九百年度の統計に依りて米國に於ける耕地の大さを見るに百畝（エーカー）以上のもの最も多し、即ち左の如し。

百畝以上五百畝以下	二、二九〇、二八二（一畝は凡そ四反二十歩）
五十畝以上百畝以下	一、三六六、〇三八
二十畝以上五十畝以下	一、二五七、四九六
十畝以上二十畝以下	四〇六、六四一

而して全國に於ける耕地の總數は五、七三七、三七二なり。之れを英國若くは獨逸に於て二十畝以下の耕地が最も多數なるに比較すれば、米國の農業は、大農組織に於て行はれつゝあるものなり。

以上要するに米國の農業は諸列強の上に嶄然として頭角を現はすものなり。

第二項　英國の農業

英國農業の振はざる理由——農業改革の趨勢

英國農業の振はざる理由

英國農業の振はざる理由

米國に於て農業は自然に偉大なる發達を遂けたれとも、英國に於ては他の産業の附隨的事業として發達したり。是れ即ち英國人が商工業を過重して農業を忽せにしたるの結果なり、即ち今日英國に於ける職工の數は農夫の五倍なりと云ふにて其の大勢を察知することを得へし。抑英國の農夫は國内に大なる市場を有すれとも其の地代の高きと運送賃及び肥料の不廉なると農業が舊風を脱することとを得ざるとに依り大に其の進歩を阻礙せられつゝあり。元來英國の市場に於ける農産物の價格は英國の農夫に取りては廉價に過きたり、是れ輸入品の廉價なるに依るものにして國民一般には甚幸福なれとも、農業者は爲めに空しく生産費に苦しめられつゝあるの狀態なり。要之英國の農夫は外國と競爭するに當りて大なるハンヂキャップを附せられたるものゝ如く、萎微として振はざる所以なり。

英國に於て政府が保護政策を採りたる時代に於ては、穀物法の如き法律を發布して廉價なる農産物の輸入を禁遏し以て其の農業の衰頽を保護したることありたれとも、人爲の政策は到底事業の衰勢を救治する事能はす。殊に今日に於ては米國を始めとして他の諸國が汲々として農作の方法を改良しつゝある國も拘らず、由來農業を閑却しつゝある英人は農作上に十分なる改良を施すことなく、又自由貿易制度を採用したるの結果獨逸に於けるか如く關稅制度に依て外國の競爭に對し國内の農産物を保護すること全く之れなきを以て、英國の農業は内外倶に不利なる形勢に在るものと謂ふべし。

農業界改革の趨勢

要之今日英國の農業界に於て内は地代、運賃及ひ肥料等總て不廉に、勞働者も亦不熟練にして科學的の耕作法を缺き、加ふるに重稅を賦課せられつゝあり、而して外は廉價なる外國品と競爭せさるべからさるを以て到底盛運に向ふの望なし。（沿革編參照）

是に於て英國の農業界に改革意見を提供するものあり、其の說に曰く

『要するに英國農業の將來は牧畜と野菜市場とに依賴せざるへからず、後者中特に馬鈴薯の産出を多望なりとす。又牧畜業は最も重要なれともチーズ、バター等の製造事業は寧ろ發達の望なし。今や英國に於ては機械の使用及

ひ小麥の自由輸入其の他社會上種々の原因に依り、人民を驅りて都會に移住せしめつゝあるを以て、都會の多數の幼者に向て其の極貧者にも得らるゝ如く廉價にして且善良なる牛乳を十分に供給することは、國民の將來に取りて最も重要なる問題なり、是れ牧畜業が大に奬勵せらるべき所以なり云々』

亦一說と謂ふへし。英國に於ては識者の間に此くの如き議論あるのみならず、實際上牧場の擴張及ひ家畜飼養法の改良等は人口集中の勢と俱に盛に進捗しつゝある所の運動なり。

一般の狀態

然れとも英國に於ける農業の衰頽は自ら公私收入の財源を枯渇せしめ、意外の影響を國家に及ほしつゝあり。由是觀之農業は產業の基礎にして之れなくしては國民の生活危殆に陷るへきこと明瞭なり。

第三項　獨逸の農業

一般の狀態——農業に關する製造業——耕作法の改良——農業制度

獨逸に於て生產力ある土地は總て耕作せられ牧場も亦多きに依り、全國の不生產地は百分の六に過きず、其の他森林が百分の廿五を占め、殘餘は悉く生產地なり。然れとも、農業者の數は總人口の半ばに達せず一旦農業に從事したる者も近來は轉して製造業者界に入りつゝあり、隨て農夫たりし者にして都會に移住する者甚多く、加ふるに一旦兵役に就きたる青年は都市生活に慣れて田舍の職業に歸へることを欲せざるに依り、農業は勢其の影響を受けざるを得す、故に其の農產物は英國に於けるが如く國民の需要を充たすに足らすして其の一部を外國に仰きつゝあり。猶又製造事業の發達は勞力の需要を增加し、勢農事勞働者の賃金を騰貴せしめたりしが、其の弊を避くるため機械の使用を鼓舞し恰も米國に於けるか如く禍を轉して福となすの手段を講しつゝあり。

農業に關する製造業

農產物に關する製造事業は獨逸に於て又盛に行はる、即ち馬鈴薯より酒精を製し、大麥より麥酒を製し、甜菜より砂糖を製するか如き是れなり。而して其の結果食物として農產物の產額は益人口の劇增に伴ふこと能はざるに至れり。

耕作法の改良

獨逸の農業界に於ける重要なる問題は如何すれば生產費を增加せずして收益を增すことを得るかに在り。而して近來獨逸人は農事の改良に熱心して科學的の耕作法を採用し、熟練なる排水法を行ひ、種子を改良し、循環收穫法を實行

農業制度

したるに依り、過去數年間に於て長足の發達を遂くることを得たり。

獨逸の農業は其の初め舊式なる村落耕作の制度に依て行はれしが機械の輸入と人口集中の運動とは此の舊制度を打破したり。即ち當初機械が輸入せられたる時に於ては機械に對して助手たるへき者割合に多く、爲めに多額の運轉費を要して機械の効用も半は沒却せられしが、都會に於ける製造業の發達と俱に人口集中の運動生じたるに依り、此の弊害は初めて除去せられ機械は其の十分なる効果を表はすことを得るに至れり。此の機械使用の結果小耕地は漸次併合せらるゝの形勢を來したれとも、之れか爲め小地主に恐慌を及ほすことなく、協同的に新制度を發達せしめつゝあり。

第二節　林業

木材は容易に人類の需要に應して種々の用に供せらる、隨て森林は國民の繁榮に欠くへからざる自然の材料なり。或る著者は之れを『吾人に附與せられたる天惠の現金なり』と云へり、至言と謂ふへし。然るに世人多くは其の供給の普

米國の林業

ねきに依り却て之れを重要視せず、濫りに之れを伐採して其の供給及び水源に關する重大なる問題を惹起するに至りたり、是に於てか林業に關して廣く世人の注意を惹くの甚緊要なるを見る。

第一項　諸國の現況

米國の林業——獨逸の林業——英國の林業

米國の林業の現況を觀察するに、此の事業も亦米國に於ける例に依り三大産業國に就て林業が如何に盛大なるかは、或る著者が此の國に於て最も盛なり。米國に於ける林業の價額を計算したる所により甚明瞭なり、同時に又之れに依て林業の如何に重要なるかを知ることを得へきに依り、左に之れを援用すへし。

『米國に於ける鑛産物の總價額に石塊及び石油の産出價額を加へ、猶之れに汽船帆船を初めとして米人に屬し米國の領水を通航する總ての船舟の見積價額を算入するも、木材の産出價額に及ばざること遠く、其の殘餘の價額を以て猶米國の諸運河の開鑿費を償ひ、電信會社の株式と其の債券を悉く購買し、總ての電話線を新に建造することを得へし。又毎年産出する木材の價額は

國中の鐵道其の他の運輸會社の總收入に勝り、公債に關して比較すれば紐育、ペンシルヴァニヤの二州を除き他の各州の負債は市町村學區等のものを併せ總て之れを償却することを得へく(一八八〇年度)、又米國の公債を全部償還することを得へし。而も產出價額を以て論すれば製造業及ひ農業は順次第一第二に位し、林業は第三位に在り云々』

千九百年度に於て全國木材の產額は無慮十億三千萬弗と稱し、最近の調査に依るに米國の森林地は殆んと百万平方哩に亘り全國の總面積の三分の一弱に當れり。而して林地の三分の二は東部及ひ南部地方に在りて殘余はロッキー山脈及ひ太平洋面の地方に存す。今日米國の產業中林產は第四位に位し、第一製鐵業、第二織物業、第三製肉業、第四林業と云ふ順序なり。以て林業の盛大なるを知るへし。

獨逸の林業

此くの如く米國の林業は非常に盛大なれとも獨逸及ひ英國は到底其の比にあらず。獨逸の森林は帝國全面積の殆んと四分の一を蔽ひ、其の大部は南部の高地に在り。而して各聯邦政府は森林保存の目的を以て嚴重なる監督法を制

定し、科學的經營法に依て其の消耗を防止しつゝあり。而も猶供給は需要を充たすこと能はすして樫、黑胡桃等の如き木材の輸入せらるゝもの甚多し。

英國の林業

英國は第一の舊國なるたけ最も木材に欠乏し、今日內國產の木材は殆んと市場に其の跡を絕ち、其の供給は之れを米國、瑞典、露西亞、加奈太、獨逸及ひ亞弗利加等に仰ぎつゝあり、隨て車輛、家具、紙、家屋等に使用せらるゝ材料は殆んと全く輸入品なり。唯英國は商船國として宇內獨歩の地位を占め、海上運輸の便多きに依り、幾分か木材欠乏の急を救ふに足れり。

產林業の區別

第二項　生產の方法

產林業の區別——(一)伐採事業——(二)木挽事業

產林事業に三段の區別あり。第一伐採事業、第二木挽事業、第三製造事業是れなり。第一は林地に於て行はれ樹木を伐り出して之れを工場に運搬するまでの事業を包含し。第二は多く鐵道の中心地に於て行はれ、木材を一定の長さに切り種々の製造材料たるへき角材若くは薄板を造るものとす。第三は即ち仕上け事業にして家具、裝飾品其の他種々の器具を製造するものなり、故に此の最

後の事業は寧ろ製造事業に屬し、本章に於て論ずへきは第一第二の部門なり。

(一)伐採事業

第一伐採事業に就ては一年中に時期の適否あり、或る地方に於ては冬季積雪野を沒し大に運搬を助くるに依り、多く嚴冬に於て伐採せらる。米國に於て太平洋沿岸地方は此の事業終歲進行し、且其の方法も甚大規摸に行はれつゝあり。次に伐り出したる樹木は之れを工場に運搬せざるべからず、運搬の方法に種々あり、牛馬車輛等に就ては論するまでもなく、大規摸の運送機關としては、鐵道と河流とを擧示すへし。河流は主として林地より都會に至る木材の運送に利用せらる、米國に於ては既に疾やくよりブーム會社なるもの設立せられ、上流より流されたる木材を集めて之れを陸上に引上くることを營業となしつゝあり。此の爲め或は河流を堰止めて其の水量を增加せしめ木材の流下に便することあり。鐵道は又木材運搬の主要なる機關なれとも、伐採事業の行はるゝには多くは交通不便なる僻遠の地方なるに依り、其の輸送は鐵道よりも寧ろ河流に依る場合多し。然れとも林業の進歩するに從ひ其の産地は益遠隔不便の地に入るを以て、輕便鐵道其の他種々の方法に依て輸送の途を圖りつゝあり。斯くして

(二)木挽事業

工場附近に送致せられたる木材は、起重機其の他の機械に依て積換へられ工場に運搬せらるゝものとす。

第二の木挽事業は木挽工場に於て行はれ、茲に林業の偉大なる狀況を目睹することを得へし。其の河流の附近に建つものに在ては、先つ河中の木材を鏈索にて曳上け、ニッガー(nigger)と稱する機械にて之れを卷きて容易に車に積入れ、鋸輪機に懸けらるゝものとす。是に於てか全く驚くへき機械の活動を示し、粗雜なる木材は瞬間に一變して或は角材となり或は薄板となり、次に自働裝置にて引出されて自然の乾燥に委せらるゝものとす。此くの如きは最も進歩したる木挽工場の狀態を示したるものにして、其の方法單純なるが如くなれとも其の實事業は頗る複雜なり、故に工場の位置及び設備の不完全なるため失敗したる例證に乏しからず。米國に於て此種の事業は普通一年中六ヶ月若くは八ヶ月間に亙りて晝夜間斷なく行はれ、其の完備したる工場に於ては二十四時間内に八十萬平方呎の木材を產出するものあり。

此くの如くにして產出せられたる木材は、卸賣商若くは小賣商の手を經て需

要者に供給せらるれとも、多くは木挽業を營む木材會社にて自ら販賣に從事し、以て生産と賣却との利益を幷せ得つゝあり。

第三項　林政

林政の發端——二樣の制限——森林保護の必要——林政の二大目的

林政の目的は主として林地の保存に在りて、其の施政の擧かると否とは國家經濟上に影響する所廣くして且大なり。抑林業者は未開地に於ける人民の先驅にして、翁鬱たる樹林を開いて此處に農業者を導くものなり。故に徃昔彼等に就て何等の慮る所なくして樹木を伐採したりしが、續いて農業者が斷株を堀りて農作を營む時代に至り、木材に關する需要も亦隨て增加し、茲に初めて林政の必要を感するに至れり。

森林の發達に二樣の制限あり、一は木材に對する需要の增加にして、二は農業上より來る所の原因なり、即ち耕地の開くるに從ひ森林は漸く農作に適せざる地方に驅逐せらる事是れなり。

林業の一特質は其の原料の制限が他の產業よりも一層大なる點に在り、即ち

樹木は五十年百年を經或は幾百千年の星霜を閱して初めて有用なる材料となるものなるに依り、濫伐の弊は此の事業の絕滅を意味するものなり。是に於てか材料の保存上林業を監督するの必要あるのみならず、濫伐の結果水分に對する土地の吸收力を失はしめて平常は水源を涸渴し、雨期に際しては洪水の災厄を來し、爲めに土砂を流下して農業上に非常の慘害を及ぼすものなり。是れ即ち林政の必要なる所以なり。今日獨逸の林業行政は最も發達して林地の保護に努めつゝあり、米國に於ても亦濫伐の結果近來大に材料の消耗を來したるに依り、漸く森林保護の必要を認むるに至れり。

林政の二大目的

是に於て林政の目的に二あり、一は有用なる材料の產出を目的とし、二は其の天然狀態の保存改良を目的とす。而して此等の目的を達する爲め、或は伐採を制限し或は植樹を奬勵しつゝあり。此くの如くにして森林を保存助長するの結果故二重の利益を生ず、即ち一は木材の供給を絕えざらしめ一は天侯と地味とを保全して農業の進步を助くるものとす。

第三節　鑛業

第一項　諸國の現況

鐵及石炭——製鐵事業と運輸業

森林が地上に於ける天與の財寶なりとすれば、鑛物は即ち地下の財寶なり。金銀銅鐵を初めとして鑛物の種類甚多く、史上に於てはカリフォルニヤ及び濠洲に於ける金鑛の發見（前者は千八百四十九年後者は千八百五十一年）等經濟界を震動したる大事件あり、此等に就て論ずべきこと頗る多けれども、茲には產業界に最も重要なる鐵及び石炭につき、三大產業國の現況を略叙すべし。

鐵及び石炭

(一)英國

英國は諸國に先んじて其の鐵及び石炭を產業上に利用したり、而して此の國に於ける鐵と石炭とは其の產出地相接近して兩者相待て事業の發達を來したるのみならず其の產地が海港の附近に在りしことは輸送上至大の便宜を得たる所以なり。ダルハム及びノーサンバーランドの石炭坑はタイン河口に跨り、炭業中最も早く發達したるものなり。而して此の炭坑の南端にクリーヴラン

ドの鐵山あり。又其の背面にはカンバーランドの炭坑ありて多くの海港に近接し、猶サウス・カンバーランド及びノース・ランカシャイアの豐富なる鐵坑に隣接せり。其の他英蘭の中央部及び南部地方を通して石炭及び鐵の產出多く、蘇蘭も鐵に富みて其の石炭坑は海港の附近に存在せり。千九百三年に於ける合衆王國の生鐵の產額は八百九十萬噸此の價二千六百萬磅に上り、國中に三百五十の製鐵所を有せり。而して石炭は二億三千萬噸其の價額殆んど九千萬磅に達したり。

(二)獨逸

獨逸に於て重なる石炭坑はライン右岸のルーエ、ラインランド及びロートリンゲンのザール、索遜原野及び上下シレシヤ等に在り。鐵はウェストファリヤ、ライン縣、アルサス・ロートリンゲン、上シレシヤ、ナッサウ、ヘッセ、ダルムスタット及びチューリンゲン等に在り。全國に於ける製鐵所の數は百ケ所に上り、其の事業は石炭坑に近くして且つ海上輸送の便多きルーエ地方に於て盛に行はる。千九百二年に於ける生鐵の產額は八百五十二萬メトリック噸此の價四億五千五百萬馬克に上り、石炭は一億千六百萬メトリック噸に達したり。

(三)米國

製鐵事業と運輸業

米國に於ては鐵及び石炭俱に各地に産出し、隨て鐵の産地が其の燃料の産地に遠かること、あれども、此の國に於ける運輸事業の發達は此の不便に打勝ちつゝあり。米國に於て鐵の豐富なるはスーペリオア湖沿岸地方にして、マルクェット、メノミネー、ゴゲビック山及びヴァーミリオン並メセーブ山脈の四大鑛區あり。其の他東ペンシルヴァニヤ、西ニュージェルセー、アラバマ、テンネッシー、ミゾリー及東部紐育等にも重要なる鐵鑛あり。製鐵事業は主としてペンシルヴァニヤに於て行はれ、此處に多數の大工場を有す。千九百三年に於ける生鐵の産額は千八百万噸(long tons)此の價額三億四千四百万弗に達したり。石炭は又中央部より東部地方に亘りて廣く産出せられ、千九百三年に於て二億八千二百万噸(short tons)其の價額三億五千餘萬弗に上りたり。

前述の如く英國に於て鐵と石炭とは相接近して産し且海上運輸の便も自由なるに依り、製鐵事業に關する運輸問題は發生せざれども、獨逸及び米國に於ては斯かる便宜尠きに依り製鐵事業上運輸問題が甚重大なる關係を有す。獨逸に於て例へは製鐵所より百五十哩の距離あるアントワープ埠頭まで一噸八十二仙の割合にて鋼鐵を運搬すれども、之れを米國の進歩したる輸送の狀態に比較すれば到底同日の談にあらざるなり。米國のスーペリオア鐵山地方に於ては蒸氣機械を以て鐵鑛を堀出すや直ちに之れを貨車に積込み、一時間に能く五十輛を發せしむべし。而して其の採鑛費は一噸十仙乃至四十仙なり。此くの如くにして鑛坑を出でたる鐵鑛は忽ちにして附近の港に輸送せられ、二三時間にして大汽船に積込み、其の荷揚港に着するや機械を以て此の重量ある荷物を貨車に移し、直ちに百哩以上を距る製鐵所に送致せらるゝものとす。而して此かる輸送手段は毫も間斷なく迅速に處理せられつゝあるなり、以て其の制度の完備せるを推知すべし。

第二項　生産の方法

採鑛術の發達

採鑛術の發達——鑛物集取法——冶金術

金屬に對する社會の需要が增加するに從ひ、採鑛術と冶金術とは勢大に發達せざるを得ず。採鑛術に就て觀察すれば、採堀法を初めとして、鑛物の引揚げ其の他の取扱方法、坑內の排水法、鑛物の運搬法、坑內支柱法、防火法等皆著しく進歩

したり。其の他換氣法の如きも大に發達し、鑛坑が地下深くに達するに從ひ、水及び鑛物を引揚ぐるに大組織の引揚機械と唧筒とを備ふるに至れり。隨て採鑛費は年を逐ふて益增加したれども、此の出費は產額の增大、鑛物取扱法の改良、鑛業組織の發達及び機械の應用等に依り取除かるゝことを得たり。

鑛物集取法

採鑛術の一部として鑛物集取法なるものあり、そは鑛物を碎きて純粹なる分子を集取するの方法なり。之れを行ふには或は舊式の方法に依て鐵槌にて破碎し、或は新式の機械を用いて容易に鑛物を碎き、然る後水を流下して比重の力に依り岩石より金屬を分離するものとす。猶水の代りに空氣力若くは電氣を應用して金屬を分解することあり。

冶金術

廣く冶金術と云ふときは鎔鑛法と化學的分析法との二種あり。鎔鑛法は即ち鑛物を熱して純粹の金屬となす方法にして、鐵鑛に就て云へば、先づ鑛物を百呎以上の高さある通風爐に容れ、爐内には鑛物とコークス及び石灰を充塡し之れに熱氣を送りて高度に熱すれば石灰は鐵鑛と溶化して鐵滓を生じ其の下に純粹なる鐵を產するものとす。次て此の純粹なる溶鐵を金屬製の模型に入れ

(一)鎔鑛術

て初めて鋼鐵を製することを得べし。鋼鐵製造の方法は既に論じたるが如く有名なるベスマー氏の發明に係り、要するに溶鐵に冷氣を通して鐵分中に含有せらるゝ炭素を燃燒せしむるに依て成さるゝものとす。

(二)化學的方法

化學的方法に依て金屬を抽出するは重に金の產出に就て應用せらるゝ方法なり。此の方法中冶金學上最も廣く行はるゝものは、千八百九十年にマッカーサー及びフォレスト兩氏の發明したる分折法なり。此の方法は藏化剝篤臾母(potassium cyanide)の弱溶液に金分を入れ、亞鉛又は電氣にて沈澱せしめて純粹の金を得るものとす。此の方法は少量の金を含める鑛物に適用して十分有利なるものなり。

第四節　漁業

漁業の現況——漁業に附隨する事業

吾人は猶一つの原始的產業を餘せり、即ち每日吾人の食膳に供せらるゝ水中の產物に關する漁業是れなり。

漁業の現況

漁業は米國に於て最も盛大にして獨逸に至ては殆んと見るに足るへきものなし。米國に於て漁業に從事する者二十萬人以上に上り、鮭鱒、青魚、鯡等の漁獲夥しく、其の一年の産出價額は五千萬弗に上り、魚類に關する製造事業も亦盛に行はれつゝあり。

漁業を大別して淡水漁及ひ鹹水漁とす。就中重要なるものは鹹水漁業なり。世界中鹹水漁業が最も盛に行はるゝは歐米兩大陸に近き北海、米國の東部沿岸、地中海、北米大陸の西岸よりベーリング海に至る間等とす。而して其の主要なる産物は米國沿岸に於ては鱈、鯡、鮭鱒とし、歐洲沿岸に於ては青魚、鮪、鰛、鱈等とす。

今日各國は沿岸三浬以内を國民の漁業に保留し、此の範圍外の漁業を世界に開放せり。而して遠洋漁業は沿岸漁業に比すれは多大の資本と設備とを要し、産業中最も冒險的の事業と稱せらる。而して漁獲の結果魚類の減少するに從ひ或は其の種族を滅ほし或は益遠洋に向ふの必要ありて、漁獲物の價格も亦隨て騰貴しつゝあり。是に於て各國倶に法律を以て魚類の蕃殖を保護すると同時に魚類及ひ牡蠣等の養殖事業は年を逐ふて益發達しつゝあり。

漁業に附隨する事業

漁業に附屬する事業として鑵詰法、燻製法、鹽漬法及ひ冷藏法の如き近來長足の發達を遂けたり。就中米國に於ける鑵詰業及ひ佛國の鰛の燻製業の如き有名なるものなり。又冷藏法の發達に依て魚類は新鮮なる狀態にて市場に供給せられ、爲めに內地に於ける鹹水魚の販路を擴張することを得たり。其の他魚類を基礎とする魚油及ひ肥料の製造事業の如きも漸次進歩しつゝあり。

利益遞減の趨勢

第五節　事業經營上の大勢

利益遞減の趨勢——其の救濟策——獨占經營の發達

原始的産業界に於て人類が自然に依賴するの程度大なるたけ益自然の勢力に壓迫せられつゝあり。即ち農業界に於ては土地の生産力の減退に對して益耕作の方法を進捗せしむるの必要あり、林業界に於ては林地の減縮と倶に益伐採費及ひ運送賃を增加し、鑛業界に於ては鑛坑は絕えす其の深さを增して引揚け及ひ排水の費用を增加し、最後に漁業界に於ては益遠洋に出漁するの必要ありて漁獲費の增加を來しつゝあり。要するに此の種の産業は漸次生産費に對

する報酬を減し、經濟學上の所謂利益遞減の原則(Law of Diminishing Returns)を明かに示しつゝあるもの也。

此くの如く利益遞減の法則は產業上に重大なる負擔を課しつゝあれとも、一方に於て人類は此の負擔を輕減することを怠らず。即ち發明と發見の手段に依て或は生產の方法を改良し或は運輸の機關を完備し、其の他產業の組織を改革して生產費の減少を圖りつゝあり。隨て機械の使用盛なる鑛業界に於ては採堀の費用に比して著しく產額を增加したれとも、鑛業者が採堀費の增加に苦しみつゝあるの例證は曩に無煙炭を燃料に使用したる者が今は一層下等なる石炭を使用しつゝあるを以て明かなり。殊に林業及び漁業に於ては利益遞減の勢一層甚しく、一は植林法に依り一は漁場の監督に依て僅かに事業の衰頽を防きつゝあるの有樣なり。農業に就ては耕作法の改良を圖るの餘地尙多きに依り、今後益其の利益を增加することを得へきも、結局一定の土地の生產力には一定の制限あるを免かれさるなり。

是に於て生產費を減して其の收益を大ならしむるには大規摸の經營を必要

とし、且生產の調和を圖るには事業の合同を利とするものあるに依り、晩近獨占經營の事盛に行はるゝに至れり。原始的產業界に於て農業は獨占經營を困難とする唯一の產業にして、其の他は皆獨占的に經營さるゝの傾向を示しつゝあり。此の獨占業は原產物の供給に制限ある場合殊に地理的制限の大なる場合に團體經營を必要として發生す。然り而して所有權に依る獨占業の發達は一國交通機關の進步に竢つもの甚大なり、蓋し如何に物資の產地に制限あるも、其の產地が各所に散在する場合に、鐵道其の他輸送の機關にして完備せずんば到底獨占業を成功することを能はざればなり。然れとも林業及び鑛業の如き、純然たる所有權に基く獨占業を發生せざるまても、其の收益の共通に依て獨占經營の方向に近つきつゝあり。獨逸に於ては近來天產物に對する個人の經營を防止するの政策行はれ、幾分か政府の成功に歸したり、殊に森林及び岩鹽の國有に於て著しき成績あるを見る。米國に於ては國民の特色として個人經營の獨占業が大に發達したれとも、近來此かる獨占事業に對して一般に危虞の念を抱くに至れり。

第二章　運輸業

第一節　總論

定義——運輸事業と産業社會——市場の開發——仲買所の繁昌——三大國に於ける運輸機關の基礎

定義

天産物を製造地に齎らし製造品を市場に送致するには運輸機關の設備を必要とす、運輸事業とは即ち産業社會の一方より他方に經濟貨物若くは人間を輸送する行爲にして、産業社會活動の主要なる原動力なり。此の事業が間斷なく行はるゝに至り産業社會は初めて結合せられ且つ開發せらるゝものなり。

運輸事業と産業社會

近世に於ける運輸事業の發達は其の進歩したる社會組織及び産業組織を代表する好適例にして、地方的分業は之れに依て著しく奬勵せられ、遂に現今に於ける産業の集中及び其の專門的分化の大勢を釀成するに至りたり。此の事は生産に對する運輸機關の關係を説明すれは一層明瞭なり。即ち玆に鐵を産出する地方ありとして、此の地に製鐵事業を發達せしむるには勢燃料として石炭

の需要を生じ、石炭の産地と鐵の産地との間に運輸機關の設備を必要とす。而して製鐵事業は如何に大規摸に行はるゝも其の産物を他の事業の中心地に分配する輸送の機關にして備はらずんば、事業は到底盛運に向ふことを得ざるべし。以て運輸事業の重要なる所以を知るに足らん。

市場の開發

運輸事業は又市場を開發する原動力なり。原始の時代に於て人民は原料の産地に散在したりしが、社會の進歩するに從て製造地に人口の集中を來したるは偏に運輸機關の發達に基因するものなり。即ち運輸機關の發達するに從て自然的の地の利を減して、人工的生産上の地の利が勝利を占め、生産業は原料の産出地より他の製造中心に移動しつゝあるものとす。

運輸事業は此くの如く製造地を開發すると同時に市場を擴張して貨物の需要に大なる影響を及ぼすものなり、即ち之れに依て製造品は其の搬出の途を得て、一地方に充滿したる貨物は容易に他の需要地に輸送せられ、各地の市價は平均を保つことを得べし。猶小資本の商人は運輸機關の完備に依て附近の都會に在る大商人より容易に物資を仰くことを得るに依り、前者は後者の代理店と